# 参与の会報告書

令和6年6月21日(金) 独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校

# 目 次

1.	参与名簿・・・・・・・・・・・	1
2.	参与の会規則・・・・・・・・・・・	2
3.	参与の会日程表・・・・・・・・・	4
4.	出席者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
5.	参与の会議事・・・・・・・・・・・	6
6.	事前質問に対する回答・・・・・ 3	4
7.	令和5年度自己点検評価書(添付資料)	

# 1. 参与名簿

氏 名	役 職 名	備考
古波津 昇	沖縄県工業連合会会長	第1号委員
野底武浩	沖縄職業能力開発大学校長	第2号委員
名嘉村 盛 和	琉球大学工学部長	会 長 第3号委員
砂川昌範	名桜大学長	第3号委員
宮 城 浩 二	名護市地域経済部長	第4号委員
新地康秀	沖縄県中学校長会会長	第4号委員
長 嶺 さおり	内閣府沖縄総合事務局経済産業部長	第5号委員
松永享	沖縄県商工労働部長	第5号委員

# 2.参与の会規則

# 沖縄工業高等専門学校参与の会規則

平成17年11月 1日 規 則 第 1 2 号 改正 平成19年 3月30日 規 則 第 3 号 平成27年 2月18日 規 則 第 5 号 令和 6年 3月21日 規 則 第

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校学則(平成16年学則第1号)第6条の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校参与の会(以下「参与の会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 参与の会は、沖縄工業高等専門学校(以下「本校」という。)の管理運営、教育研究 活動等の状況について評価、助言又は勧告を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を 支援することを目的とする。

(任務)

- 第3条 参与の会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について外部評価を実施する ものとする。
  - (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画等に関する事項
  - (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
  - (3) その他本校の管理運営に関する事項

(組織)

- 第4条 参与の会は、高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有し、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の参与をもって組織する。
  - (1) 経済・産業界の関係者
  - (2) 技術者教育関係機関の職員又は経験者
  - (3) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員又は経験者
  - (4) 本校の所在する地域の関係者
  - (5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

(任期)

- 第5条 参与の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

- 第6条 参与の会に会長を置き、校長が指名する。
- 2 会長に事故等があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

(運営)

- 第7条 参与の会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。
- 2 会長が必要と認めたときは、参与以外の者を会議に出席させ、意見を聴取することができ

る。

(事務)

第8条 参与の会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参与の会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年11月1日から施行する。

附 則(平19.3.30規則第3号) この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平27.2.18規則第5号) この規則は、平成27年2月18日から施行する。

附 則(令6.3.21規則第6号) この規則は、令和6年4月1日から施行する。

# 3. 参与の会日程表

目	時		令和	16年	Ĕ <b>6</b> )	月 2	1 日	(4	金)	1	0	: (	0 0	~1	2	: 00
場	所		• • • •			等専  ン会			-	デ	<b>゚</b> イ	アオ	東 2	階	会翻	養室
会 次	第															
	(2) (3) (4) (5)	校参高意	会拶介を換える おりょう きょう きょう おうしょう おうしょ おうしょ きゅう かんしょう かいかい かいしょう かいしょう はいい かいしょう はいい かいしょう はいい かいしょう はいい かいしょう はいいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい は	、 及て なり着			席者	'紹〉	介							
配布資	資料															
	1	沖縄	工業	髙等	專門	月学村	交参	与《	り会	•						
			会次										•	1		
		2.	出席	者名	簿	• •	• •	•	• •	•	•	•	•	2		
			座席				• •	•	• •	•	•	•	•	3		
		4.	参与	の会	親見	<b>∭•</b>	• •	•	• •	•	•	•	•	4		
	2	令和	15年	度自	己点	は検討	評価	書								
	3	事前	i質問	に対	ける	5回	答									
	4	沖網	工業	高等	專門	<b>『学</b>	交	2 0	2	3	学	校!	要鸗	Ė		
	⑤	学生	生活	の手	引き	<u>*</u>	令和	5 <sup>4</sup>	<b>下</b> 度	•						

# 4. 出席者名簿

# 〇 参与出席者

氏 名	役 職 名	備考
野底武浩	沖縄職業能力開発大学校長	第2号委員
名嘉村 盛 和	琉球大学工学部長	第3号委員
砂川昌範	名桜大学長	第3号委員
新地康秀	沖縄県中学校長会会長	第4号委員
長 嶺 さおり	内閣府沖縄総合事務局経済産業部長	第5号委員
砂川健	沖縄県商工労働部産業雇用統括監	第5号委員 (松永商工労働部長の 代理出席)

# ※ご欠席

古波津  昇	沖縄県工業連合会会長	第1号委員
宮 城 浩 二	名護市地域経済部長	第4号委員

# ○ 沖縄工業高等専門学校出席者

氏 名	役 職 名
佐藤貴哉	校長
眞喜志 治	副校長(教育改革担当)
山田親稔	副校長(教務・入試担当)
神 里 志穂子	副校長(学生・キャリア支援担当)
安里健太郎	副校長(寮務担当)
高良秀彦	副校長(研究・産学連携担当)
田中博	副校長(国際交流担当)
奥那嶺 尚 弘	副校長(IT担当)
亀 井 耕 治	副校長(総務担当)・事務部長
伊 東 昌 章	令和 5 年度副校長(研究・産学連携担当)
金城伊智子	評価対応委員会委員長
齋藤洋史	総務課長
髙江洲 哉 子	学生課長

# 5. 参与の会議事

# (1) 開会(齋藤総務課長)

(齋藤総務課長から、沖縄工業高等専門学校参与の会の開会を宣言した。)

## (2) 校長挨拶(佐藤校長)

(佐藤校長から、参与の会開会にあたり挨拶があった。)

# (3) 参与紹介及び本校出席者紹介(齋藤総務課長)

(齋藤総務課長から、参与及び本校出席者の紹介があった。)

#### (4) 高専を取り巻く状況

#### ○名嘉村会長

どうもありがとうございます。それでは早速、議題に入りたいと思います。なお、今回 の参与の会につきましては、お配りした資料と本日の議事録を含めて報告書とさせてい ただきます。それを公表することとしておりますので、あらかじめご了承願います。

始めに、学校側より「高専を取り巻く状況」についてお話し願います。今回は佐藤校長より概要を説明した後、5名の副校長の先生方からそれぞれ紹介があることになっております。それでは佐藤校長、よろしくお願いします。

#### ○佐藤校長

では、10 分ほどを使って、高専全体についてご説明したいと思います。そちらのスライドと、あとお手元に iPad があるので、そちらをご覧いただければと思います。

先ほども申し上げましたが、平成 16 年に第1期の学生を受け入れて、昨年は創立 20 周年を迎えましたが、創立当初からここに示しますように、4学科の工学系の学科が設置されております。機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の4学科になりまして、設立当時は IT 革命の真っただ中ということもあって、1つの高専の中に2つの情報系の学科が創設されました。全国の高専の中でも、2つあるところというのは珍しいケースになります。当初から情報通信に力を入れてきたということと、あと生物資源工学科がありますが、この学科は沖縄の特徴的な生物資源を有効活用しようということで、生化学といいますか、ライフサイエンスの方向に寄った教育・研究を行うということで設置されております。機械は工学のベースになるということで、モノづくりの根本でもありますので、機械システム工学科が設置されたということで、セノづくりの根本でもありますので、機械システム工学科が設置されたということで、1学科、1学科40名の160名が1学年の工学系高等教育機関ということになります。

2ページ目、沖縄高専のミッションですが、工学系ということで、開拓精神にあふれる 技術者の育成を行います、高専の技術やアイデアで社会に貢献できるような技術者の人 材育成を行います、というのがミッションですが、学生には、自分で考え、正しく行動で きる技術者として、あなたたちは自立するんですよというのを話しながら、5年間かけて 技術者教育をやるというところになります。

次のページですが、いくつかのコース、沖縄高専の特徴がございます。全国に国立高専は51校あるのですが、それぞれの高専がそれぞれの特徴を持って技術者の育成を行っているということになります。沖縄高専のいくつかの特長を挙げておりますが、2015年に「航空技術者プログラム」が始まりました。沖縄の那覇空港がアジアのハブ空港であるということと、これから航空機を使った物流、人々の動きなどが盛んになるということで、特に航空機整備の技術者を養成しようということでエアラインの企業様とも一緒になり、また沖縄県の政策とも合致しているということで、2015年から航空機整備の道に進む動機付けになるような工学を学ぶというコースを作っております。今では全学科の学生が選択することができるコースになって運営されています。今年10年目になるそうです。来年度から少しリニューアルをして、もう少し幅広い、エアラインだけではなく、様々な企業様に入ってもらって、航空技術者の養成を来年度から新たに行っていこうということで、今準備を進めております。

2番目の ICT・IoT、DX 人材育成ですが、これも1つの高専に2つの情報系の学科があるということで、他学科の学生も含めて低学年から情報工学の教育を学科の区別なしに全員が受けられるような形のカリキュラムを組んでおります。その中で特に特徴的なのが「創造研究」という科目なのですが、これ次のページでご説明をします。

2019 年、それから 2021 年、これはライフサイエンスといいますか、バイオテクノロジーの分野の技術者を養成しようというもので、バイオインフォマティクスは遺伝情報を IT の管理で分析をするような技術者、それを使って様々な医療や、そのような分野に広がりを持った研究教育活動をしていくほうでは、ライフサイエンスの「GEAR」という、これは全国の高専のプロジェクトになります。 文科省の予算で動いているプロジェクトで、沖縄高専はライフサイエンスの高専の中の中核拠点ということになっておりまして、他の 6 高専と一緒に、高専全体のライフサイエンスの研究教育を引っ張っていく立場にあるということです。

それから次が昨年設置した「観光・地域共生デザインコース」で、これは沖縄県のリーディング産業の一つである観光と、農業、水産業含めて1次産業のDX化、これらも含めて推進できるような技術者を養成しようということで、政府の要請で沖縄高専に設置されたものです。昨年度はコース開始1年目だったのですが、1学年160名の中の50名が選択をして、昨年度の1年生なので、今は2年生ですが、継続して学んでいるところです。また、今年度も1年生の中から、今から募集をして授業を取る学生をこれから選んでいくという段階です。沖縄県内の企業様や行政と一緒に観光産業の部分をDXで活性化できるような人材育成を行っていきたいと考えております。

それから次が「多文化共生・国際展開高専」ですが、実は日本の高専と同じカリキュラム、同じ教育形態を持つ外国の高専が作られておりまして、モンゴルとタイに既に

KOSEN という学校がございます。タイは日本政府とタイ政府の ODA で非常に力を入れて 2 校の高専を運営しております。

そのタイの高専から日本にかなり多くの留学生が来るということで、沖縄高専は日本に来る学生の日本語教育、これを行う中核拠点として位置づけられておりまして、本校にも日本語の教員が3名、今、所属しております。特にタイの学生に対して日本語教育を行っているということで、いずれは全国に来る留学生の日本語教育を、一まとめでできるようになるといいかなという構想があるのですが、その構想に向かって今、準備をしているという段階です。

そして今年度から、実際にはもう昨年度から始めているのですが、沖縄次世代人材育成事業ということで沖縄県の小中学生の生徒に工学やサイエンス、科学の楽しさを理解いただいて、若年のうちにそのようなところの分野に興味を持ってもらうということで、JST のプロジェクトでジュニアドクターというプロジェクトがありましたが、今はそれが STELLA という名前に変わっております。そのような形で小学生から技術者を目指した教育を行おうということで、昨年度から始めております。

一番下が「スタートアップ工房」で、昨年度1年位かけて作り込んだものなのですが、 学生が自分のアイデアを持って、そこの「スタートアップ工房」に行ってものづくりをしたり、あるいはサーバーやコンピューターの様々なネットワークシステムがありますので、そこでソフトウェアなりプログラムを作ったりとか、最終的には社会実装して起業に繋げられるような工房を、これは全国の各高専に一つずつ、昨年度作っております。沖縄高専にも「スタートアップ工房」という名前の工房がありまして、そこに様々な装置や、ディスカッションができるコワーキングスペースのようなものがあって、学生が自由に使えるようになっておりますし、そこでアントレプレナーシップの教育をやろうということで、今年4月から本格的に稼働し始めているといったところであります。こういったところが、沖縄高専の特徴になるんだろうというふうに思います。

次のページが、先ほど出てきた「創造研究」という、これは科目なのですが、1年生が入ってきてすぐ、もう1年生の段階から希望する学生が研究活動できるようなプログラムになっております。自分たちがやりたい研究活動であるとか、あるいはものづくりであったり、サービスをつくったり、色々なことが仲間を集めて、それから指導をしてくれる教員にも自ら声をかけて、チームを作って授業として研究活動ができる、このような科目を設置しております。全国の高専でも、このようなことをやっているのは珍しい科目ですが、それを5年間続けることができるということで、その成果をコンテストとか学会で発表したりということで単位まで取れるという授業があります。おかげさまで、沖縄高専、様々なコンテストに出て非常に良い成績を収めているのですが、この「創造研究」がベースになっているというケースで、非常に沖縄高専としては目玉の一つになっております。次のページにありますように、多くの学生がコンテストに参加しておりまして、最近、ディープラーニングコンテストの「DCON」や、新たにGIRLS コンテストという、女子

学生が中心になって SDGs に資するようなものを開発するというコンテストがあるので すが、そのようなところで優勝したり、良い成績を収めて、中にはコンテストで表彰を受 けたような技術を使って、高専生が起業するというようなことも起こり始めていて、沖縄 高専でも今話を聞くと、2つぐらいの起業が起こりそうだというふうに聞いております。 このようなことで社会実装というのは、学生のうちに体験して、それを社会に役立つもの として起業とかも視野に入れた活動をやっていく、ということをやり始めたところです。 最後が、STELLA というジュニアドクターと呼ばれていたプロジェクトの一つです。 これは、JST、科学技術振興機構が行っているプロジェクトですけれども、理科離れ、工 学離れが進んでいるので、小学生ぐらいのうちから工学に興味を持ってもらおうという ことで、昨年度 STELLA というプログラムになって初めて沖縄高専が採択されました。 すぐ隣に海洋研究開発機構の GODAC という国の研究機関があるのですが、そこの研究 者の方と一緒に美ら海をテーマにした技術の勉強、あるいは実験、研究を行うプロジェク トを昨年度から始めております。40名募集のところに70名ぐらい応募があって、非常に 迷ったのですが一応選抜をさせていただいて、50 名ぐらいが参加して1年目が終わりま した。その中で、高専でそのまま学びたいって思う中学生の方もいて、3名が沖縄高専に 入学をしてくださっているということです。今年度も40名ぐらい集まってもらい、同じ ように第1段階の交流。2年目が高専の研究室に配属となります。STELLA の2年生で すね。高専の教員と生徒さんとで研究をやろうということで 10 名の生徒さんが研究室に 配属されて、これから研究をスタートすることになっております。このように、工学のほ うに意識を向けてもらって、高専それから大学、最後は博士課程まで行ってもらえるよう な人材が育てられるといいなというふうに思っております。今まで述べたようなところ

次のスライドは入試の状況です。おかげさまで定員割れを起こすことはなく、1倍ちょっとの志願倍率で推移しております。特にメディア情報工学科は人気が高くて、令和5年度は2倍を超えるような倍率でした。本校の場合は第3希望まで書けるので、メディア情報工学科で万が一不合格であったとしても、第2希望、第3希望で点数が上回っていれば、そちらの学科に合格することができるというシステムになっております。最近は少し機械システム工学科の倍率が1倍近くになってきたりしておりますので、ここをもう少し生徒さんに楽しさをアピールできるようなことを考えていかないといけないなと思っております。

が特徴になります。

最後は、学校経営上の課題かなと思っているのが、合理的配慮と支援です。高専も大学や他の学校等と同じように行っているのですが、配慮や支援を希望する学生の数が少しずつ増えてきているというのが実情です。コロナ禍のパンデミックの時期に、遠隔授業のシステムというのが随分と全国的に進歩しました。沖縄高専も遠隔で授業を行っておりましたので、それを利用したいという学生が増えてきているというのが実情で、要はコミュニケーションに少し課題があったり、あるいは教室に入れなくて学校へ出てくること

ができない学生が学びを継続するために遠隔で授業を受ける。それから試験も出てこれない場合は遠隔で試験を受けたり、あるいはコンピュータベースの試験であったり、あるいは試験をレポートにするような配慮や支援。このようなことを行っておりますが、高専の教員はそういう特別な教育訓練を受けておりませんので、かなり負荷が高くなっているというのが実情です。この辺も、高専全体を通してどのように対応していくのかというのを考えないといけない時期に来ていて、高専機構の本部とも連携しながら、今後どのようにしていくかということを考慮している段階でございます。これがちょっと最近気がかりだなという考えになるかと思います。

以上、ちょっと長くなってしまいましたが、概要の説明をさせていただきました。詳細については、これから副校長が個別で説明をさせていただきます。よろしくお願いします。

#### ○名嘉村会長

どうもありがとうございました。それでは引き続きまして、眞喜志副校長、よろしくお願いします。

#### ○眞喜志副校長

よろしくお願いします。お手元の iPad ですと 02 番「教育改革担当」をご覧ください。 先ほどのスライドの4ページに相当する、我々の特徴的な教育、人材育成の教育プログラムについていくつかピックアップして、ここでは昨年度始まりました観光・地域共生デザインコースと、次年度から新しくしようとしている航空技術者プログラム、それからアントレプレナーシップの話をさせていただきます。

まず、観光・地域共生デザインコースですが、ざっくりと概要を述べますと基本的には「コースの目的」と書かれてあるところにあるように、観光資源の開発であったり、地域共生システムというのをデザインできるような人材を育成していこう、というのがこのコースの目的となります。コースで学ぶことは DX あるいはデータサイエンスというところを主眼としておりますので、データに関することを学んだり、課題を自ら見つけ出す、それが技術者としての視点だけではなく、経営や企画、そういったところの視点を持てるような教育を行いたいというところと、地域というところをしっかりと理解できるよう、あるいは地域だけを見るのではなく、全体像、社会全体を見ながらこの地域ということを取り組めるような、そういうところを学ぶカリキュラムとなっております。

これらのコースで最終的に身に付ける能力としましては、地域の安定のために必要なデータの収拾・分析・活用ができ、地域の特徴を理解し進展させる、それから地域の安定のために新たな調査を進める。このような能力が身に付くと我々は考えております。

次のページを見ていただいて、昨年度から始まりましたコースの1期生につきましては、1年生の入学は164名でしたが、そのうち、先ほど校長からもありましたように、50名がこのコースを履修しております。学科別、それから男女別の表がありまして、メディアが多いのが特徴になっております。データサイエンスがあることと、観光と結び付けやすいことが、メディア志望で入学した学生だったのかなというふうに理解しており

ます。それから男女比はほとんど変わらず、女子学生の数が全体の4分の1ぐらいですが、その半分ぐらいがこのコースに参加しているというところがすごく特徴的だなというふうに考えております。学科によってばらつきがあるのですが、この辺の分析はまだできておりませんが、やはりデータを取り扱うような学科が多いのと、直接的に観光というところから実施されるような環境、そういうところから生物資源が多いのかなというふうに考えております。

3ページ目をお願いします。特徴的な取組み、これは学校の中だけの学びではなく、外にどんどん出ていきましょう、外部の方と積極的に触れ合う機会を作りましょうということで、このコースの根幹にあるところを作っておりますので、その中にある地域共生実習では、うるま市にある津堅島で民宿をされている方がどうにか津堅島を盛り上げていきたいというような発信をされていて、それを本校の教員がたまたま見つけて、そこでやりとりをしながら実際に学生全員出かけて自分たちに何ができるかを考えてもらう取り組みを昨年度2泊3日で行いました。現地の小中学生とも触れ合う中で気付くことが結構あったようで、この取り組みから戻ってきてからも割と自発的にいろいろ考えている学生が多く目立ったのは特徴的でした。

次のページに行っていただいて。年度末にアンケートを取りました。「観光・地域共生 デザインコースを受講してあなたの学びに対して姿勢の変化があったか」というところ では、ほとんどの学生が「変化があった」と述べております。1人だけ「変わっていない」 というのは、元々すごいレベルが高く、これを受けた程度で変わりませんよというふうに 我々は受け取っております。多くの学生がこのコースに意義を見出しているのではない かと、アンケート結果から分析しているところです。

次のページに行っていただいて。学生生活そのものの満足度、本来は1年通した後に、2年目で「満足度どうですか」と聞くのが良かったかもしれませんが、コースを受講していることによってどのように満足度が変わったかというふうに捉えていただいて、その回答が、かなりの学生が「かなり満足度があった」と答えております。学生にいろいろと聞くのですが、やはりすごく学びに対して貪欲な学生がここに参加していて、春休みで学びが中断している時も独自にいろいろと考えているような学生がいて、春休みが明けてすぐに、いつになったら学びを再開するんだと、今お尻をたたかれているところです。

次のページです。学びに関しての充実度です。例えば、自分自身の学びに対する姿勢と 用意された学びに対する充実度の両方込みで採点していただきました。8点以上付けて いる学生が非常に多いなと思います。5点を付けている学生は、恐らく先ほどの「変わっ ていない」と答えた学生と一緒で、もっと学べるはずだと思っていたかもしれないなと。 恐らくこの学生だなというのは分かっているのですが、いつもすごく前向きな意見をも らうので、我々も刺激になっております。

次のページが上出来かなと思います。「どんな力が伸びたと考えるか」というところでは、「課題発見力・問題解決力」が一番多かった。このコースの趣旨は、課題を発見し解

決に導くところを主としておりますので、我々の狙いがある程度浸透しているのかなと 考えております。

以上が大ざっぱな、細かいところをお話しすると 10 分で終わらないので、このような形で1年目を終えたところであります。この 50 名が 2 年生になってそのまま継続で参加しているところを確認しております。1 年生については、現時点で説明会やアンケートで明確に「このコースに参加します」と回答を頂いているのが 23 名ですが、その他かなり大多数の1年生がもっと説明を聞きたいという要望がありましたので、来週以降、数回に分けて説明会をしていきたいと考えております。以上が「観光・地域共生デザインコース」に関する昨年度の振り返りのご報告と、今年度の準備状況については触れていないのですが、ご質問があればお答えしたいと思います。

次のページに行っていただいて、これからはまた話題が変わります。「アントレプレナーシップ教育・スタートアップ人材育成」というところで、先ほど校長より説明があったように、これは政府主導、文科省主導で、2022年度末に高専ならこのようなことができるでしょうということで補正予算を付けていただきました。2023年度中に整備が終わり、今年度から本格的にスタートしているのがスタートアップのほうになります。

それに加えて、アントレプレナーシップ教育というのを改めて見直すと、本校のアントレプレナーシップ教育は、設立当初からしっかりとカリキュラムが組まれて進んできたのですが、時代の流れとともに廃れてきていたものを、今年度からカリキュラムを改定し、この改定に伴ってアントレプレナーシップ教育をスタートアップ人材育成と絡めながらしっかりと進めていこうとしております。

このページの真ん中にある図に関しては、カリキュラム改定の中で一般科目・専門科目と並行して、アントレプレナーシップ教育を4年生までやっていこうという形の教育に繋げており、その中でスタートアップに繋がるような人材を多く輩出したいなということで、このような教育をしております。本格的なスタートは今年度の1年生からのカリキュラムになるのですが、昨年度1年間いろいろと考えておりましたので、このスタートを、スタートダッシュを決められるように、昨年度もアントレプレナーシップ教育に力を入れております。それが次のページになります。

今年度の2年生ですが、昨年度の1年生を対象に沖縄高専セミナーという授業の後半部分を使って、本校を卒業して起業されている方や、この先に繋がるようなことをされている実務者の方に、第9週からご説明いただき、学生にアントレプレナーシップあるいはスタートアップに繋がるような知識、情報を提供したという流れになります。これはかなり評判で、特に社長さんと会話するというところに学生はすごく意義を見い出したようで、今年度も同様にしてほしいというのを2年生から受けております。2年生に対しても何らかの講義をしたいなというふうに考えているところです。

次のページが、アントレプレナーシップ教育の1回目ですね。アントレプレナーシップ とは何かというところです。アントレプレナーシップ、起業家精神で会社を興すというと ころが一番最初に来るのですが、そこだけにとどまらず、自分が所属する組織の中で何かしら問題点を見つけ、より良くしていく、そのようなところもアントレプレナーシップの本質的なところになります。そのような教育もしっかりとしていきたいので、会社を興すだけが全てではないという話をしながら、実際にうまく先ほどのコースと絡めたほうが説明しやすかったものですから、今後絡めながらこのアントレプレナーシップ教育というところを、初回で説明し受講に繋げたいというのが、昨年度のアントレプレナーシップ教育となります。

次のページが先ほどのスタートアップ人材育成の取組みになります。これが「令和4年度大学改革推進等補助金(高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業)」で、我々もこれに応募し採択されたものを今年度から運営しているという形になります。

次のページが少し字が細かくて申請したものになるのですが、本校としましては、元々ある特色にアントレプレナーシップ教育をうまく結び付けて、そこからスタートアップに繋がるような人材を輩出しようという体制を構築いたしました。先ほど校長の説明にあった創造研究の中で、社会実装を視野に様々なコンテストに参加していたのですが、今まではこの取組みの評価がすごく高い分、そこで止まっていたところを、さらにスタートアップに繋げるような視点でより良い社会実装に繋げるような形にしていきたいというところも含めた上でのスタートアップ人材育成という取組みになっております。

次のページが、実際にどのような形で工房を展開しているかというところで、こちらとブリッジで繋がっている校舎側の1階のちょうど真ん中辺りに、元々創造工房という多目的なところがあったのですが、そこをスタートアップ工房と位置づけて、先ほどあったミーティングスペースや、それぞれの学科でこのようなものがあれば学生のその先に繋がるだろうという機器をそろえまして、学生が利活用できるようにしております。最初からここに入り込むというよりも、各学科が所有する機材である程度のものを作った上で、最終的にここで企業の方々と色々な話をしながらプロダクトを作り込むというような位置づけをしておりますので、ここには機材は少ないのですが、一応それぞれの学科の所有する装置や設備、そういったところからの流れとなるような形で機材等は購入したつもりです。

このような形で、スタートアップ人材もまだ始めたばかりですので急に出てくるのは望めないところなのですが、例えば4・5年生、それから専攻科生なども既に持っているアイデアをここで試せるような形にはしておりますので、もしかしたら、今年度あるいは来年度以降、このスタートアップに繋がるような高専の中での起業を興すような学生が出てくるのではというふうに期待しているところです。その事業に関する予算は、設備を整えるのはお金を出しますが、後の運用は自分たちでしなさいという形になっておりますので、例えばクラウドファンディングなどを利用しながら、企業の方々にも時々来ていただいて学生にプレゼンをしてもらう、そのような形にできるような施設となっておりますので、大いに活用してもらえたらなと思います。学生の意見を聞きながら細かいルー

ル作りを進めているところで、暫定的な利用となるのですが、かなりの学生が活用していました。活用しすぎて少しトラブルもありましたので、今は制限が出ているところです。 以上がアントレプレナーシップ教育、スタートアップ人材育成になります。

最後が航空技術者プログラムになります。先ほど説明にありましたように、2015 年度にこのプログラムをスタートさせました。当初は本科の4年生、5年生、それから専攻科の1年生、2年生の4年間のプログラムでした。当初は5年経過したところで見直しというような形で進めていたのですが、途中でコロナがあって、見直せたのが、全学科が対象となるというところと、もっと下に下ろして2年生からのスタートで、本科の5年生までの4年間のプログラムにしようではないかというところで、そこを変えていきました。今10年経過して、来年度以降は社会の変化やニーズを考えたプログラムの高度化というものを検討しているところになります。

少し補足すると、生物でも OK という。やはり学ぶ分野というよりも、高専で学んだというところをエアラインや航空産業界の方々に評価いただいたので、学んだ内容を問わず、高専での学びというところを重視しますということで、生物の学生でも採用は十分できますよというところを、エアラインの方々から頂きましたので、生物も入れてしまおうという形にしております。

航空技術者プログラムという名前を一度変えようとしたのですが、これは文科省から変えるなということでずっとこれできたのですが、我々、内容を変えるので、この名称を一度変えようとして失敗したのですが、その温めていたものを今リニューアルして、来年度以降に繋げたいなと考えているところになります。

次のページに、この航空技術者プログラムを立ち上げた根本的なベースとなる考え方が、「沖縄21世紀ビジョン」の中に航空関連産業クラスターの形成ということで、沖縄県の中に航空産業というクラスターを形成し、これもリーディング産業の一つとして発展させましょうというところがあり、その中心を担うのがMRO事業を行う会社でして、そことの連携とそこに配置する学生の育成というものは、我々のほうでも10年かけてある程度できたのかなと考えておりますので、このクラスターの考え方が変わっていなければ、このクラスターを見れば、当然ながら本校の航空技術者プログラムに参加しなかった学生でも入り込める産業が並んでおりますので、そのようなところにしっかりと配置できるようなプログラムに昇華させたいなと考えているところであります。ですので、期待すべきは県の動きになるのですが、我々だけではどうしようもありませんので、人材は輩出しますし、裾野を広げていくことにも我々は貢献できるとは考えておりますが、次にその学生が活躍できる場所というところでの協力というのをお願いしたいなと思っているところであります。

最後になりますが、この航空技術者プログラムに関しては、航空人材を輩出するところでは単純に輩出するだけではなく、やはり航空産業界を目指す小学生、中学生の裾野の拡大というところでも、教育機関としてしっかりと動いていきたいなと思っておりますし、

本校を出た卒業生が **OB** として本校に協力していただくと。そこにしっかりとした航空 関連企業が協力いただけると、そのようなサイクルといいますか、仕組みを作ってそこで 継続的な人材輩出と沖縄県の産業界への貢献、そのようなところを担えたらなと思いま す。最初作った時には官の協力が重要と書いてあったのですが、怒られると思っておりま した。以上が人材育成に関する本校の昨年度と今年度以降の動きとなります。以上であり ます。

#### ○名嘉村会長

どうもありがとうございます。続いて山田副校長お願いします。

#### 〇山田副校長

副校長の山田です。私も座って説明させていただきます。よろしくお願いします。資料としては3つ目です。教育関係、三つの方針の報告ということで、この説明内容に関しては、先ほどの校長、眞喜志副校長から説明した内容に補足する形のものとなっております。よろしくお願いします。このタブレットの資料と併せて自己点検評価書の28ページが教育内容という形になりますので、こちらも併せてご覧ください。

それではまず最初ですね。先ほど校長、眞喜志副校長からもありました創造研究に関する取り組みがありましたが、その教育目標と、あとどのような形で実際に学生が受講しているのか、それと受講者数についてこちらでまとめてみました。

まず教育目標としましては、学生が主体的に課題研究、そのようなものを行うことによって、実践的な技術者として総合的な学力を身に付けるということになっております。これは1年生から5年生まで受講可能となっておりまして、通常の受け身的な授業とは異なり、こちらを受講する際は事前に教員が設定したテーマを確認して、学生自らそのテーマを選んで教員とマッチングして受講していくという形になります。ですので、お互いのチームとしてやる内容であったり、あとは5年生がいるような研究室に入って低学年から一緒に参加することも可能となっております。最近の状況で見ますと、1年生、低学年の受講が増えているような傾向にあります。これは先ほどの説明にあった観光・地域共生デザインコースの一環で創造研究を取ることとしておりますので、そのような要因もあるかなと思いますが、それ以外の受講者も多くいます。

あと、本校の場合、5年生で卒業研究に取り組むのですが、4年生がプレ卒研という位置づけで受講する学生も増えております。今年度、昨年度に関しては、1学年大体 160 名いる中で約半数の学生が受講していることになります。最近の受賞状況をこちらにまとめております。これまでの全部の受賞状況を載せられないもので、一部分になりますが、このような形で、学生が授業で習ったことやスキルとかを、創造研究を通してこのようなコンテストに出れるきっかけになっているのかなと思います。創造研究だけではなく、例えばロボットコンテストやプログラミングコンテストや部活単位で参加する学生もいるので、その部分の学生たちはここには入っていない可能性はあるのですが、多くの学生が受講しているものとなっております。

続きまして、次のスライドです。今年度新しくカリキュラムを改訂しました。これは、昨年度1年間を通して検討してきた内容です。柱としましては、情報技術教育の高度化・統一化です。あとアントレプレナーシップ教育の充実化。先ほど眞喜志副校長からもお話があったとおり、今まで本校としてはそのような科目は設置されておりましたが、やはり各学科で少し整合性が取れていない部分がありましたので、そのようなことをまとめるような作業、あとは若干専門科目の調整を行いました。それに加えて、数理・データサイエンス・AI教育プログラム。こちらは本校はリテラシーレベルの認定を受けておりますが、全学科で応用基礎レベルの認定を満たすような取り組みを行っております。それも踏まえて、情報教育とアントレプレナーシップに関する科目のカリキュラム改訂を行いました。ページとしましては、自己点検評価書の30ページに令和5年度の教育課程表と、このタブレットに6年度という内容がありますが、特にこの全学科共通専門科目というような形で、まとめて体系的なカリキュラム変更を行ったのが昨年度の取組みです。自己点検評価書の提出までには間に合わなかったので、こちらを追加させていただきます。

続きまして、三つの方針。自己点検評価書には、少し前のほうに戻りますが、3ページに三つの方針をまとめてあります。内容としては大幅な変更はせずに、今まで我々が意識していたポリシーとしましては、本校を受験する中学生向けにアドミッションポリシーをしっかりアピールするという形のほうに重きを置いていたので、どうしてもそこに注力をしてしまっていたところがあります。また、各学科で、それ以外のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを検討していた形がありますので、こちらの部分を整理して体系的に外部に評価、公表できるような形で、このような改定を行っています。

定義の仕方としまして、このような人材を輩出するディプロマポリシー、これを学校全体、4学科共通のポリシー、そして各学科のポリシーという形で関連させるようなものとなっております。それに対してカリキュラムポリシー、このような授業を行うというものをカリキュラムポリシーとしてまとめております。そして最後にアドミッションポリシーでこのような人たちに入ってきて、そのままカリキュラムポリシーに沿った形で授業を行っていくと、このような人材が輩出できますという整理を行いました。こちらを追加で説明いたします。教育関係と三つの方針に関しては以上となります。

# ○名嘉村会長

どうもありがとうございます。それでは引き続きまして神里副校長お願いします。

# ○神里副校長

私の資料が4番目のほうになります。学生・キャリアを担当しておりますので、そちらのほうをご覧ください。神里と申します。よろしくお願いします。今までは教育の内容だけ中心に話を先生方してもらっていたのですが、実際に学生たちがどのような生活をしているかというところで紹介させていただきます。次のスライドお願いします。

コロナの影響で本当に大変な時期があったのですが、やっと寮生含めて学校生活活動 というのを充実、活性化させることが、去年ぐらいから普通どおりといいますか、やっと 戻ってきたなというのが、今年度スタートしての実感になります。皆さまのご協力があってこそで、本当にありがとうございますというところから始めさせていただきます。

学校の様子がたぶん分からないかなと思いますので写真を付けたのですが、本校 15 歳から一番上は専攻科の 2 年生、22 歳までおりますので、大学とも高校とも少し違う雰囲気で学びが行われているという環境なのですが、この辺野古の地にあるというのも特殊なところであって、学生たちもお互いにここで生活をして、ここで学んでいくんだという、遊ぶ場所もないのでほぼほぼ学校の中に、この辺にいて、彼らの憩いの場は 2 軒あるファミリーマートとローソンが彼らの一番のスポットになっているような環境で生活をしております。次のスライドをお願いします。

やはり 15歳から学生たちをお預かりしておりますので、まずは人としてという土台をつくっていくこと。やっとコロナが明けて、今までは普通にそれができていたというありがたい環境だったんだなということが身に染みて、コロナを経ての感想になるのですが。課外活動を一切禁止しなければならない時期でしたので、それをやっと通常どおりみんな活動していいんだよということで、勉強だけではなく課外活動も一緒にやっていくことで、自分の成長につなげていきなさいというような、今は指導をメインに大々的にやっているところです。ですので、1年生、2年生の子たちが高専に憧れて入ってきて、先輩たちを見て、じゃあ自分もやろうっていうふうに、今、一生懸命活動を行っています。次のスライドをお願いします。

勉強だけではなく課外活動を実施していく中で、学生会という組織がありまして、高専ならではと思っているのが、4年生、5年生もおりますので、その学生たちが、執行部と呼ばれる学生会長が回す組織があって、その執行部が行っている活動、予算の計画とかがきちんと実行できているかなというのを決定する議決機関が各クラスの級長さんたちが参加して、その議決を決定して、例えば昨日、一昨日も議会が開かれていたのですが、学生会議会の招集がありまして、夏祭りをやりたいんですという企画に対して、先輩たちがこんな企画案では足りないと却下されていて、もう一回リベンジをしますというふうになったり、あとはその監査という、予算がきちんと執行されているか、無駄なところはないかという、その全部の組織が学生によって回されるということが行われております。

低学年の学生たちもそこに参加するので、先輩たちがどのように学校の学生会、学校の活動を運営してるかを見て、例えば高専らしくスマプラのゲーム大会があったり、昨日もあったのですが、バレーボールの球技大会を1年生が先輩たちと仲良くなるために開催したいということで企画運営されるのですが、学生たちが企画をする時に、全て企画書を先生たちにまず提出して、企画書がきちんと通った後に実行という感じで、学生たちが学校内にいる時からこのような社会に出てからも使えるようなことを学んでおります。次のスライドお願いします。

部活動に関しても、今、体育系が 14 団体で、文科系が 10 団体ぐらいあるのですが、 1年生、2年生向けに先輩たちが4月に説明会を開いて、自分のところの団体に入ってお いでよと促してくれているような感じになっております。今年度本当によく低学年の子 たちがいっぱい運動していたり、活動に参加していたりしてくれています。

こういう部活も盛んなのですが、次のスライドお願いします。高専ならではの運動会、 体育祭とか高専祭というお祭りがありまして、体育祭が4月の梅雨に入る直前に大体行 われるのですが、このように若い15歳からの学生たちがおりますので、この体育祭とか 運動会に関しても学生たちが全て企画運営をするので、次のスライドをお願いします。

3年生が体育祭は実行委員をしているのですが、3年生の4月になって体育祭が行われるので、実質準備は2年生の後期、17歳ぐらいの高校2年生が、800人を楽しませるための運動会の企画運営を全て行います。ですので、裏方の学生たちは、へとへとになっていて、でもそれを超えるとすごい成長が見られるので面白いなと思って見ております。一切教員が運営に関わる、その指導に関わることはないので、それも一つ特徴かなと思っております。次のスライドお願いします。

先ほどから出ている、このような様々な低学年から楽しい活動をやっている中でも、その活動と合わせてやはりロボコンの大会に出たりということで、先輩たちが引き継いできた技術の伝承とかを学生たちやっていて、沖縄ならではの、沖縄高専ならではのロボットを作るんだというところで、アイデア賞を頂いたりしております。ですので、優勝を狙いにいくとかではなくて、なぜか俺たちの技術を自慢しにいくみたいな、デザインを自慢しにいくみたいな感じで、彼らは全国大会に出させていただいています。次のスライドお願いします。

先生方、皆さん自慢している、この創造研究、やはり今年度もディープラーニングコンテストがあって農林水産大臣賞を、これはニュースでも取り上げていただいたので、最近は専門性を掛け合わせた取り組みということで、学生たちが生物と情報がコラボしたり、機械と情報がコラボしたりというようなことで研究を進めてくれています。次のスライドお願いします。

1年間の実績を毎回まとめているのですが、こんなコンテストに出てますよというものを紹介しております。次のスライドお願いします。13枚目です。

専攻科生も独自で、授業の一環で行われているものなのですが、地域の子どもたちとか、 地域の課題をより解決していこうということで、4コースの学生たちが協力して、子ども たちの口腔ケアであったり、食育みたいなサポートをするようなシステムを作って、子ど もたちに提供して、一緒にこんなのやってみようよとか、勉強を教えるというものに加え て活動を行っているものを紹介しております。次のスライドをお願いします。

こちらは、地域のサバニの文化伝承をどうやってやっていけるかみたいなところで、実際に自分たちもサバニに乗ったり、サバニを作ってみようという取り組みを専攻科生がやっております。次のスライドをお願いします。

沖縄高専の明るい感じを今まで話をさせていただいたのですが、佐藤校長からもありましたように、合理的配慮を要する学生が一部おりまして、どのようなきっかけで学校に

来れなくなったとか、教室に足が向かなくなったというのが、本当に我々も油断できない 状況が続いているところになります。沖縄高専ではカウンセラーの先生、寮のほうにも専 用のカウンセラーの先生がいらっしゃって、学校側にもお2人サポートしてくれている 先生方がいらっしゃって、我々も学生の気になることとか、あと学生自身も気軽に相談に 行けるような体制を取っているところになります。

もう一つ最後のスライドなのですが、いじめに繋がるような事例みたいなものも早期 発見するような体制を整えていて、学生たちにも頻繁にアンケートとか、先生方にもこの ような学生間のやりとりがトラブルに発展しますよ、トラブルに発展する可能性があり ますよということを、講習であったり研修を受けていただいたりということで、いじめを 絶対に見逃さない、許さないという姿勢を打ち出して対応しているところになります。

高専の学生たち、すごい多様性を受け入れる素養があって、この人はこういう考えで動いているんだ、でも自分はこういう考えを持っている、とお互いに受け入れるのがうまいのかなと思って見ているところになりますが、少し SNS でのトラブルがあった場合にはすぐに対応するようにしているということになります。私からは以上です。ありがとうございました。

#### ○名嘉村会長

どうもありがとうございました。続いて、高良副校長、お願いします。

#### ○髙良副校長

それでは本校の研究関係の活動報告をさせていただきます。スライドをお願いします。本校は地域に根差す高専として、県内産業界や自治体が抱える問題の解決を行うためには共同研究、受託研究、あと技術相談などを積極的に行っております。また支援体制として、本校と産業界を結ぶパイプ役として産学連携協力会を設置しておりまして、技術相談や共同研究を行っております。産学連携協力会の関係を通しまして地域連携コーディネーターが企業様を訪問して企業の課題をお聞きして、その解決に向けて一緒に取り組んでおります。技術相談の実績としましては定期相談、工連会議室をお借りしてそこで実施しているのは3件、本校で随時受けている相談が32件、合計35件。一昨年度が32件ですので、ほぼ同数の技術相談を実施しております。次のスライドをお願いします。

技術相談は、毎月第3木曜日に開催しておりますので、今年度も引き続き行っていきたいと思います。 次、お願いします。

直近の産学連携プロジェクトについてご紹介いたします。4つの学科がありまして、それぞれ産学連携を行っております。機械システム工学科では、沖縄の天然あら塩製造のための高効率な海水濃縮装置の開発、離島向けの燃焼炉のサーマルリサイクル発電装置の研究開発を行っております。情報通信システム学科では、沖縄型の果樹栽培におけるDXを活用した社会実装型 AI・IoT の栽培支援システムの開発を行っております。メディア情報工学科では、資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型のサステイナブル陸上養殖のグローバル拠点に関する本校による研究開発を行っております。次、お願いします。

生物資源工学科では、ミッドカインを活用した新型コロナウイルス COVID-19 重症化予測簡易判定系の研究開発を行っております。また、廃ガラスをケイ酸源とする稲作における収量増加機構の解明と社会実装の試み、亜熱帯生物素材ライブラリの活用によるウイルス感染症に対する天然物創薬研究というものもございます。この他にも多数共同研究を行っております。次のページをお願いします。

産学連携プロジェクトの1つをご紹介しますと、『沖縄 Taco スパ!!』開発プロジェクトというものがありまして、本校が昨年度創立 20 周年でしたので、その記念事業の一環としまして、専攻科生が名護のこども食堂様及び東京学芸大学様、オリオンビール様をはじめとした協力企業と連携しまして、オリオンビール様の製造過程で発生する麦芽粕や乾燥ビール酵母の副産物をアップサイクルして新しく麺を開発し、商品開発を行っております。商品などの販売利益は、貧困家庭の子どもへの食事、居場所、学習支援を提供する名護のこども食堂様の運営資金に充てられまして、地域の貧困問題の解決に寄与しております。次のスライドお願いします。

外部資金獲得状況について過去3年度分をまとめたものがこの表になっておりまして、 黒字が件数、赤字が金額になっております。共同研究は少し昨年度より減ってしまっては いるのですが、合計の件数としましてはそれほど変わってはおりません。今後、産学連携 の強化によって研究をさらに活発化させていきたいと考えております。

ご質問の回答をまとめましたのでご紹介いたします。本校に夢工場がありまして、産学連携に関連した利用実績についてのご質問がありました。令和3年度に2件、令和4年度に2件の共同研究を締結しております。その夢工場で沖縄高専の設備リストの公開についてのご質問もありました。地域連携研究推進センターで「センター報」を作っておりまして、その中にシーズ集のページがございます。次のページです。一部ではございますが、シーズ集の下のほうに利用可能な設備リストも載せております。また、今年度、ホームページに利用可能な設備リストの公開を予定しております。本校は「おきなわオープンファシリティネットワーク」に参加しておりまして、琉球大学様をはじめ、県内の研究機関と共同で使用できる設備などを公開しております。次のページです。

知的財産部門、知的財産委員会の活動についてのご質問がありました。図がありますが、本校では地域連携研究推進センターがありまして、そこで産学連携研究推進部門と地域財産部門の2つありまして、知的財産部門の中で必要に応じて委員会を開催しております。過去3年では令和3年度に2件、令和4年度に0件、昨年度は1件の新規発明に関する審議を行いました。また、産業まつりにおいて、保有している知的財産の紹介も行いました。学内で教職員に向けた知的財産セミナーも開催しております。次、お願いします。

沖縄職業能力開発大学校様や琉球大学様、沖縄県工業技術センター様などとの連携の下で行った地域産業との連携についてのご質問がありました。本校は琉球大学様が参画されている大学等の産学連携ネットワークに参画しております。昨年度、そこで2回会議を行いまして、産学連携に関わる取り組み状況の報告や意見交換を行っておりました。沖

縄職業能力開発大学校様や琉球大学様、沖縄県工業技術センター様などとの連携による効果的な地域産業への貢献についてのご質問がありました。本校では、沖縄県内での研究機器と設備の運用連携を目的としている「おきなわオープンファシリティネットワーク」に参加しております。ネットワーク参加機関の増加と研究連携を図っておりまして、沖縄県内における研究及び産業の発展に寄与することを目指して、機器の相互利用だけではなくて機器運用に関する交流や技術交流、情報共有を行っております。次のページお願いします。

技術相談会につきましては、先ほどもご説明しましたとおり、昨年度は35件、前年度とほぼ同等の技術相談を行っております。次、校費による基礎的な教育研究費についてのご質問がありました。本校は1教員当たり12万円、一律で研究費を支給しております。研究費以外においては外部資金獲得によるインセンティブもございます。研究費獲得に向けて積極的な教職員は、研究教育に関する校長裁量の経費がありまして、研究費を必要としている教員に配分できるよう配慮しております。次のページをお願いします。

外部資金受け入れ状況につきましては、先ほどの表でもお示ししましたとおり、件数についてはあまり増減が無いのですが、昨年度採択された JST が実施しております「共創の場形成支援プログラム」、これは令和4年度が初年度のため予算が多く計上されているのですが、昨年度は予算が少しその分減っております。大型の研究助成金が獲得できなかったことも減少傾向の要因として挙げられるかと思います。科研費の採択率についてのご質問がありました。科研費の採択率は減少傾向となっておりまして、これに対しては機構本部と連携して科研費獲得に向けて研修会なども行っているところであります。私からは以上になります。

#### ○名嘉村会長

どうもありがとうございます。最後に田中副校長から。

### ○田中副校長

それでは、私からは国際交流の現状についてご報告いたします。タイトルのスライドですが、現在この6カ国から、日本も含めまして学生が来ておりまして、国旗の中身についてはまた後で紹介したいと思います。

2枚目、機構本部の方針としまして、高専機構自体はもう 60 年を超える歴史を持っているわけですが、その中で最近では、佐藤のほうから説明がありましたように、海外の展開、あと高専自体の国際化、これをやはり大きく進めていこうという方針が出ております。高専生の海外派遣を強力に推進する、留学生の日本語教育体制の充実、ここについて沖縄高専でも機構の方針に基づいて準備を進め、一部活動をスタートしております。次お願いします。

オンキャンパスの国際化ということで、ではどのような仕組み、どのような活動によってこの国際化を進めていくかということで、左のほうは少しプラン的なところが書いてあるのですが、右のところ、グローバルエンジニア育成事業ですとか、海外活動支援事業、

この2つの仕組みを用いて、本沖縄高専でもオンキャンパスの国際化を進めていく計画、 一部進めている状況にあります。中身についてはこの後、少し説明をしたいと思います。 次お願いします。

次は沖縄高専自体の取り組みですが、機構全体としての国際化への舵を切ったタイミングというのはここ2、3年になります。それとちょうど時期を同じくして、沖縄高専でもそれまではグローバル交流推進センターという組織がありまして、そこで特に学生の受け入れとか学生の派遣、留学生に対する対応をしてきたのですが、令和4年度の終わりにこのセンターを改組しまして、多文化共生・国際交流推進本部というものを設立いたしました。この目的は、「単独」「連携」と書かせていただきますが、要は沖縄高専の中でセンターが国際交流をセンターとして独自にやるということではなく、副校長がここで入っているということでお分かりいただけるように、学校の中で横の連携を取りながら、教務、学生、寮務の担当の副校長と連携を取りながら学校として進めていこうというのが、一つの大きな変化になっております。それが機構本部の国際化を推進するというタイミングと、ちょうど一致していた時期に、沖縄高専でもこのような取り組みを始めたという経緯にあります。次お願いします。

これも沖縄高専の取り組みの具体例を示しております。下の絵につきましては、これはここ1、2年で始めた活動ではなく、これまでも行っていた活動になります。グローバル学内の取り組み、グローバル海外の取り組み、ここは参加する学生の数がやはり一定の数に限られてきます。あと、キャリア育成に関しましても、学校としての仕組みを持っているのですが、このようなところにグローバルの取り組みを興味のある学生に対して提供していく、そのような形で行っておりました。そこに、今度は上ですが、機構本部から2つの先ほど紹介した事業、この予算が各高専に提供されてきました。

そして最近ですが、沖縄高専では後援会、これは保護者会になりますが、後援会によっても留学旅費の支援について新たに支援を開始するという判断を頂いて、つまり、これまでの活動が、予算の裏付けがある中でより活動しやすくなった状態になっており、機構本部のこの二つは、本部自体は国際化に舵を切りましたので、その結果として、これは沖縄高専だけではなく、全国 51 国立高専全てに配分されている、措置されている予算になっております。次お願いします。

このように状況が少し変わってきている中で、本校の派遣・受け入れの状況、2023 年 以降になりますが、まとめさせていただきました。今年度の派遣計画も含めております。 これを見ていただくと分かるとおり、ここ2年で派遣については 140 名の学生が海外に 出ております。うち「トビタテ!」のプログラムは5名の学生が利用しております。

一方、受け入れに関して、これ、大変失礼いたました。8というのは、8人タイから来ているのですが、先ほど最初に佐藤のほうからも報告ありましたように、タイ高専から昨年度は17名の学生を1カ月間、沖縄高専で研修をしております。今年度につきましては同じくタイ高専から18名の学生の受け入れを秋に予定しておりますので、この8人プラ

ス 35 でご認識いただければと思います。このような状況になっております。台湾につきましては、3年の情報のクラスが研修旅行に40名規模で行っておりますので、ここの数字も大きくなっております。タイにつきましては、タイ高専との連携が進めている中で、このような数字になっております。私、今日このポロシャツを着ているのですが、これがタイ高専、KOSEN-KMITLの教員のユニフォームになります。私も2年間ここに行ってまして、このユニフォームを着て授業、あとタイの教員の人材育成のほうに携わってきましたが、教職員だけではなくて学生も含めてタイ高専とのネットワークがすごく大きくなりましたので、それをぜひまずは沖縄高専の中で活用していきたいと思います。次お願いします。

外国人留学生、今度は我々が長期で受け入れている学生の状況です。2014年に4名だったのが現在は14人まで増えている状況です。タイとの関係が深い中、タイから9名、マレーシアが2名、次はミャンマーが1名、チュニジア、アフリカですが1名で、今年度からインドから新たに1名の学生を受け入れております。次お願いします。

オンキャンパス国際化を推進、ということで、いずれにしましても、沖縄高専の教育としましては、今、副校長から状況の説明があった、そこの部分がまずはメインであります。この国際化のところについては、プラスアルファ的なスパイス的な活動の意味合いで、今は考えております。ですので、全学的にというよりは可能なところから、あるいは効率的に活動ができるところから進めていって、じわじわ広げていこうという形で進めております。つまり、今受け入れている14人の外国人留学生を核にして、彼らに影響力を発揮してもらうことで、ローカルな日本の学生たちに少しずつ国際あるいはグローバルといったことを体験してもらって、そのスキルなりセンスを身に付けてほしいなと思っております。これがWSBといって「ワサビ」と呼んでいますが、留学生が中心になって日本人の学生も巻き込んで行っている本校の活動になります。次お願いします。

次の写真も、これは今年度タイで4月にソンクラーンという水かけ祭りがあるのですが、それをタイの学生が主催してやってくれました。多くの日本人学生が参加してくれる中で、教職員の参加がまだまだで、学生だけではなく教職員もぜひ、何か大上段に構えた大きな仕掛けということではなく、できる方から興味のある方から入れるような形で進めていきたいと思っております。次お願いします。

これは校長からも説明がありましたが、沖縄高専は、昨年度から総括留学生支援ブロック拠点校、特命日本語教員が3名の体制で、今何をやっているかというと、タイ高専からの3年次編入生への事前の日本語学習教育、そこの支援をしているのと同時に、受け入れたタイ高専の編入生、これは沖縄高専だけではなく全国の各高専で編入生を受け入れているのですが、その編入生に対して、受け入れた後も日本語あるいは生活支援、それを51高専の総括校として担当をさせていただいています。各ブロックでは八戸と他の高専の皆さんと連携をしながら、全国に在籍しているタイ高専の留学生だけではなく、外国人留学生も含めて彼らが安全安心により高専生活を楽しんでもらうためにどのような支援が

できるかということを、ブロック拠点校と協力しながら進めております。次お願いします。 これは活動の紹介ですが、日本語学習支援。オンラインであったり、日本語教員が現地 に赴いて対面での学習支援を行っております。これは説明しましたとおり、沖縄高専では なく、高専機構本部としての役割として行っております。次のページお願いします。

ただ、せっかくこの活動をするわけですので、本校の学生たちにもメリットをもらいたいということで、この学習支援に TA として本校の学生が参加し、オンラインで一生懸命学習支援をした後に、昨年度 2月の後半に TA をタイに派遣しまして、その次の4月に編入してくる学生と交流をするという活動を行いました。このようなことによって、受け入れるだけではなく派遣する学生も含めたオンキャンパスでの国際化にこのような活動を活用していきたいと思っております。次お願いします。

オンキャンパスの国際化をどのように進めていくか、外国人留学生 14 名、日本語教員が3名、それぞれ韓国、タイ、モンゴルに長期間在住した経験を持っております。あと、本校には現在5名の外国籍の教員がおります。ここから最後のスライドをお願いします。この皆さんを中心にして、受け入れ、派遣、教職員の人材、リソースも利用した中で、体制づくりと環境づくりを一つ一つできることから行っていくことで、オンキャンパスの国際化をまずは推進し、その後に地域の皆さんとどのような形で、あるいは他校の皆さんとどのような形で連携できるかというところを考えていけたらと思っている現状です。以上です。

#### (5) 意見交換

#### ○名嘉村会長

どうもありがとうございます。それではここからは質疑応答、あと意見交換の時間に入りたいと思います。時間は20分程度になりますが、皆さん、積極的によろしくお願いします。何かご質問、ご意見ありましたら挙手でお願いします。野底先生。

#### ○野底参与

沖縄職業能力開発大学の野底と申します。校長に就任してからまだ2カ月半なのですが、最近分かってきたのは、行政の立ち回りが結構あって、皆さんは文部科学省の管轄で、私のところは厚生労働省の管轄ということで、県のほうもいろいろ回ったのですが、同じようなプロジェクトが各省庁であるんですね。

ですので、我々が現場に出てどうやって連携していくかということを今後の課題になっていくかなと思うのですが、その辺のところは将来的に検討していく予定はあるのか、ですね。予算の無駄かなというところも結構あって、皆さんは機構の、我々も機構の下ですが、その機構のミッションというのがあって、それをクリアするのに苦労されているというのは分かるのですが、現場レベルで。基本は、沖縄の若者たちをどう育てるかというところは我々共通していて、その辺のところをどうやって無駄をなくして効果的に沖縄の若者をどう育てるかということに絞れば共通項ができてきますので、将来的に強い連

携をどうやっていくか、お考えをお聞きしたいというのが質問です。

#### ○佐藤校長

技術者を育成するのは我々のタスク、ミッションですが、やはり人も減ってきますし、 予算も減ってきますので、高専だけで技術者を育成するということではなく、例えば地域 だったら地域みんなで沖縄に必要な技術者をみんなで育てる、これが基本。今はもう高専 では基本方針になっておりますので、各地で様々な組織との連携で技術者を育てるとい うのが大方針になっております。沖縄高専も、大学を含め、行政を含め、様々な組織、企 業を含めてみんなで技術者を育てるというやり方をこれからしていかないと駄目だとい う認識になっておりますので、将来と言わず、もう今から連携できるところとは連携させ ていただくということを考えております。

先ほどご紹介した STELLA というプロジェクト、子どもたちを技術者に育てるためのプロジェクトですが、昨年度は GODAC と本校で行ったのですが、今年度から OIST の先生方にも入っていただくことになっておりますし、美ら島財団の研究員の方にも入っていただいて沖縄全体で子どもたちを育てよう、ということになっております。他のプロジェクトについても、連携させていただけるところがあれば、ぜひということで、いろいろ一緒に考えていきたいと思っております。

#### ○野底参与

どうもありがとうございました。

#### ○名嘉村会長

他に何かありますでしょうか。

#### ○長嶺参与

お話のあった産学連携は、私たち経済産業部もパイプを持っているのでお役に立てる 領域だと思っている。お伝えしたいことはたくさんありますが、時間が限られているので 少し絞ります。

1つ目は、ご説明の中で、大学産学連携ネットワークに参画をされている話があったが、 今課題を持たれているのは何かを教えて頂きたい。例えば、県内企業となかなか繋がりづ らいと言った課題などあるか。

2つ目は、局からは事前にアントレプレナーシップ教育の連携を提案させていただいているが、回答の中で「今回1年生に実施する」とあった。先ほどの説明では1年生から4年生のアントレプレナーシップ教育を連続してやられるとのことなので、1年生に限らずという認識であっているか?

以上2点を教えていただけますでしょうか。

#### ○高良副校長

産学連携についての課題ですが、産学連携ネットワークとオープンファシリティネットワークに参画させていただいていて、そこで情報共有や機器を共有して貸し借りができるのですが、私が聞いたところ、まだ活動がうまくいってないらしいので、そこをもう

少し積極的に情報交換して、うまく効率的に連携ができればもっと良くなると思っておりますので、こちらからも働きかけや色々な意見を聞くということがこれからも必要かなとは思います。

#### ○長嶺参与

ありがとうございます。工業技術センター様や工業連合会様もネットワークに入っていると思いますので、このあたりを押さえられていれば大丈夫だと思います。何かお役に立てることがあったら教えてください。

#### ○高良副校長

こちらこそよろしくお願いいたします。

### ○長嶺参与

アントレプレナーシップは1年に限らずということで。

# ○眞喜志副校長

そうですね。カリキュラムそのものを構築したのは今の1年生からですが、これまでのカリキュラムの中でもアントレプレナーシップに資するような授業はありましたので、1年生の年次進行を待たずに先んじて3年生、4年生に導入しているところもありますから、そういう意味では4年生や5年生、専攻科生を含めた形で全学的なアントレプレナーシップの取り組みというのはやっていて、点でやっていたのを今から線で結びましょうというところの動きとなります。

#### ○長嶺参与

よろしくお願いします。

#### ○名嘉村会長

他に何かございますか。

# 〇砂川(昌)参与

教育に関してですが、3つのポリシーの話がありましたが、我々もすごく手探りでやっているといいますか非常に難しいなと感じているのが、どうやって自分の学習成果をディプロマポリシーに結び付けて自己評価できるかというのが、教学マネジメントの視点から非常に重要視されているのですが、なかなか難しいなと思って質問をさせていただいたんですね。

この教学マネジメントをやらなくちゃいけないというのは学校教育法で決まっていると思うのですが、僕がまだ分かっていないのが、高専自体の機関別認証評価というのはどういう形でまず実施されてるのかということ。あくまでも自己点検評価のみで済んでいる問題なのか、認証評価もまた別途受けなくちゃいけないのかということが分からないので教えていただきたいということが1つと、先ほど合理的配慮の話がございましたけれども、これはもう全ての大学機関等でやはり一番大きな課題にはなってると思うのですが、大学の立場としては高大接続という中で、高校の先生方から様々な入学する学生の情報を頂きつつ何とか配慮、今は配慮という言葉よりも調整という言葉のほうが本来の

使い方として正しいのですが、そういったところができないかなという視点からすると、中学校の先生方との、中学校との連携、そういったものも入学後の生徒さんのご指導とかにうまく活用できないかなということを思いましたので、この2点について教えていただきたいと思います。

# ○山田副校長

最初のご質問のポリシーに関して、学生が自分自身でどれだけ達成度を積み上げたかというのは我々としても少し難しいところでして、ようやく最近、教学マネジメントに関連したポートフォリオを学生に作らせて、それと併せて自分自身のキャリア、小学校から中学校までキャリアパスポートという形で積み上げてきたものをベースとして本校でも取り入れて、以前は手書きでやっていたものを電子化してまとめて、今、全学生にこちらを見て、それに合わせて、最近、ディプロマポリシーもしっかり整備したので、それを踏まえた形で、自分自身で達成状況を確認できるものを作っておりまして、先生のおっしゃるとおり、非常にそこの部分がどのような形で学生自身に認識させるかというのは難しいのですが、やはり手探りでやっていく必要があるのかなと。

認証評価に関しては、高専は7年に1回、ちょうど今年度は我々が受審する形でヒヤヒヤしながら準備しているところですが、この自己点検評価と参与の会に関しては毎年度の取り組みとして実施しているもので、7年に1回、認証評価を受ける形になり、それと併せて高専の中でのJABEEの位置づけとして、KISを来年度受ける形になります。

#### 〇砂川(昌)参与

これは分野別認証評価みたいなものですか。

#### ○山田副校長

そうですね。

#### 〇砂川(昌)参与

中学校のほうは。

#### ○神里副校長

受験の段階で、保護者様のほうから入試に関して心配事があったら受け付けるというのが最初にあるのですが、入学後、入学が決まった段階で心配事があるという場合には、本校では学生相談・支援室を設置しておりますので、そちらでやりとりをしてもらって、どのような配慮ができるのかというのは、できる範囲内での配慮を用意して進めていくことがあるのですが、最近、入学して通常の生活を送ってきた中で突発的に心に不安があってというので配慮が必要になるパターンが少し増えてきているので、そのようなところでの突発的に起こった場合でも、短期間での遠隔授業の配慮であったり、学校に来なくても学びを続けていて、来れるようになるのを少しずつ調整しながら、それこそ段階的に学校に戻せるように、寮生活と学校生活と二重のハードルが本校には存在してしまうので、登校して家から通学して来れるようであれば、保護者様と相談の上で、登校を少しサポートしてくださいという形で進めているというのもパターンとしてはあります。

場合によっては、我々のほうも、中学校側から全ての情報を頂くということはなかなかできていないので、訪問させていただいて、直接担任だった先生からお話を聞くということもしております。

#### ○名嘉村会長

ありがとうございます。それでは新地先生、お願いします。

#### ○新地参与

すみません、少しカメラの画面の映りが悪いみたいで。声は届いてますでしょうか。

### ○名嘉村会長

大丈夫です。

# ○新地参与

ありがとうございます。すみません、少し私のほうから 2 点ほど質問させていただきたいなと思っています。まず学生の出口指導ですかね、卒業後の進路先、進学先はどのようになっているかというところで。というのも、今ご存じのように教員不足が叫ばれている中で、大学側との会議の中でも、教育学部に入ってもなかなか教員にならない、最初は教員を目指してるけれども、一旦は外に出て一般企業を体験してからというところで、なかなか教員の成り手がいないんだというところで苦労しているのも耳にしているものですから。実際に高専での学びというのが 5 年後終えた時に子どもたちが果たしてその学びというのをしっかり活かした進学先あるいは就職先に繋がっているかどうかというところを 1 つ目お聞きしたいなと思っています。

それから2つ目ですが、少し質問事項の中のものとかぶるかもしれませんが、先ほどのものとも少し似ていますけれども。私も那覇市の学校に勤めてるのですが、やはり高専に進学したい子もいるんですね。去年も確か進学した子もいるのですが、そのような説明会、教員向けの説明会があるかどうか。例えば、私が教諭時代に一度施設見学、説明会の時にお邪魔した覚えがあるのですが、それが今も続いているのかというところが少し私も分からないものですから、もしそのような機会があればいいのですが、無い時に、例えば、保護者様からの問い合わせ、高校も今年から特色選抜ということで入試制度が大きく変わるものですから、そこら辺の説明を求められた時にある程度把握しておきたいなというのがあります。

やはりたくさんの学校数ありますので、そこが全学校というのが少し厳しければ、例えば、各市町村の教育委員会、あるいは教育事務所ごとに説明会で伺うことができれば、校長も、校長連絡会というのがあるんですね、そこでまたお話を聞く機会があるかと思いますので、もし無ければ検討していただきたいなと思ってますけれども、その辺の見解をお聞かせ願いたいなと思っています。すみません、よろしくお願いします。

### ○神里副校長

出口の説明をさせていただきたいと思います。本校は4学科ありまして、学科によって ばらつきがあるのですが、進学が大体4割、就職が6割の状況になっております。やはり 沖縄で育っている子どもたちが 9割おりますので、一度は県外に出て就職なり進学、大学での生活というのを経験したいと考えている学生たち、大多数がそのような感じなので。就職の希望者の中でも進学の希望者の中でも 8割位ぐらいは県外のほうに。7割、8割、9割は県外に一度就職先を決めて就職をして、彼らの中にもやはり県内への思いはあるので、実際には 30歳、二十歳で就職しますので、例えば 25、26 とかになった頃から何かのタイミングで沖縄にUターンして就職をしようと考えてますという卒業生が一定数いるというような状況になっております。1期生が今 34歳、35歳になるのですが、1期生から大体 5期生ぐらいまでが Uターンを始めているというような状況があります。

ご質問にあった、学んだことを活かせるような就職先というのは、マッチングに関しては、1年から3年ぐらいまでで離職するというのはほぼないかなと。たまに1人や2人ぐらい出るような状況はあるのですが、大体それも少しオーバーワークになってしまって体を壊して1回離職しましたというような卒業生の話は聞きます。ですので、自分が学んできたことを専門性として活かせているところに就職している学生たちも多くいて。ただ、高専で学んだだけを直接活かすのではなくて、自分で学べることを活かして、違う分野で働くというような学生たちもおります。ですので、起業している学生たちも卒業生の中には今多く出ていて、アントレプレナーシップの授業の中では、先輩たちOB・OGが来てもらって、自分はこういう仕事をしてきた上で今起業してるよというようなことを後輩たちに伝えてくれているような状況になっております。回答、このような感じで大丈夫でしょうか。

#### ○新地参与

ありがとうございます。2つ目はどんなですかね。

# 〇山田副校長

教員向けの説明会についてですが、本校は地理的に少し離れた場所にありますので、土日が中心となっておりますがオンラインの説明会を、特に4月、5月、6月は月に2回ほど実施しております。それを行うことによって、離島や県外の方も参加している状況です。非常に参加者が多くなってきております。また、教員向けの説明も平日の夕方で実施するようにしておりまして、さらに7月の末と9月の末には公開授業週間を設けておりまして、実際の高専の学生が授業を受けている様子を見学することもできます。こちらは中学校の先生方でも参加されている事例もありますので、そういったことも積極的に中学校様にもう少しPRしていく方法を検討したいと思います。

もし、早めに本校からの説明が必要であれば、中学校に出向いて説明することは臨機応変に対応いたしますし、中学校の先生方が夏休みを使って見学したいという場合があれば、ご連絡いただければ柔軟に対応いたしますのでよろしくお願いいたします。

### ○新地参与

ありがとうございました。離島地区の中でやはり高校が無い離島もありますので、そういった機会があると非常に助かるなと思います。ありがとうございました。

#### ○名嘉村会長

他にありますでしょうか。沖縄県の砂川さん。

#### ○砂川 (健) 沖縄県商工労働部産業雇用統括監

私のほうからは意見交換というよりご要望ですけれども、自己点検評価書の 48 ページにありますように、沖縄県と合同で理系学生向けの業界説明会ですとか、業界研究会とか開催していただいてありがとうございます。我々としましては、ここで今参加している企業様をもう少し増やして、学生さんが学んだことを実務でも就職でも使えるような受け皿づくりに努めてまいりたいと考えております。

特に、我々、産業界や県民の皆様から、今、人手不足ということで非常に強い要望があって、今一番産業界でこれが問題なのかなと考えておりますので、先ほど神里副学長からお話がありました、卒業生の中で県外から戻っていらっしゃる学生をうまく県内企業にマッチングして、人手不足の解消に努めていきたいなと考えておりますので、ぜひその辺の情報交換、または連携体制の確保にご協力のほうをお願いしたいと思います。以上です。

#### ○神里副校長

ありがとうございます。

#### ○野底参与

6月6日に「沖縄こども調査報告書」が公表されまして、沖縄県の特徴というか、かなり厳しいといいますか、若者たちの置かれている経済的状況が非常に厳しくなって、さらに悪化していると。それからもう1つは、その報告書にはあるのですが、県内に通信制の高校がたくさんできて、各高校を回ると、通信制の高校に行く学生がどんどん増えてきているという状況で、先ほどのケアの必要な学生の増加と相関があるというふうに考えております。

1点目の質問は、経済的な理由で学習を中断したり、あるいは辞めるという人たちがどの程度いて、それに対する、あるいは経済的支援に対するケアがどのようにされているのかというのが1点です。

もう1点目はコロナの影響で、我々はコロナが終わったら戻ると考えていましたが、実はコロナが終わったからといって元には戻ってないというのがどうも現実らしい。 高校などを巡ると、それが如実に表れているということなので、こういう点について、こちらの学校ではどういう状況にあるのか、その対策をどうされているのか、その2点を教えてください。以上です。

#### ○神里副校長

奨学金のことなので、私のほうから回答させていただきます。現在、在学者数が 880 人いまして、奨学金をもらっているのが、第1種で 78 人の学生が受給しております。第2種は対象が 4年生から専攻科 2年生までになるので、382 人中、第2種の貸与のほうで 13人です。給付型、2020年度から実施されている国の高等教育の修学支援新制度、これを受給させていただいている学生たちが 382 人中 120 人受給しております。

多くの学生、寮生は 550 人いるのですが、寮から出て生活している学生たちもアパートに住んでいる学生たちもおりますので、ある一定数はアルバイトなりで生活の工面をしている状況の学生たちがおります。各市町村の奨学金にエントリーして受給いただいて学びを続けている学生たちもおりますが、その経済的困窮度の度合いで、例えば、休学や退学になったケースはこの 5、6年は無くて、何とか学生たちも保護者の理解の上で、教材としてノートパソコンを購入していただくとか、そういうのをしていただいているのですが、それもやはり将来のことを考えて、今、彼らに必要な教育ということを保護者の理解の上で継続してきているのかなというのが実感としてあります。

#### ○野底参与

それに関係して、沖縄県の若者たちが奨学金を返さないで滞納している割合が他府県 と比べて非常に大きいという結果も出ているのですが、高専の場合はどんな感じですか。

### ○神里副校長

卒業した後にそれを聞くという機会も私はなかなか無いのですが、卒業したら一度県外の大手企業様に就職する割合が多くて、県内に残る学生たちもある一定の給与水準の企業に入社させていただいておりますので、そこは返納しているかと思います。

#### ○野底参与

2点目のコロナの影響が元に戻らないということで、高専の場合はどうなのかという ことと、対策ですね。

#### ○眞喜志副校長

コロナの影響は、僕は逆に無くならないと思っておりまして、ずっとあるかと思っておりました。ですので、今の3年生以上がちょうどこのコロナで中学生で高専という形で来ておりますので、学習面での影響というのはまだ残っているかと思うんです。ですので、最終的には教員が何とかしてくれるでしょうみたいなところを何か持っているのは3年生以上に多いかなというのと、意外だったのが2年生、1年生が学びに対する意欲がすごくて、むしろネガティブさよりも、もっと学ばせてくれといいますか、学びに対して素直にやっている感じがありますので、そこらあたりはまだ全然分析してないのですが、もしかしたら中学校のほうでコロナというところでの経験を積んで、ちょうどそういう転換をした学年が今の3年生ぐらい、2年生と1年生なのかなというふうには思っております。ですので、3年生と2年生、3年生以上2年生以下では明確に色が違います。

ただし、コロナの時の何らかの影響というのは今後も続くだろうと思っておりまして、 そのようなところでの対応としましては学習面での対応が多いので、いかに学びの継続 というところと教員側への負担増にならないような教育というのはできるかなと。これ はもう模索し続けるしかないかなと思っておりますので、コロナで経験して培ったもの を大切にしながら、無くすことなく教育にうまく入れ込むことができたらなという、これ はもうずっと昨年度、一昨年度ぐらいからどうするかという話を継続して、明確な答えは 出ないものでしょうけれども、そのような形での対応、それと学生の分析といいますか、 そのようなところは今進めているところになります。以上です。

#### ○野底参与

具体的に、こちらのほうでコロナを経験して上がってくる学生たちはどういうふうに 感じていらっしゃいますか。

#### ○眞喜志副校長

自分たちの学習の成果で単位を取ったという意識が低いようですね。

#### ○野底参与

リモートが多いということですか。

#### ○眞喜志副校長

我々が、教員側のフォローというところが当たり前になっている感覚がありまして、一部の学生は、これは校長先生の問題かもしれませんが、最後に特別に対応するからというところが色濃く残っていて、今年度もあるんですよねと平気で聞いてくるので、今僕はそんなのするわけ無いだろうと言う立場にないから言いませんが、そういうところも見え隠れしているのがちょうど3年生以上かなと。ちょうどコロナで色々手厚くしていたところが逆効果で、これは言葉が悪いのですが、僕は彼らを、そのような人たちはコロナの被害者だと思っていて、コロナでそういう学習を身に付けてしまった。コロナが一般的に収束して、元に戻ろうという状態で戻り切ることができなかった学生かなと思っております。そのような子に対しては突き放すのではなく、しっかりと寄り添う必要があるかなと。そのような学生が3年生以上では非常に多いという現状に教員もかなり苦労していることなどがあります。

#### ○名嘉村会長

時間も過ぎているので、僕の方からも1点だけ。感想になるのですが、先ほどの先生方の話を聞いて、例えば、学年を超えた教育プログラムですとか、学生会ですとか、あと日本人と留学生を交ぜるとかいうところが相当効果的かなと。辺野古に閉じ込めているという話もありましたけれども、十分多様性が維持できていて、教育効果が上がるような工夫をされているのかなというふうに思いました。

難しいところは、高校1年生の年齢で入ってくるというところで、どのように教育効果というのを伝えるのか。先ほどの真喜志先生のアンケートの中で、課題解決力やコミュニケーション力というのがありましたけれども、大学生でもなかなかそういうところを伝えるのは難しくて、このプロジェクトベースドラーニングを通して何を学んだかというのを振り返ってもらう時に、課題解決力を学びましたというのを相当かみ砕いて説明しないといけないところではあるのですが、それをさらに高校1年生クラスでそのようなことをやっている。恐らくそれはこれまでの歴史とかそういったものが積み重なって出来ているのかなというふうに思いました。

あとは国際交流についても大学以上の活動をされていて、すごい頭が下がる思いでは あるのですが、学生にとっては相当いい経験になるかと思いますので、今後もぜひ継続し てやっていただければというふうに思います。

ということで、ちょうど、ちょうどじゃないですね、終わらないといけない時間になりましたので、まだまだ先生方、参与の皆さま、ご質問等あるかもしれませんが、これにて打ち切りとさせてください。本日のこの会の内容は、冒頭お話ししましたが、報告書として公開する形を取りたいと思いますので、ご了承いただければと思います。内容については学校側で整備されて、恐らく僕が確認をして掲載して公表することになると思いますので、よろしくお願いします。それではこれをもちまして「沖縄工業高等専門学校参与の会」を閉会としたいと思います。どうもありがとうございました。

#### (6) 閉会

#### ○齋藤総務課長

ありがとうございました。それでは最後に、校長の佐藤よりお礼のごあいさつがございます。よろしくお願いいたします。

#### ○佐藤校長

皆様、長時間にわたりご意見ありがとうございました。あらかじめたくさんのご質問を 頂いておりますので、答えを見ながら、あと山田からもあったように、今年ちょうど認証 評価の受審で、今まさに準備をしているところです。今日伺ったお話やご質問いただいた 内容等も踏まえて、これからもう一度見直してやっていきたいと思います。

今日お話を伺った中で、色々なところとまだまだ連携が足りないなというふうに感じましたので、これ以降、具体的にどのような連携ができるかということについても個別でお話をお聞かせいただければと思っております。今日は本当に色々ご意見を頂きましてありがとうございました。

#### ○齋藤総務課長

ありがとうございました。それではこれをもちまして、本日の日程を終了いたします。 長時間ありがとうございました。

# 6. 事前質問に対する回答

No	区分	内容
		I 目的及び教育目標
	質問等	p.4:ディプロマポリシーの(4)で示されている「継続的に自己研鑽できる能力を身に付けている」はどのように評価されているのか。 (砂川参与)
1	回答	継続的に学習していく能力を養う科目として「卒業研究」を配置しており、本科4年生までに学んだ基礎知識と実験・実習で得た体験並びに本科5年生で学んでいる知識を基に、学生自身で問題意識を持ち、自ら考えることにより研究課題を遂行するための計画立案を行っております。1年を通じて調査・実験・結果の考察などを行い、中間・最終発表会にて研究成果を発表させ評価しております。
	質問等	p.9:貴学の理念、教育目標及び3ポリについて学生の認知度はどのような状況ですか。 また学生一人一人は自らの学習成果をディプロマポリシーと関連づけて自己評価され ているのでしょうか。 (砂川参与)
2	回答	入学後のオリエンテーションにおいて教育理念、教育目標及び3つのポリシー等について説明を行っており、また、教育理念、教育目標及び3つのポリシー等が記載された「学生生活の手引き」を学生に配付しております。 自身の学習成果をディプロマポリシーに関連づけての自己評価については、同内容を含む「満足度調査」を卒業生・修了生向けに実施しております。
		Ⅱ 教育組織
	質問等	p.11:校長の諮問機関である運営会議の構成員を教えてください。副校長が議長となるのでしょうか。
3		(砂川参与)
	回答	運営会議の構成員は、校長、副校長、学科長、専攻科長、事務部長となります。校長が 議長となります。
	質問等	p.12:国際担当を校長特別補佐から副校長に変更されたのは海外との教育研究や留学を強化するためでしょうか。 (砂川参与)
4	回答	本校では平成28年度から国際担当の副校長を設置しており、機構本部の国際化推進方針の下、本校の教育研究の国際化と学生・教職員の国際交流の推進をより強化しております。また、令和4年には「多文化共生・国際交流推進本部」を設置し、組織横断的により積極的な取組を行っております。

No	区分	内容
		Ⅲ 教員及び教育支援者等
	質問等	p.13の「Ⅲ 教員及び教育支援者等」に関し、近年琉球大学では教員数の削減が進んでいると聞いていますが、貴校においてはそのような削減はないのでしょうか。 (野底参与)
5	回答	本校の場合、高専機構本部にて教職員の定員を定めておりますが、今のところ定員削減の話はございません。
	質問等	p.15:教員数が令和4年度に比較して3人減少しているが、後任人事は予定されているのでしょうか。 (砂川参与)
6	回答	令和5年度に複数の後任人事を行い、一部は令和6年4月1日から採用できました。 残りの後任人事も令和6年7月1日に採用予定としております。
		Ⅳ 学生の受入
	質問等	(頁27 3. 自己評価 13行目) 広報センターの活動においては、中学校訪問やオンライン説明など幅広く行っており成果を出されておりますが、「自己評価」で「・・・中南部地区や離島での受験者に接する機会を増やすことを検討している」とあります。広報活動において中南部地区や離島の広報活動はどの位の件数を行ったのでしょうか。
7	回答	令和5年度の中南部地区、離島での広報活動として、学校説明会を3件(那覇市、うるま市、石垣市)、中学校主催進路説明会への教員派遣を5件、佐藤校長による中学校訪問を37件実施いたしました。
	質問等	p.18の上から2番目の表において、令和6年度の機械システム工学科の学力検査による選抜の受験者数が26名、合格者数が28名となっており、同科へは第一志望でない生徒が入学していると推察されますが、その理由の分析結果及び取られている対策についてご教示ください。 (野底参与)
8	回答	高専、大学において、全国的に機械工学を志望する受験生が減少傾向にあると理解しております。このため、モノづくりだけでなく、作ったものを動かすことも学べるカリキュラムであること、を発信できるような教育内容の見直しと効果的なPRを検討しております。

No	区分	内容
	質問等	p.27の「IV.佐藤校長による中学校訪問」に関し、何を基準に訪問先40校を選択されたのでしょうか。また、この訪問による志願増への効果についての分析結果をご教示ください。
9		(野底参与)
9	回答	本島中南部からの志願者が減少傾向にあったため、沖縄高専の紹介も兼ねて令和5年度は中南部の中学校を重点的に訪問しております。 なお、中学校訪問による効果については分析を予定しており、分析結果を基に本校広報センターと協力の上、今後の沖縄高専のアピール方法について検討していきます。
10	質問等	p.21:学生の受け入れについて、県外からの志願状況はどうでしょうか。寮もあるので県外からも受験しやすいのではないでしょうか。 (砂川参与)
		令和6年度については、県外受験者は10名で、その内7名が入学しております。
	回答	本校に学生寮が完備されていること以外にも、出願する高専に関係なく、全国にある5 1の国立高等専門学校とその他設置している会場のどこでも受験が可能な「最寄り地受 験制度」の導入により県外からの受験がしやすくなっているかと考えております。
		p.27:対面イベントに加え、オンライン学校説明会を継続実施した結果、学校説明会参
	質問等	加者数が大幅に増加している。今後も志願者増に繋がるアイデアに期待します。
11		(砂川参与) 今後も学校説明会やオープンキャンパス等を継続して実施するとともに、本校の魅力を
	回答	う後も子校説明云やオーノンキャンハス寺を秘続して美施りるとともに、本校の魅力をより多くの中学生、保護者等に発信できるような取組を検討、実施いたします。
		Ⅴ 教育内容及び方法
	質問等	(頁39 インターンシップでの取り組み 5行目) 「インターンシップでの取り組み」は本科4年生の必修科目として、令和5年度(2023年) は92社に167名の学生が参加しているとなっております。県内企業へのインターンシップ 受け入れは、県内企業への就職の足掛かりとなっていると思われます。県内企業のインターンシップ受け入れ数は何社だったのでしょうか。
12		(古波津参与)
	回答	県内企業のインターシップ受け入れ数は27社となります。
	質問等	p.43の「観光・地域共生デザインコース」に関し、このコースの受講と就職先との関係に ついての分析結果をご教示ください。
10		(野底参与)
13	回答	令和5年度入学生から対象となるコースのため、履修生の就職先(業種、職種)に関して、令和7年度中に学生に提示できるように本コースのコーディネーターと検討を重ねているところであり、現時点で公開できる分析結果はございません。

No	区分	内容
	質問等	p.38:今年度から本科1年生に提供しているアントレプレナーシップ教育は具体的にどの科目で実施されているのでしょうか。
		(砂川参与)
14	回答	本科1年生向けのアントレプレナーシップ教育は、4学科共通科目として実施している「高専セミナー」で実施しております。令和5年度は、6月16日〜8月5日の期間、週に1回2コマ(90分×2)で実施しております。また、2年生〜4年生までは、前学期1回、後学期1回の講話を実施しており、専門性を身に付けつつ、地域の課題に目を向け、それを解決していく意識の醸成を図っております。
15	質問等	貴校では、アントレプレナーシップ教育の強化をスタートさせており、とても良い取り組みだと考えている。経済産業部でも、令和5年度からスタートアップ支援の事業を開始している。起業家を輩出するだけでなく、起業家精神を持った人材の輩出は、沖縄だけでなくこの国の重要なテーマだと認識している。今後、産業界との連携を強化し、人材輩出を進めて欲しいと考えている。  (長嶺参与)
	回答	ありがとうございます。本校は、これまでも3年生で受講する「産業創造セミナー」の講義の中で、沖縄の産業に関して学ぶ機会を学生達に提供してきました。今回、アントレプレナーシップの醸成となる「社会に存在する課題を自分事として捉え、課題の発見力や共感力を育む」事を本科1年生に実施することにより、学びに向かう姿勢を変えていきたいと考えております。起業家精神を持った人材の育成により、地域に目を向けた人材が活躍できる場を産業界の皆様とも連携し、創っていけたらと考えております。
		VI 教育の成果
	質問等	(頁56 就職者に占める県内企業への就職者数及び就職率 表 全体 2022/3) 「就職者に占める県内企業への就職者数及び就職率」について、本科生の令和4年度 (2022年)県内就職率は全体の20%と高い数値を示しています。新型コロナウイルス感 染症の影響で、県外よりも県内企業への就職を希望した学生が多かったとの認識で良 いのでしょうか?その詳細な要因がお分かりになれば、教えて下さい。 (古波津参与)
16	回答	本科生の令和4年度(2022/3卒)の県内就職者数について、誤って20名としておりました。当該年度の各学科の県内就職者数は、機械:5名、情報:1名、メディア:4名、生物0名の合計10名ですので、正しくは県内就職率は10%(10/100)となります。お詫びして訂正いたします。なお、ご指摘のとおり、令和3年度及び令和4年度の県内就職率が10%を超えている理由として、コロナ禍の影響から県内企業への就職を選択した学生が、若干増えたためと考えられます。 (各年度の就職希望者が1学科10数名~約30名程度で、20名以下の学科では1名の進路状況の差異により、県内就職率に換算すると5%~10%と比較的大きな割合で変化するため、実態把握には実数を勘案する等の注意も必要となります。)

No	区分	内 容
	質問等	p.45の「2. 取組」に関し、就職困難者(学生)に対して取り組まれている支援についてご教示ください。また、極少数とは思いますが、就職意欲がかなり低い学生に対する支援についてもご教示ください。
		(野底参与)
17	回答	就職困難者(学生)として、支援対象の学生と単に成績不振の学生とに分かれ、前者は学生相談・支援室との連携となりますが、両者とも主に担任及び卒研担当教員などの学科教員が個別に進路活動の支援対応をしているのが実情です。また、就職意欲が低い学生も含め、まずは卒業を目指し卒業後にも進路活動の支援を行っている場合もあります。これらの学生への支援について、県の新規学卒者総合就職支援事業により常駐いただいている、就活コーディネータの個別相談に繋ぐかたちでも対応をしております。
	質問等	pp.49-55, 56の卒業生、修了生の進路状況の表に関し、卒業生、修了生ともに県外企業への就職が多いのですが、その理由についての分析結果をご教示ください。また、令和5年以降、卒業生の地元の琉球大学への進学が減少している理由についての分析結果をご教示ください。
18		(野底参与)
	回答	理由の一つとして、本校学生の9割以上が県内中学卒業で、卒業後に県外での生活を 夢見て本校に入学してきていることが挙げられます。また、琉球大学への進学が減少し ている理由の一つとして、いくつかの県内企業で、これまで本校の本科卒業生採用枠を 設けていなかったところが、本校からの採用枠を設けるようになり、かつ本校を含む高 専卒業生に対する多くの求人数などが影響していると考えられます。
	質問等	p.51の卒業生の進路状況の表に関し、貴校の卒業生が沖縄能開大に進学し貴校で学んだものとは異なる技術を学べば、デュアルディグリーの技術者版に相当するものとなり得、地域産業により貢献し得る技術者を育成できると思いますが、これを支援する連携の構築について貴校のお考えをご教示ください。
19		(野底参与)
	回答	これまで進学先として、現在の専門分野や卒業研究の延長上でさらに学びを深める観点から選択し実際に進学していく場合がほとんどで、デュアルディグリーの観点での進学、特に技術者としての守備範囲を広める観点からの進路指導は行っておりませんでした。今後の検討課題とさせてください。
	質問等	経済産業部では、令和4年度から情報通信システム工学科と連携し、教職員・学生への 県内半導体関連企業の事業説明会を始めており、昨年度は企業に訪問するツアー開 催も行った。アンケート回答からは、企業が持っている技術に感心を示す学生がいる事 が確認できており、県内企業に関心を持つきっかけになっている事が分かる。こうした 学生の好奇心に応えるためにも、産業界の力をもっと活用して頂き、より高度で実践的 な技術に触れる機会を創出して欲しいと考えている。産業界との連携にあたっては、引 き続き経済産業部で支援させていただく。
20		(長嶺参与)
	回答	一昨年度の県内半導体関連企業の事業説明会をはじめ、昨年度の企業訪問ツアーを 実施いただき、参加学生のみならず教職員にとっても知見を拡げる良い機会となりました。ありがとうございました。今後もインターンシップや見学会など学生を地域で育てる プラットフォーム作りにご協力頂き、半導体関連企業だけでなく県内立地の他産業の企 業にも目を向ける活動を継続していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお 願いいたします。

No	区分	内容
		Ⅷ 学生支援等
	質問等	p.58の「学生の課外活動支援体制」に関し、各学年のそれぞれの部・同好会への加入率についてご教示ください。 (野底参与)
21	回答	別紙参照 ・部は、体育部・文化部とも低学年の方が加入率が高いが、特に体育部は3年生まで高体連の大会への参加が可能であるためと考えられます。 ・同好会は、低学年・高学年ともまんべんなく加入しております。 ・委員会は、4年生までの学年でばらつきなく加入率が高いが、ロボコン・プロコンに出場するロボット製作委員会・ICT委員会があるためと考えられます。 ・全体的に5年生の加入率は悪いが、卒業年次であり、進路活動・卒研等へ従事する時間が主となるためであると考えられます。 ・部や同好会の活動の他に、学生達は創造研究なども取り組んでおり、4年生以上では、専門的なスキルを伸ばすための取り組みに注力する学生が多いと考えられます。
	質問等	p.67:「安心・安全な学校生活を送るために」のアンケートへの回答数が少ないように思いますが、その改善策はありますか。 (砂川参与)
22	回答	現在、所掌事務担当からメールによりアンケート実施を通知しておりますが、学生に対して同方法による通知だけでは、周知が不足している感があるため、担任教員からHR等の時間に直接学生へ周知を行う、学生会に対し呼びかけを依頼する等、学生に対し、より目に触れる周知方法を検討しております。また、本アンケートがいじめ行為に対してのヘルプサインや早期発見に繋がる内容であるため、いじめを他人事と思わないような意識の啓発とアンケートの項目の追加など今後、内容の見直しを行い、回答数の向上を目指します。
23	質問等	p.77の「夢工場」に関し、産学連携に関係した利用実績をご教示ください。 (野底参与)
	回答	昨年度から夢工場を利用した共同研究を2件締結しております。
	質問等	p.77の「夢工場」に関し、同工場が所有する設備のリストは公開されているのでしょうか。また、所有する設備のリストについて、沖縄能開大や琉球大学及び沖縄工業技術センター等と情報交換する制度を構築する予定はないのでしょうか。 (野底参与)
24		毎年発行しております地域連携研究推進センター報には、実習工場系技術職員のページに、夢工場の設備が記載されております。今年度、本校で利用可能な設備リストをホームページで公開予定です。また、本校では、おきなわオープンファシリティネットワークに参画しており、琉球大学をはじめ県内の研究機関と共同で使用できる設備等を公開しております。 https://c-rac1.skr.u-ryukyu.ac.jp/OoPNet/about/

No	区分	内。    容
		p.78の教育・実験棟の用途及び利用実績についてご教示ください。
25	質問等	(野底参与)
	回答	教育・実験棟は、温室2区画(330㎡)、セミナー室1室(106㎡)、実験室1室(32㎡)で構成され、生物資源工学科及び技術支援室の教職員が研究(学生の卒業研究含む)や、GEAR事業等の教育研究に利用しております。
		X 研究活動の状況
	質問等	(頁88 3. 自己評価 7行目) 地域連携研究について「研究シーズ集」や「産業界との連携」など、「産学連携研究推進 部門」についてかなりの活動が見受けられます。「知的財産部門」においての特許、実 用新案等の件数や「知的財産委員会」に関わる内容が見受けられないのですが、どの ような会合等を行ったのでしょうか。
26		(古波津参与)
26	回答	知的財産委員会では、昨年度1件の案件の審議を行いました。また、会合ではありませんが、沖縄産業まつりでは、本校で保有している知的財産の紹介を行いました。その他にも、学内では、事務職員向けに知的財産セミナーを開催し、職員が日々の業務を遂行するにあたり、必要となる知的財産保護上の注意点等を中心に講義していただきました。
	質問等	p.83の「2. 地域及び産業界との連携及び外部資金獲得」に関し、貴校が沖縄能開大や 琉球大学及び沖縄工業技術センター等との連携の下で行った地域産業との連携につ いて、その実績をご教示ください。また、そのような連携の制度を構築する予定はない のでしょうか。 (野底参与)
27	回答	本校では、琉球大学や沖縄科学技術振興センター等が参画している、大学等産学連携 ネットワークに参画しております。昨年度は2回会議を行い、産学連携に係る取組み状 況の報告や意見交換を行いました。
28	質問等	沖縄能開大や琉球大学及び沖縄工業技術センター等と連携すれば、より効果的な地域産業への貢献が可能ではないかと考えますが、上記のNo.24及びNo.27に記載の連携を含め、沖縄能開大や琉球大学及び沖縄工業技術センター等と広範囲にわたって連携する制度を構築する予定はないのでしょうか。 (野底参与)
	回答	本校では、沖縄県内での研究機器・設備の運用連携を目的とした「おきなわオープンファシリティネットワーク」へ参画しております。ネットワーク参画機関の増加と研究連携を図り、沖縄県内における研究及び産業の発展に寄与することを目指し、機器の相互利用だけではなく、機器運用に関する技術交流や情報共有を行っております。

No	区分	内容
		XI 外部資金受入状況
29	質問等	(頁92 技術相談会の実施 7行目) 「技術相談会」については、本会も場所を提供しております。令和4年度(2022年)の技術相談件数は32件でした。昨年5月に新型コロナウイルスは感染症法上の5類となり相談件数が増えるように思えたのですが、企業全体に安堵感が出てきたのか令和5年度(2023年)の相談件数は28件と若干減少しております。どのようなことが考えられるのでしょう。
	回答	令和5年度より新たな地域連携コーディネーターが就任となったことにより、着任して日が浅いことから相談企業と教員とのマッチングに苦労したことも要因の一つと考えておりますが、従来どおり積極的な企業訪問を行うことにより、令和5年度末時点での相談件数は昨年度とほぼ変わらない件数に達しております。
30	質問等	p.89の「XI 外部資金(科研費、共同研究、受託研究)受入状況」に関し、校費による基礎的な教育研究費は教員一人当たりどれほどでしょうか。また、その額は外部資金を獲得できない場合においても、教員の教育研究活動に支障はないのでしょうか。また、昨今の物価高により教育研究費の実質の金額が減少していると思われますが、それへの対策についてご教示ください。 (野底参与)
30	回答	校費による基礎的な教育研究費は、一教員あたり12万円です。この額は外部資金を獲得できない場合においても一律で支給しております。本研究費以外においては、外部資金獲得によるインセンティブを設けております。研究費獲得に向けて積極的な教員には、教育・研究に関する校長裁量経費を設けており、研究費を必要としている教員へ研究費を配分できるよう配慮しております。
31	質問等	p.90:外部資金受け入れ状況の過去三年間のデータを比較すると減少傾向にあるのですが、その大きな要因は何ですか。関連して、科研費の申請率および採択率はどのような状況でしょうか。  (砂川参与)
	回答	件数に関しては、あまり増減はありませんが、昨年度採択されたJSTが実施する「共創の場形成支援プログラム」に関して、令和4年度は初年度のため予算が多く計上されており、今年度からは予算が減少しております。また、大型の研究助成金が獲得できなかったことが要因として挙げられます。科研費の採択率は減少傾向となっており、機構本部と連携し、科研費獲得に向けて研修会等を行っております。

No	区分	内容
140	四刀	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
		江 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況
32	質問等	p.97の「3)多文化共生・国際交流推進本部」に関し、貴校における留学生と日本人学生の交流の実績をご教示ください。 (野底参与)
	回答	外国人留学生に対して日本や沖縄についての理解を深めてもらい、外国人留学生と日本人学生同士での交流を図ることを目的に様々なイベントを実施しております。令和5年度には渡嘉敷島での平和学習・自然学習、那覇大綱引きへの参加、お正月の餅つき大会を実施いたしました。また、海外の文化を日本人学生に紹介し、相互理解を深めてもらうためにタイとミャンマーのお祭り「ソンクラン・ティンジャン祭り」を実施いたしました。
	質問等	p.97: 貴校における派遣および受入留学はどのような状況でしょうか。 (砂川参与)
33	回答	令和5年度の派遣及び受入留学は以下のとおりです。 〇派遣留学 アメリカ:1名、カナダ:1名、ニュージーランド:3名、オーストラリア:3名、マレーシア:1 名 〇受入留学 タイ:17名 高専機構本部にてタイ高専プロジェクト事業を実施していることから、タイから短期の受入れを行いました。

# 課外活動団体への加入率 (学年別)

令和3年度

	体育	部会	文化	委員会等			
	部(%)	同好会(%)	部(%)	同好会(%)	%		
1年	36.6	0.6	10.4	3.0	17.1		
2年	25.5	3.0	6.1	7.3	12.1		
3年	21.3	1.3	2.5	5.6	16.9		
4年	8.5	3.9	0.0	6.5	13.7		
5年	6.6	0.0	2.8	3.3	5.5		

# 令和4年度

	体育	部会	文化	委員会等			
	部(%)	同好会(%)	部(%)	同好会(%)	%		
1年	28.8	2.5	3.7	1.2	4.9		
2年	21.3	7.3	6.7	11.0	7.3		
3年	20.0	5.3	3.5	3.5	12.9		
4年	24.0	0.0	3.2	5.8	7.8		
5年	11.8	2.6	5.9	5.9	9.2		

# 令和5年度

	体育	部会	文化	委員会等			
	部(%)	同好会(%)	部(%)	同好会(%)	%		
1年	36.6	0.6	10.4	3.0	17.1		
2年	26.3	3.1	6.3	7.5	12.5		
3年	20.9	1.2	2.5	5.5	16.6		
4 年	7.4	3.4	0.0	5.7	12.0		
5年	8.2	0.0	3.4	4.1	6.8		

※学生数は年度末時点(休学者除く)

※兼部は不可。(部・同好会・委員会の兼部は可。)

# 令和5年度 自己点検評価書

令和6年3月

独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校

# 目 次

Ι	目的及	び参	育	目	標	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•			-	1
П	教育組	L織・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	. (	0
Ш	教員及	び参	育	支	援	者	等	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	. ;	3
IV	学生の	受入	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	. '	7
V	教育内	容及	び	方	法	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		2	2 8	8
VI	教育の	成果	Ļ.	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		4	Į <b>!</b>	5
VII	学生支	援等	<u>.</u>	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		5	5 8	8
VIII	施設•	整備	į ·	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		7	' (	6
IX	教育の	質保	証	及	び	改	善	の	た	め	シ	ス	テ	ム	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		8	3 (	0
X	研究活	動の	状	況	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		8	3 :	3
XI	外部資	金受	入	状	況	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		8	3 9	9
XII	正規課	程の	学	生	以:	外	に	対	す	る	教	育	サ	_	ビ	ス	の	状	況	•	•	•	•	•		9	) ;	3
ХШ	管理運	営・	•	•	•	•	•	•	•		•			•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	1	L C	) [	1

# 1. 現状

#### ◇沖縄工業高等専門学校の理念

本校では学則第1条において本科(準学士課程)、専攻科(学士課程)共通の理念を次のように定めている。

「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。」

# ◇本科の目的

学則第1条で定められた理念を達成するため、本科の目的を学則第1条の2において次のように定めている。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

#### ◇本科の教育目標

学則で定められた理念・目的を達成するため、「沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程」において、各学科共通教育目標、各学科の人材養成上の目的及び教育目標を次のように定めている。

### 各学科共通の教育目標

- (1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
- (2) 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
- (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
- (4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

#### 機械システム工学科

(1) 人材養成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究 を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。

- (2) 学生に修得させるべき能力(教育目標)
  - ① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
  - ② 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
  - ③ 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
  - ④ 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

#### 情報通信システム工学科

(1) 人材養成上の目的

環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる 実践的・創造的技術者を育成する。

- (2) 学生に修得させるべき能力(教育目標)
  - ① 情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
  - ② コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
  - ③ 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
  - ④ 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とディジタル及びアナログの集積回 路設計の基本技術力

#### メディア情報工学科

(1) 人材養成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

- (2) 学生に修得させるべき能力(教育目標)
  - ① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
  - ② コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
  - ③ モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
  - ④ 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

# 生物資源工学科

(1) 人材養成上の目的

環境に配慮し、生物資源の利用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる 実践的・創造的技術者を育成する。

- (2) 学生に修得させるべき能力(教育目標)
  - ① 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
  - ② 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
  - ③ 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
  - ④ 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

#### ◇専攻科の目的

学則第1条で定められた理念を達成するため、学士課程の目的は学則第59条において次のように定めている。

「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成することを目的とする。」

#### ◇専攻科の教育目標

- (1) 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
- (2) 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
- (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
- (4) 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

#### ◇専攻科の養成しようとする技術者像

- (1) 実践性と創造性を兼ね備えた技術者
- (2) 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点から考えられる技術者
- (3) グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
- (4) コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
- (5) 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
- (6) 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

#### ◇三つの方針

アドミッションポリシー

本科のディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める。

- (1) 理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- (2) 責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーション力を磨ける人
- (3) 規則正しい生活と、自発的に勉強のできる人本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法で入学者選抜を行う。
- ・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者(志望動機が適切である志願者)に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接(アドミッションポリシーに従う質問)により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

• 帰国子女特別選抜

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、 調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

#### 編入学:

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の方法で入学者選抜を行う。

・本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を 行う。

#### カリキュラムポリシー

本科では、以下の科目を配置し、専門的基礎力、コミュニケーション力、倫理観、自己研鑽力を育成する。

- (1) 各専門分野の基礎的な知識を学び、かつそれらを応用する科目:各学科専門科目、総合科学科科目
- (2) 各専門科目の技術を修得する科目:専門学科実験実習科目、卒業研究
- (3) 共同で問題解決にあたりコミュニケーション力を修得する科目:専門学科実験実習科目
- (4) 継続的に学習していく能力を養う科目:卒業研究

#### ディプロマポリシー

本科では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する。

- (1) 理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用する実践力を身に付けている。
- (2) コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。
- (3) 技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てる能力を身に付けている。
- (4) 継続的に自己研鑽できる能力を身に付けている。

# 機械システム工学科

アドミッションポリシー

機械システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。

- (1) 機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人
- (2) 機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している人
- (3)機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲がある人

#### カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する。

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群:国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康 科学など。「本科教育目標:(1)]「学科教育目標:1]
- (2)機械システムの知識を習得する科目:物理と数学を基礎としたいわゆる四力学(材料力学、流体力学、機械力学、熱力学)と、これらを基盤とした基礎専門科目、および制御工学に関連する基礎科目(電気電子工学、メカトロニクス工学、制御工学など)[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:1、3、4]
- (3)機械システムの技術を修得する科目:実践的な機械システム工学実験、材料加工システム(工作実習)、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目[本科教育目標: (1)、(3)][学科教育目標:2、3、4]
- (4) 課題解決能力を育成する科目:課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する 卒業研究、クラスの他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する創造演習、 正しい倫理観を養う技術者倫理など[本科教育目標:(2)、(4)][学科教育目標:1~4] これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によって はレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する。

# ディプロマポリシー

機械システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする機械工学の専門知識と広く人 文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以 下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

- (1) 機械工学分野の知識と技術を活用し、課題解決に向けて行動できる能力 [本科教育目標:(1)、(2)、(3)] [学科教育目標:1~4]
- (2) 課題の本質を理解し、論理的に思考しようとする能力 [本科教育目標:(1)、(3)] [学科教育目標:1、3]
- (3) 他者と協働し、積極的に課題解決に向けて行動できる能力 [本科教育目標:(1)、(3)] 「学科教育目標:1~4]
- (4) 倫理観・責任感を持って課題に取り組むことのできる能力 [本科教育目標:(1)、(4)] [学科教育目標:1]
- (5) 自身の成長のため、自己研鑽できる能力 [本科教育目標:(3)、(4)] [学科教育目標: 1~4]

#### 情報通信システム工学科

アドミッションポリシー

情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。

- (1) コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- (2) 携帯端末などの新しい電子機器や電子工作に興味のある人
- (3) 情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

# カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する。

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群:国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康 科学など。[本科教育目標:(1)][学科教育目標:1]
- (2) 工学の基礎としての数学、物理学、電気・電子工学と情報通信工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する科目を配置する。[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:1~4]
- (3) 問題や課題に対して、個人またはグループで自主的、計画的に解決に導き、まとめる能力を身につけるため、実験、演習、実践的科目を体系的に配置する。[本科教育目標: (2)、(4)][学科教育目標:1]
- (4) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力と国際的コミュニケーション基礎能力を 身につけるため、卒業研究、実験、演習、外国語の科目を配置する。[本科教育目標: (2)、(4)][学科教育目標:1]
- (5) 技術者倫理に関する科目を配置し、グローバルな視点と様々な社会状況に応じた視点から物事を捉えられるよう配慮する。[本科教育目標:(4)][学科教育目標:1]
- (6) 実践的・創造的技術者として自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むよう配慮する。[本科教育目標:(1)~(4)][学科教育目標:1~4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する。

#### ディプロマポリシー

情報通信システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする情報通信システム工学の 専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。 本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認 定する。

- (1) 工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を身につけている。[本科教育目標: (1)、(3)][学科教育目標:1~4]
- (2) 課題に対し、論理的な思考により、個人またはグループで自主的、計画的に物事を進めて解決を導く能力を身につけている。[本科教育目標:(2)、(4)][学科教育目標:1]
- (3) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力、コミュニケーション基礎能力を身につけている。[本科教育目標:(2)、(4)][学科教育目標:1]
- (4) 技術者としての倫理観を体得し、グローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を身につけている。[本科教育目標:(4)][学科教育目標:1]
- (5) 実践的・創造的技術者として自立する意識、職業選択を自主的に行える能力、及び社会と産業の発展に果敢に取り組む挑戦的な態度を身につけている。[本科教育目標:(1)~(4)][学科教育目標:1~4]

# メディア情報工学科

アドミッションポリシー

メディア情報工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも 以下に準じる。

- (1) コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
- (2) コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
- (3) コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

#### カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している:

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群:国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康 科学など。[本科教育目標:(1)][学科教育目標:1]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術に関する専門科目群: プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、0S とコンパイラ、ディジタル回路、ディジタルシステム設計など。[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:2、3]
- (3) ネットワーク、および情報セキュリティの基礎技術に関する専門科目群:通信工学、 情報セキュリティ、コンピュータネットワークなど。[本科教育目標:(1)、(3)][学 科教育目標:2,3]
- (4) データや情報の加工・表現のための基礎技術に関する専門科目群:メディアコンテンツ基礎、コンピュータグラフィックスなど。[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:2、3、4]
- (5) 課題解決、知識・理論・アルゴリズムの応用などの総合的能力を育成するための科目 群:各種実験、卒業研究など。[本科教育目標:(2)、(4)][学科教育目標:1~4] これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によって はレポート等の評価結果によりで評価し、60点以上で単位を認定する。

#### ディプロマポリシー

メディア情報工学科では、数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

- (1) 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力。[本科教育目標:(1)][ 学科教育目標:1、4]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力。[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:2、3]
- (3) モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力。[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:2、3]
- (4) 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力。[本科教育目標: (1)、(3)][学科教育目標:1、4]
- (5) 課題解決能力、知識・理論の応用力などの総合的能力。[本科教育目標:(1)、(2)、(3)] 「学科教育目標:1~4]

# 生物資源工学科

アドミッションポリシー

生物資源工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に進じる。

- (1) 生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
- (2) 自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
- (3) バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

#### カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群:国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康 科学など。[本科教育目標:(1)][学科教育目標:1]
- (2) 生物工学の基礎科目:情報技術の基礎、基礎科学、応用物理、応用数学、基礎プログラミング、情報技術の応用、有機化学・物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用学 I、生理学、食品プロセス工学、食品製造学、化学資格基礎、分子生物学、細胞工学、環境保全学、植物生理学、資源リサイクル学、生物資源利用学 II、タンパク質工学、産業化学など [本科教育目標:(1)、(3)] [学科教育目標:2~4]
- (3) 技術習得に関する科目:実践的な生化学実験、遺伝子工学実験、生物工学実験、微生物学実験、環境学実験、生理学実験、化学及び化学実験法など [本科教育目標:(1)、(3)] [学科教育目標:2~4]
- (4) 課題解決能力・コミュニケーション力育成科目:沖縄高専セミナー、創造演習、インターンシップ、産業創造セミナー、バイオテクノロジー基礎実験、創造研究、卒業研究など[本科教育目標:(1)~(4)][学科教育目標:1~4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては、レポート、発表、報告書等で評価し、60点以上で単位を認定する。

#### ディプロマポリシー

生物資源工学科では、生物資源工学科に所定の期間在学して、設定された単位を習得し、かつ以下の能力を身に付けた者に卒業を認定する。

- (1) 亜熱帯域の生物資源に対する生物化学、食品化学、環境学・微生物学に関する基礎知識および専門知識を持ち、生物資源の効用や利用方法を探索できる創造的・実践的な研究・開発の技術力を有する。[本科教育目標:(1)、(3)][学科教育目標:1~4]
- (2) アジア圏と接近している地理的条件を活かして国際交流をはかり、相手の考えを受け 入れると共に自分の考えも主張し、到達点を決め、それに向かって協力していけるチ ームワーク力やコミュニケーション力を有する。[本科教育目標:(2)、(4)][学科教 育目標:1]
- (3) 習得した専門知識を基礎として、仕事をするために必要な情報は何であるか、それらをどのように組み合わせれば効率的に仕事が行えるかの思考力を有する。[本科教育目標:(2)、(4)][学科教育目標:3、4]
- (4) 困難に遭遇した際に、自分の現状を把握し、どこが問題で、どうしたら解決できるのか、どのような助力を求めればよいのかを明確にする論理的思考とそれらを他者へ説明するコミュニケーション力を有する。[本科教育目標:(2)、(3)、(4)][学科教育目標:1]
- (5) バイオ、化学、環境、医薬・食品系産業などで活躍できる人材であり、社会ニーズに応えることができ、国際性を備えた技術者としての能力を有する。[本科教育目標:(2)、(3)、(4)][学科教育目標:3、4]

# 専攻科

アドミッションポリシー

専攻科(創造システム工学専攻)では、ディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める。

- (1) 技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
- (2) 専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
- (3) 基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
- (4) 新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
- (5) 複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法で入学者選抜を行う。
- ・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者(志望動機が適切である志願者)に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、面接(アドミッションポリシーに従う質問)により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を行う。

#### • 社会人特別選抜

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接(アドミッションポリシーに従う質問)及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

#### カリキュラムポリシー

専攻科(創造システム工学専攻)では、基本科目として以下に対応した科目を設ける。

- (1) 専門科目の応用力を身につける。
- (2) 知識を融合・複合する力を身につける。
- (3) 他者と協働できるコミュニケーション力を身につける。
- (4) グローバルな視点で物事を見る力を身につける。

#### ディプロマポリシー

専攻科(創造システム工学専攻)では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を 修得した学生に対し卒業を認定する。

- (1) 深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用することができる。
- (2) 論理的に物事を考え、表現することができる。
- (3) 倫理観を持ち、他者と協働することができる。
- (4) グローバルな視点で、多面的に物事を捉えることができる。

#### 2. 取組

学則に定めた目的を果たすために沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程に各学科共通の教育目標と学科毎の人材養成上の目的ならびに学生に習得させるべき能力を定めている。

専攻科においては、専攻科教育理念、育成しようとする技術者像、創造システム工学専攻の教育方針、各コースの教育方針を定めている。

さらに、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令(平成28年文部科学省令第16号)」が平成28年3月31日に公布されたことを受け、本校においてもこの省令に基づき「三つの方針」を平成29年3月に策定、及び公表した。

#### 3. 自己評価

本校では、高等専門学校としての使命を果たすため、理念、目的を明確に定めている。本科 (準学士課程) においては学科共通の教育目標を定めているほか、学科毎に人材養成上の目的ならびに学生に習得させるべき能力を定めている。専攻科 (学士課程) においても教育理念、教育方針等を明確にするとともに、教育目標を定めている。

これらの目的、教育目標及び三つの方針等は学生に配布している学生生活の手引きに明記している。また、県内の中学校、公立の図書館等に配布している学校要覧及び本校ウェブサイトに掲示しており、社会に対して広く公表している。

# Ⅱ 教育組織

# Ⅱ 教育組織

#### 1. 現状

本校は教育目的を達成するため、学校教育法第116条、高等専門学校設置基準第4条、第5条に準拠し、準学士課程として機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の4学科(各学科定員40名)を設置している。その教育目標に沿って育成しようとする技術者像を学科ごとに定めて教育を実践している。また、一般科目を教育する総合科学科を設置して、専門学科と連携しながら専門と一般のバランスの良い教育を実施している。

学科	学級数	入 学 定 員	収 容 定 員
機械システム工学科	1	40 人	200 人
情報通信システム工学科	1	40 人	200 人
メディア情報工学科	1	40 人	200 人
生物資源工学科	1	40 人	200 人
計	4	160 人	800 人

本校専攻科では学校教育法第 119 条に準拠して、創造システム工学専攻(入学定員 24 人)を設置している。産業界での複合専門分野における課題をシステム的、かつ創造的に解決する能力が求められることを鑑み、ひとつの複合分野として専攻科を設置しているが、準学士課程の関連科目と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースから構成されている。専攻科の理念、目的、育成しようとする技術者像を定め、これに沿った教育目標、教育方針を定めるとともに、コース毎に目標とする技術者像を掲げ、教育を実践している。

専 攻	入学定員	収容定員
創造システム工学専攻	24 人	48 人

#### 2. 取組

本校における教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として、運営会議が設置されている。運営会議は本校の運営全体を審議する機関であり、教育課程全体を企画調整するための検討も重要な部分を占めており、各種の事項が審議・報告されている。

#### 沖縄工業高等専門学校運営会議規則 (抜粋)

(目的)

第2条 運営会議は、校長の諮問に応じ、本校の管理運営に関する諸問題について検討し、 校務の円滑なる運営を図ることを目的とする。

#### (審議事項)

- 第3条 運営会議は、次に掲げる事項を審議する。
  - (1) 教育研究組織の設置・改廃に関すること
  - (2) 学則その他重要な規則の制定・改廃に関すること
  - (3) 入学者選抜に関すること
  - (4) 教育研究の改善に関すること
  - (5) 予算に関すること
  - (6) その他、本校の管理運営に係る重要事項に関すること

また、校長の諮問組織である委員会等が設置されていることに加えて、令和2年度から副校 長及び校長特別補佐の体制を整備し、本校の経営戦略に関わる重要事項については、副校長を 中心に構成する新たな会議(トップミーティング)を月2回開催するなど、教育に関する企画・ 運営体制を強化した。教育課程を有効に展開するために重点的に検討・運営を行う組織は、教 務主事を委員長とする教務委員会が中心となっており、準学士課程・専攻科課程の両課程に ついて検討が行われ、カリキュラムに関わる事項の審議を行っている(附属施設及び委員会 組織所掌図:次ページ参照)。

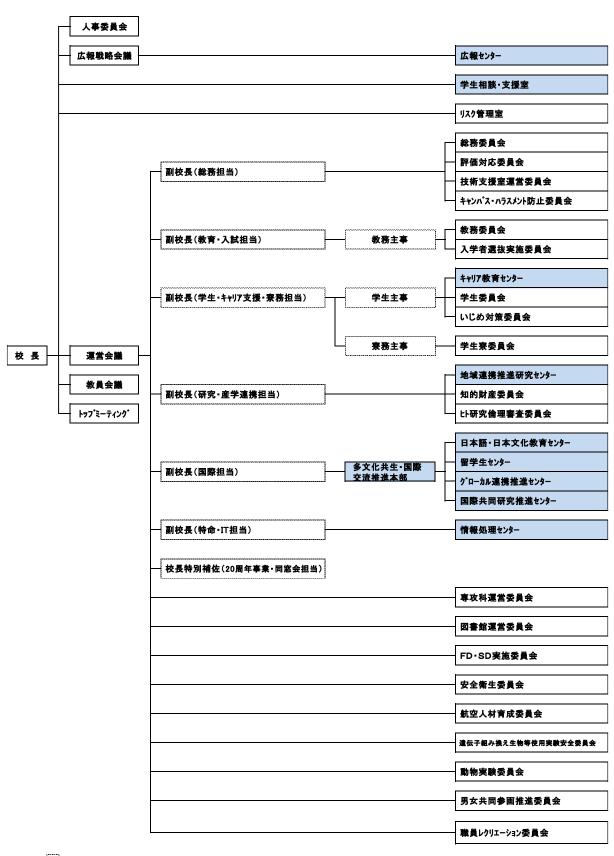
#### 3. 自己評価

本校の準学士課程における4つの専門学科は高等専門学校設置基準に適合したものであり、 各学科が育成しようとする人物像は学校の掲げる教育の目的と適合し、目的を達成するうえ で適切なものになっている。

本校の専攻科は学校教育法の規定に適合したものであり、創造システム工学専攻の育成しようとする技術者像、各準学士に対応するコース毎に定める育成しようとする技術者像、いずれも学校の掲げる教育の目的と適合性が取れている。

教育課程全体を企画調整するために運営会議が設置されている。また、準学士課程・専攻 科課程の具体的な検討・運営体制として教務委員会が設置されている。これらの委員会は総 合科学科およびすべての専門学科から選出された委員から構成されており、教育課程に関わ る様々な事項について活動を行っている。したがって、教育課程の企画調整及び実施に必要 な検討を行う体制が整備されており、継続的な活動(PDCA)が行われている。

#### 附属施設及び委員会組織所掌図



: 附属施設・委員会等を所掌する副校長等

:附属施設

# Ⅲ 教員及び教育支援者等

#### 1. 現状

本校の理念、目的及び教育目標を設定し、担当教員は、これを達成すべく各科目を担当している。

#### ◇総合科学科

令和6年1月1日現在、一般科目を担当する総合科学科の専任教員は17名(嘱託准教授1名を含む)により構成されており、5年一貫の教育課程の中で社会人として必要な知識や教養を身につける教育を行っている。また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養う。そのため、高校と大学間の授業内容の重複を避け、5年間を通しての効果的なカリキュラムを編成している。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し、特に英語では読む・聴く・話す・書くという基本的な四技能をバランスよく伸長することを目的として、座学のみならずスピーチ・プレゼンテーション・ディベート指導も取り入れている。国語教育においては、論理的に文章を分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成している。専門科目につながる自然科学や数学の授業は、理論のみを追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成している。

総合科学科(一般科目)教員構成 必修 選択 特許法 社会科学 数学 自然科学 健康科学 合計 国語 外国語 法学 教授 准教授 講師 助教 () 計 嘱託准教授 () 非常勤講師 合計 

令和6年1月1日現在

#### ◇機械システム工学科

本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指している。本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、(1)材料と加工を中心とした材料システム群、(2)設計と力学を中心とした設計システム群、(3)制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群に再構成し、モノの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・工作実習・工学実験等の機械設計・製作・システム制御の基礎から応用までを通し、自己学習を重視した教育を行っている。

# ◇情報通信システム工学科

本学科では、以下の情報化社会を支えている様々な技術分野について学ぶ。

- (1) コンピュータアーキテクチャ(2) プログラミング(3) 集積回路(4) 信号処理
- (5) 光・無線通信技術(6) ネットワーク(7) オペレーティングシステム(8) アルゴリズムとデータ構造(9) 組込みシステム

具体的には、コンピュータを構成する集積回路などのハードウェア、コンピュータの動作や機器制御のためのソフトウェア開発のためのプログラミングについて学ぶ。また光・無線・移動体通信に代表されるような通信・ネットワーク関連技術についても学ぶ。これらはコンピュータだけではなく、身の回りの電子製品、電化製品、情報機器の主要な技術であり、人々の生活を豊かにするとともに、これらを組み合わせることにより、各種機器への応用やロボット制御などのシステム構築も可能となる。

# ◇メディア情報工学科

本学科では、マルチメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行う。

- (1) アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育。
- (2)世界規模で動作するインターネットの仕組みやセキュリティ及びブロードバンドでユビキタスな通信技術に関する教育。
- (3) 情報を音声、画像、CG など種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてディ ジタル加工するコンテンツ制作教育

#### ◇生物資源工学科

本学科では、沖縄県の亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用、かつ環境に 配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指している。そこで、以下の教育課程に より教育・研究を行っている。

専門分野の授業科目は(1)生物化学工学群、(2)環境・微生物学群、(3)食品化学工学群の3群を軸に編成されている。

- (1)生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実する。 さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践 的な能力を養う。
- (2) 環境・微生物学群では、微生物に関する知識の基礎と応用を学ぶ。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得する。
- (3) 食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の 基礎と応用を学ぶ。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模 における食品製造の実践的能力を養う。

令和6年1月1日現在

各学科教員構成										
	教授 准教授 講師 助教 計 特命助教 合言									
機械システム工学科	6	3	1	0	10	0	10			
情報通信システム工学科	7	1	1	0	9	0	9			
メディア情報工学科	4	2	1	2	9	0	9			
生物資源工学科	8	2	1	0	11	2	13			
計	25	8	4	2	39	2	41			

# ◇専攻科

沖縄高専の専攻科は本科の5年間の専門基礎教育課程の上に、更に2年間の専門技術教育を行う教育課程である。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースで構成され、それぞれ特色のある教育課程を編成している。実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性を持つ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としている。専攻科を修了した学生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、学士(工学)の学位が取得できる。

令和6年1月1日現在

	学修総まとめ科目担当教員数
教 授	21 (2)
准教授	7 (2)
講師	2 (2)
助教	1 (1)
計	31 (7)

注:()は指導補助教員で内数

#### ◇教育支援者等

本校の事務は総務課、学生課の2課から編成されている。教育課程を展開する事務職員は教務係で、学生の教育に必要な図書館は総務課に属し、図書係が管轄する。そのほか、財務係、契約管理係、施設係が教育に関連する予算、備品等の購入・管理、施設管理等を行っている。

本校の技術職員(10名)は技術支援室に配置されている。技術支援室は実践的な教育・研究及び地域貢献活動に対して、専門的な知識や技術を活かして効果的・効率的に推進す

るための組織である。実習工場系、電気電子情報系及び生物科学分析系の技術分野を中心 としている。

#### 2. 取組

一般科目担当専任教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、教育課程における科目構成と比してバランスがとれている。また、各教員の専門分野を考慮した配置となっており、本校の教育目標に沿って適切に配置している。

専門科目担当教員の構成は、高等専門学校設置基準を満たしつつ、各教員の専門分野を 考慮し、バランスよく配置している。また、学位取得者や企業経験者を各学科に多数配置 するなど、教育目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置して いる。

本校の専攻科では、各科目とも各教員の専門分野を考慮し、バランスよく配置している。 また、学位取得者や企業経験者を専攻科各コースに多数配置するなど、教育の目的を達成 するために必要な各コースの専門科目担当教員を適切に配置している。

これらのことから、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員を適切に配置している

技術支援室では、実験・実習及び卒業研究において、専門的な知識・技術に基づいた技術 支援・指導を行うとともに、共同研究などにおける装置開発・機器分析に加えて、出前授 業・公開講座などの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

#### 3. 自己評価

高等専門学校設置基準に定められた準学士課程に必要な一般科目担当教員数は18名以上、専門科目担当教員数は29名以上であり、本校の一般科目担当教員数は専門学科に所属している教員を含め18名、専門科目担当教員数は39名である。

また、専門科目担当教員の教授及び准教授は33名(A)、一般科目又は専門科目の担当教員数は55名(B)であり、AはBの二分の一以上である。

これらのことから、本校の教員配置は、設置基準と合致しており、本校の理念,目的,教育目標を達成する上で適切な構成となっている。特に、本校の目的に掲げる「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」に対して、修士又は博士の学位を取得した教員並びに企業経験者を各学科に配置している。

また、全教員の教育研究活動において、教員評価を定期的に行っている。教員評価は、(1)総合評価、(2)教員顕彰、(3)教育研究経費配分、(4)昇任判定(教授、准教授、講師への昇任)、(5)運営管理貢献度評価、(6)課外活動貢献度評価、(7)その他校長が必要に応じて実施する事項に基づいて行っており、この評価を効果的に運用している。したがって、教育活動を展開する上で必要な運営体制が整備されており、機能している。

# IV 学生の受入

# IV 学生の受入

#### 1. 本科

◇アドミッションポリシー

# 【求める学生像】

- (1) 全学科共通の「求める学生像」
  - ・理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
  - ・責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーション力を磨ける人
  - ・規則正しい生活と、自発的に勉強のできる人

### (2) 各学科独自の「求める学生像」

#### 機械システム工学科

- ・機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人
- ・機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している 人
- ・機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的 な学修に意欲がある人

#### 情報通信システム工学科

- コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- ・携帯端末などの新しい電気機器や電子工作に興味のある人
- ・情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

#### メディア情報工学科

- ・コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
- ・コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
- ・コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

#### 生物資源工学科

- ・生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
- ・自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
- ・バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

### 【入学者選抜の基本方針】

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法 で入学者選抜を行います。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者(志望動機が適切である志願者)に対し、門を開くために本選抜を実施します。そのため、調査書による評価と面接(アドミッションポリシーに従う質問)により選抜を行います。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行います。

• 帰国生徒特別選抜

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、 調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行います。

#### Ⅳ 学生の受入

# ◇募集人員

学科名	入学定員	備考
機械システム工学科	40名	
情報通信システム工学科	40名	※1 推薦による選抜の募集人員は、入学定員の
メディア情報工学科	40名	50%程度。 ※2 帰国生徒特別選抜による募集人員は若干名。
生物資源工学科	40名	(定員内)
計	160名	

# ◇過去5年間の本科学生募集の状況

【学力による選抜について】

- ・「志願者」及び「受験者」は第1志望学科のみとし、推薦による選抜において不合格 となった者のうち学力による選抜を併願する者を含んでいる。
- ・「合格者」及び「入学者」は第2、第3志望学科で合格・入学した者を含んでいる。

令和6年度	推薦による選抜				学力検査による選抜			
(令和6年3月1日時点)	志願者	受験者	合格者	入学予定者	志願者	受験者	合格者	入学予定者
機械システム工学科	13	13	13	13	26	26	28	28
情報通信システム工学科	21	21	21	21	35	35	22	19
メディア情報工学科	32	32	22	22	48	49	21	20
生物資源工学科	22	22	22	22	34	34	20	19

令和5年度		推薦に。	よる選抜		学力検査による選抜				
7434及	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	
機械システム工学科	10	10	10	10	33	33	33	30	
情報通信システム工学科	24	24	23	23	35	35	19	16	
メディア情報工学科	47	47	23	23	63	61	20	17	
生物資源工学科	26	25	22	22	28	28	20	18	

#### IV 学生の受入

今和 4 年 <del>庄</del>		推薦に。	よる選抜		学力検査による選抜			
令和4年度	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
機械システム工学科	20	20	20	20	26	26	18	18
情報通信システム工学科	17	17	17	17	32	29	26	26
メディア情報工学科	31	31	23	23	52	52	20	19
生物資源工学科	25	25	23	23	30	30	19	17

令和3年度		推薦に。	よる選抜		学力検査による選抜			
77年3千度	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
機械システム工学科	15	15	15	15	29	29	28	25
情報通信システム工学科	23	23	23	23	23	21	21	21
メディア情報工学科	39	39	23	23	55	54	22	20
生物資源工学科	22	22	22	22	25	24	20	18

※令和3年度「推薦による選抜」の募集人員を、これまでの40%から50%に変更

令和2年度		推薦に。	よる選抜		学力検査による選抜			
7412平度	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
機械システム工学科	10	10	10	10	16	16	32	31
情報通信システム工学科	22	22	19	19	35	35	24	24
メディア情報工学科	24	24	18	18	46	45	25	22
生物資源工学科	21	21	18	18	25	25	24	24

# 2. 専攻科

# ◇アドミッションポリシー

#### 【求める学生像】

- ・技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
- ・専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
- ・基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
- ・新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
- ・複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

# 【入学者選抜の基本方針】

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法 で入学者選抜を行います。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者 (志望動機が適切である志願者)に対し、門を開くために本選抜を実施します。その ため、面接(アドミッションポリシーに従う質問)により選抜を行います。

#### Ⅳ 学生の受入

・学力検査による選抜

本校への関心がある志願者に対し本選抜を実施し、学力検査により選抜を行います。

• 社会人特別選抜

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施します。そのため、面接(アドミッションポリシーに従う質問)及び専門分野における口頭試問により選抜を行います。

# ◇募集人員

専 攻	定員
創造システム工学専攻	24名

(コース名:機械システム工学、電子通信システム工学、情報工学、生物資源工学)

# ◇過去5年間の専攻科学生募集の状況

令和6年度		推薦に。	よる選抜		学力検査による選抜			
(令和6年3月1日時点)	志願者	受験者	合格者	入学予定者	志願者	受験者	合格者	入学予定者
機械システム工学コース	8	8	8	8	1	1	1	1
電子通信システム工学コース	5	5	5	5	3	3	3	2
情報工学コース	2	2	2	2	2	2	2	2
生物資源工学コース	9	9	9	9	3	3	1	1

令和5年度	推薦による選抜				学力検査による選抜			
	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
機械システム工学コース	4	4	4	4	7	7	1	1
電子通信システム工学コース	7	7	7	7	5	5	2	2
情報工学コース	4	4	4	4	2	2	1	1
生物資源工学コース	8	8	8	7	4	4	1	1

令和4年度	推薦による選抜				学力検査による選抜			
	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
機械システム工学コース	1	1	1	1	8	8	7	5
電子通信システム工学コース	0	0	0	0	5	5	4	4
情報工学コース	3	3	3	3	1	1	1	1
生物資源工学コース	6	6	6	6	6	6	5	4

#### IV 学生の受入

令和3年度	推薦による選抜				学力検査による選抜				
	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	
機械システム工学コース	1	1	1	1	8	8	7	5	
電子通信システム工学コース	0	0	0	0	5	5	4	4	
情報工学コース	3	3	3	3	1	1	1	1	
生物資源工学コース	6	6	6	6	6	6	5	4	

令和2年度	推薦による選抜				学力検査による選抜			
	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
機械システム工学コース	1	1	1	1	8	8	4	3
電子通信システム工学コース	3	3	3	3	5	5	2	1
情報工学コース	1	1	1	1	5	5	2	1
生物資源工学コース	9	9	9	9	0	0	0	0

# 2. 取組

# 1) 全般

令和6年度専攻科学生募集「推薦による選抜」及び「学力による選抜」を実施した。 合格者の30名が入学確約書を提出しており定員24名を充足している。

令和6年度本科学生募集に向けて、沖縄本島、離島(奄美含む)の中学校40校を、 主に佐藤校長と職員(係長以上)が訪問し、本校の魅力を中学校の校長に直接説明し た。

中学校訪問と広報センターによるオンライン説明会を丁寧に行い、さらに、オープンキャンパスとサマースクール、公開授業を対面で実施した結果、令和6年度本科学生募集「推薦による選抜」の志願者は88名で、「学力による選抜」の志願者は143名となった。

# 2) 広報センターの活動

広報センターを中心とした全学的な広報活動を進めていく中で、今年度は、オンラインによるイベントも継続しながら活動を行った。

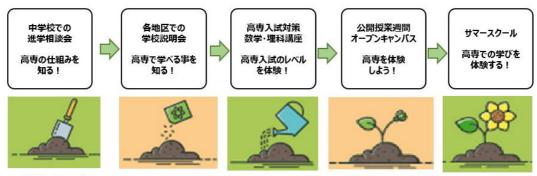
- I. 学校説明会及び入試説明会の実施
- II. SNS等を活用した広報活動
- III. オープンキャンパス・サマースクールの実施
- IV. 佐藤校長による中学校訪問
- V. 中学校教員向け説明会の実施

それぞれの活動に関して、詳細を報告していく。

#### I. 学校説明会及び入試説明会の実施

今年度は、本島南部地区及び中部地区、石垣地区、本校にて対面で説明会を実施 した。また、遠方からの参加しやすいようオンライン説明会を計13回実施した。 以下に、受験希望対象者向け学校説明会のフローを示す。

## 受験希望対象者向け学校説明会の参加フロー



#### 学校説明会

- ・学科の特色(特徴)を明快にする
- ・特色ある教育内容の紹介をする
- ・学べる内容とキャリアパスについて紹介する

#### オープンキャンパス/公開授業週間/サマースクール

- ・高専を体験する
- ・中学生の保護者へ高専教育の特徴紹介と相談会を実施



本校の広報戦略として、高専を知り→高専を体験し→高専での学びを体験し→高専生を知る事で、中学生自身が目的を持って高専への入学を希望し、受験に臨んでくれる事をサポートするように、効果的な時期にイベントなどの企画を実施している。

## 短期的入学希望者獲得のための一連の取組み

## 沖縄高専を 知る 4月・5月 進学、受検準備 相談及び学校説明 会を開催 目的: 中学生に広く高専 を知ってもらい、

課題: 案内の工夫、開催 場所を複数に分け る

高専を体験するこ

とに繋げる

沖縄高専を 体験する

6月・7月 公開授業週間・ オープンキャンパス を開催

目的: 高専での授業や技術 を体験し、高専での 学びに興味を持たせ

ることに繋げる

課題: 公開授業週間を2回 実施。先生方への協 カのお願いと実施内 容の検討 体験する ------8月・9月

高専での学びを

サマースクール及び進学相談会を開催

目的: サマースクールに 来た4割の学生が入 学。受験に繋げる ように中学生に高 専での学びを体験 してもらう

課題: 内容の見直し。高 専での基礎教育を 体験 高専生を 知る

10月 高専祭の開催

課題: 学外からの来客者 が高専の技術を知 る出し物を検討 令和5年度の学校説明会及び入試説明会の参加者集計人数を以下の表に示す。今年 度は、オンライン説明会を継続しながら、対面での説明会を実施した。

学校説明会の内容も、4月~6月までは本校で学べること、特色ある学びに関して説明を行い、9月以降は、各学科で学べることとその後の進路、就職先などのキャリアパスを含めた説明会を実施している。また、受験に向けた準備として、9月以降は、入試説明会を追加して実施している。オンラインでの説明会は、気軽に参加できるメリットもあるが、長時間の説明や質疑などのやりとりに関して、参加する中学生が不慣れな場合もあり、学校説明会と入試説明会を別々に行うことで、本校への理解を深め、入学してからの目標や受験への準備を行ってもらえるよう工夫している。

## エンジニアの基本スキルの学び

低学年では、一般科目はもちろんコンピュータの 基礎技術・プログラミング・プレゼンテーションを 全員が学びます。



## 2023年度イベントスケジュール

## 沖縄高専を知ろう!高専生を知ろう! 学校説明会(要事前登録)

オンラインでも開催!現役高専生も登場します!

4/8[土] オンライン学校説明

4/16[日] 学校説明(会場:沖縄高専)

4/23[日] オンライン学校説明

4/30[日] 学校説明(会場:那覇)

5/13[土] オンライン学校説明

5/20[土] 学校説明(会場:うるま)

6/10[土] オンライン学校説明

7/14[金] オンライン学校説明

7/21[金] オンライン学校説明

8/5[土] オンライン学校説明

9/9[土] オンライン学校説明

9/23[土] 学校説明(会場:沖縄高専)

10/1[日] オンライン学校説明

10/21[土] オンライン学校説明

10/27[金] オンライン学校説明

10/28[土] 入試説明(会場:沖縄高専)

11/3[金] オンライン学校説明

11/25[土] オンライン学校説明

## 沖縄高専の学びを体験しょう! キャンパスでのイベント

公開授業週間:実際の授業を見学いただけます

6/26[月]~6/30[金]、7/24[月]~28[金]

9/25[月]~9/29[金]

オープンキャンパス たくさんの技術や科学を体験!

7/29[土] \*オンライン開催の場合もあります

サマースクール 専門授業を体験しよう!

8/11[金] ※事前受付が必要となります

詳細は本校ウェブサイトに掲載します

#### 受験に向けて!

## LINE で情報をお届けします

▼友だち登録はコチラ▼

LINE

\*各イベントの詳細・実施変更などの情報は、随時ウェブサイト掲載及びLINE投稿でお知らせします!





独立行政法人国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校

#### ○令和5年度イベント参加者数

	オープン キャンパス	サマー スクール	学校説明会 オンライン	学校説明会 対面	公開授業	総計
参加人数	781	278	322	595	232	2,208
組	292	139	161	239	101	932

#### 過去の説明会参加者数

#### ○学校説明会参加人数

R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25
917	466	516	350	339	337	131	171	119	64	68

#### II. SNSやオンラインイベントを活用した広報活動

令和2年度から本校では、LINEの公式アカウントを用いた情報発信により、小・中学生とその保護者に本校の教育に興味を持ってもらえるように取り組みを開始している。本取組みを開始して4年目となり、その活用効果に関しては、各種イベントの情報をLINEの案内で知った参加者が多くなっている。今後も、SNSと本校公式ウェブサイトを連携して、継続した情報発信を行っていく予定である。



## オープンキャンパスのご案内

2023オープンキャンパス開催!



令和5年度オープンキャンパスを7月29日(土)に開催いたします! 様々な体験を通して沖縄高専を「見て」「知って」「感じて」いただければと思います。

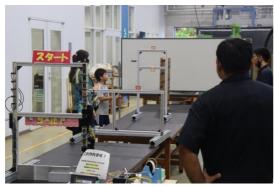
#### Ⅳ 学生の受入

#### III. 対面によるオープンキャンパス・サマースクール・公開授業週間の実施

令和5年度は対面で各種イベントを実施した。オープンキャンパスでは292組781名が参加し、小学生から中学生まで幅広い層へ高専での学びを体験してもらった。また、学生主体による寮見学ツアーや進路相談会も実施され、受験希望者からは「現役の高専生に話を聞けて良かった」と好評だった。









オープンキャンパスの様子

また、サマースクールについては、中学生を対象に実施し、139組278名が参加した。 例年実施している受験希望者を対象とした数学対策講座に加え、今年度からは理科と英 語の対策講座を新たに実施した。





サマースクールの様子

さらに、6月~7月、9月に公開授業週間を開催し、101組232名が来校し、実際の授業を見学した。

#### IV. 佐藤校長による中学校訪問

令和5年度は、佐藤校長、学生課長及び学生課課長補佐を中心に本島及び離島の中学校40校を訪問した。本校の特色ある取り組み、授業内容やキャリアパス、入試の変更点などを紹介した。これまで、本校の情報取得に関しては、中学生自身や保護者任せだったが、各中学校の校長先生や進路担当の先生方に「沖縄高専の学び」に関して、興味を持って頂ける機会となったと考えている。

#### V. 中学校教員向け説明会の実施

令和5年度は、中学校教員向け説明会を再開した。本島中学校から22校26名の教員が参加し、学校及び入試説明の後、施設見学を行った。参加者からは「実際に高専を見ることで理解が深まった」、「高専という制度自体をあまり知らなかったので、今後は生徒に勧めたい」等の意見があった。中学生の進路選択にあたり、中学校教員の与える影響は大きいため、今後も継続して「高専」という選択肢を知ってもらえるよう継続していきたい。

#### 3. 自己評価

入学者選抜においては、専攻科入学者選抜で24名の定員を充足している。本科入学者選抜では、推薦による選抜及び学力による選抜共に募集人員を上回る出願数であるが、入学定員を大幅に超過することはなく、適切な実入学者数となっている。したがって、適切な受入れを行っている。

中学校訪問やオンライン説明会、対面によるイベントを積極的に活用し、各学科の 志願者が増加するよう尽力して取り組んでいく。なお、説明会等ではアドミッション ポリシーについても説明しており、入学者選抜において学生の受入れが適切に実施さ れるような取り組みを行っている。

広報センターでは、対面でのイベントを実施しながら、オンライン学校説明会を継続して実施し、興味を持った中学生を取りこぼさないよう心掛けた結果、学校説明会の参加者は昨年から大幅に増加した。今後は、対面とオンラインのイベントを継続しながら、出前授業や体験教室などで本島の中南部地区や離島での受験者に接する機会を増やすことを検討している。

### V 教育内容及び方法

#### 1. 現状

教育課程は全学科で一般科目を低学年に多く配置し、学年が進むにつれて専門科目の比重が高まる「くさび型」の配置で編成されている。各学科の教育課程において、低学年に各分野の基礎を学修する科目、並びにエンジニアとしての基礎力を養う科目である専門基礎科目を配置し、高学年に各分野の応用を学修する科目を含めた専門科目を多く配置している。

必修科目と選択科目については、低学年では一般科目の選択科目が配置され、高学年では専門科目と一般科目について選択科目が配置されている。後述するモデルコアカリキュラムの内容を全学生が学修できるように、必修科目を多く配置している。

## 教育課程表(本科)

一般科目(令和5年度入学生)

一般	科目(	令和5年度入学生)					-	2 2	¥ 9	1 1	i 5	-			
		授業科目	単位数	区分	1:	年	2			年		年	5	年	備考
Щ					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
		国語I	2	講義	2	通									
	1	国語Ⅱ	2	講義			2	通							
		国語皿	2	講義					2	通					
	語	文学概論	2	講義							2	*			学修単位
		日本語表現	2	講義	$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$						2	*			学修単位
		English Comprehension I	2	演習	2	通									
		English Comprehension II	2	演習			2	通							
		English Comprehension II	2	演習					2	通					
	英	English Comprehension IV	2	演習							2	*			学修単位
		English Communication I	1	演習	1	半									
		English Communication II	- 1	演習			1	半							
		English Skills I	2	演習	2	通									
Ø	語	English Skills II	2	演習			2	通							
	60	English Skills II	2	演習					2	通					
		English Skills IV	2	演習							2	*			学修単位
		English Skills V	2	演習									2	*	学修単位
		科学技術英語	2	演習									2	半	学修単位
	社	歷史学概論	2	講義			2	通							
	会	地理学概論	2	講義					2	通					
		地域文化論	2	講義							2	*			学修単位
	科	技術者倫理	2	講義									2	*	学修単位
	学	現代社会	- 1	講義	1	*									
		基礎数学 I	4	講義	4	通									
	数	基礎数学Ⅱ	4	講義	4	通									
	300	微積分I	4	講義			4	通							
修		微積分Ⅱ	4	講義					4	通					
	学	線形代数	2	講義			2	通							
		確率・統計	2	講義							2	*			学修単位、注1
	自	物理I	2	講義	2	通									
		物理Ⅱ	2	講義			2	通							
	然	化学	2	講義·演習	2	通									
	科	生物と環境	2	講義			2	洒							生物·環境分野
	学	地球科学概論	2	講義							2	#			学修単位
	健	スポーツ実技 I	2	実技	2	通									
	康	スポーツ実技Ⅱ	2	実技			2	通							
	科	スポーツ実技皿	1	実技					1	単					
	学	健康科学	1	演習·講義					1	#					
		修得単位計	77		22		21		14		14		6		
	英語	演習	2	演習							2	*			学修単位
	生命		2	講義·実験							2	#			学修単位
	_	ーツ実技Ⅳ	2	実技							2	通			
選	_	法·法学	2	講義	$\vdash$						2	#			学修単位
		語1※	2	演義·演習	$\vdash$				2	通	_	<u> </u>			※外国人留学生科目
	_	語Ⅱ※	2	講義·演習							2	44.			※外国人留学生科目、学修単位
40		事情 1 ※	2	講義・演習					2	通	_	,			※外国人留学生科目
択	_	事情Ⅱ※	2	講義・演習	$\vdash$						2	*	$\vdash$	$\vdash$	※外国人留学生科目、学修単位
		設 単 位 計	8		0	$\vdash$	0		0		8	-	0		本校以外の教育施設に向ける学修単位および責任試験は含 まない
		得単位計	2		0	$\vdash$	0		0		2		0		Prije-
198		単位合計	85		22		21		14		22		6		
-		単位合計	79		22		21		14		16		6		
1.0		別学修一般として資格		H-LI -	-	- LA		+_+21		W 44		1+++	_	/894	DI+DVI-D-A-1\

<sup>※</sup> 特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

注1 観光・地域共生デザインコース読替科目

機械システム工学科(令和5年度入学生)

機材	戒システ	ム工学科(令和5年度入学生)							F 0	ii 3*	1 1/				-
	授	業 科 目	単位	区分	1	年	2:			年		年	5	在	備考
	1×	ж 17 ц	数	23									単位		PM -2
П	専 全	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									注1
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									注1
	9959 85	創造演習	2	演習			2	通							注1
		インターンシップ	3	実習				АШ.	_		3	通			注1
	基基				_	111					- 3	ш			<u> </u>
Ш	ac	専門基礎工学	2	講義	2	半	_	177							
Ш	礎	プログラミング [	2	講義·演習			2	通							注1
Ш		応用数学 I	2	講義							2	半			学修単位
	科	応用数学Ⅱ	2	講義									2	半	学修単位
		応用物理	2	講義					2	通					
	18	機械力学 I	2	講義							2	半			学修単位
	群	機械力学Ⅱ	1	講義·演習							1	*			
	材	材料加工システムI	3	実習	3	通									
N	10.00				3	Щ	4	'26							
必	料	材料加工システムⅡ	4	実習			4	通							
	シ	材料加工システムⅢ	2	実習					2	半					
	ス	機械工作法	1	講義					1	半					
П		機械材料	2	講義			2	通							
П	テ	CAD CAM I	2	演習					2	通					
П	ᄉ	CAD-CAM II	2	演習							2	#			学修単位
	群	材料科学	2	講義							2	#			学修単位
	設	機械製図基礎学	2	講義·実習	2	通									
	10740	機械製図学	2	講義·実習		AM	2	通							
	計			_				ш		111					
		機械設計学	1	講義·実習					1	半				_	
	シ	材料力学設計I	2	誘義·実習					2	通					
	ス	材料力学設計Ⅱ	2	講義·演習							2	半			学修単位
		総合構造設計	2	講義·演習							2	通			
修	テ	熱工学I	2	講義							2	*			学修単位
	2	熱工学Ⅱ	1	清義·演習							1	*			
	7	流体工学	2	講義							2	通			
	R¥	熱流体機器	2	講義									2	半	学修単位
	シ	電気・電子工学	2	講義					2	通	-				, 10 T L
	ス			講義				-	-	Щ	_	半			学修単位
	群ム	制御工学	2								2	+		172	
	94	メカトロニクス工学	3	講義·実習									3		学修単位
		計測工学	2	講義									2	半	学修単位
	共	産業創造セミナー	1	演義·演習					-11	半					注1
	通	機械システム工学実験 I	3	実験							3	通			
	廸	機械システム工学実験Ⅱ	3	実験									3	通	
Ш	群	卒業研究	8	実験									8	通	注1
		修得単位計	83		12		12		13		26		20		
Н	科基	De. 19(* Jenn)			1,44		31,44.7		,,,,						
П		プログラミング 🛚	2	講義·演習					2	通					注1
	目			_	-		-		-		_				
П		化学Ⅱ	2	講義					2	通					
Ιl	群礎														
П	ムシ 材 ス 群テ 群	CAE	2	講義									2	半	学修単位
選	ムシ設	エネルギー変換工学	2	講義									2	半	学修単位
	制シ														
П	z	生産工学	2	講義									2		学修単位
П	御 テ	システム制御論	2	講義									2	半	学修単位
Ιl	群ム	知能制御論	2	講義									2	半	学修単位
П	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	* 各学年毎に単位取得可 (最大5単位)。 注1
	ョブ	航空基礎 I	2	講義·演習			2	通							航空技術者プログラム履修者に限る
択		航空基礎Ⅱ	2	满義·演習					2	通					航空技術者プログラム機修者に限る
	変が	航空機技術 I	2	講義·演習							2	通			航空技術者プログラム履修者に限る
	* 5	航空機技術Ⅱ	2	講義·演習					-		-	~44	2	通	航空技術者プログラム履修者に限る
	в 7		_						-				_		
		航空実習	4	実習			1961						4	通	航空技術者プログラム獲修者に限る
		開設単位計	31	1	. 1		3		7		3		17		
Ш		修得単位計	6		0		0		2		0		4		
L	開	設 単 位 合 計	114		13		15		20		29		37		
	修	得 単 位 合 計	89		12		12		15		26		24		
N.	At DI MA P	多専門として資格試験を単位として	m h z -	レポセス	+-+:1	☆ 巻	西州出	1-1-1-	会めた	N /8	¥ 4m (+ 9	us	hZ)		

<sup>※</sup> 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

注1 観光・地域共生デザインコース読替科目

情報	极通信	言シ	ステム工学科(令和5年度入学	生)												
	授	3	業 科 目	単位	区分	1:	在	2:		年 5	年		年	5:	在	備考
	134	K	木 17 口	数	四川			単位								כלי מהע
	専	4	沖縄高専セミナー	2	講義	2	*									注1
			情報技術の基礎	3	講義	3	通									注1
	科	共	創造演習	2	演習			2	通							注1
	目	- CD	インターンシップ	3	実習							3	通			注1
		$\rightarrow$	離散数学	2	講義								ALL	2	半	学修単位
			応用数学	2	講義							2	*		, :-T-:	学修単位
	l	- 1		2	講義							2	*			学修単位
	基	5	応用物理 ************************************		74.7	0	317					2	+			子廖甲亚
		- 1	情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半		177							
		- 1	情報通信工学実験Ⅰ	2	実験			2	通							
	礎	k l	情報通信工学実験Ⅱ	2	実験	-				2	通				1	
	PAE		情報通信工学実験Ⅲ	2	実験							2	通			
			計算機工学I	2	講義	2	通									
必			計算機工学Ⅱ	2	講義			2	通							
~	科	+	ソフトウェア演習	1	演習	1	半									
		1	コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通					
			プログラミング基礎 I	2	講義	2	通									注1
	目	ı	プログラミング基礎Ⅱ	2	講義			2	通							
	"		応用プログラミング I	4	演習							4	通			学修単位
			応用プログラミングⅡ	4	演習									4	通	学修単位
			データベース	2	講義									2	*	学修単位
	群	ŧ	電気回路 I	2	講義			2	通	*************	$\vdash$			-	1.0	, rp — 144
		1	I 福回及軍	2	講義			-	АШ	2	通	1				
							-				畑	_	Mr.			₩ M H
	<u> </u>	-	電磁気学Ⅰ	2	講義			_	177		-	2	半			学修単位
	ェ	18	ネットワーク概論	2	講義	-		2	通							注1
		平文	信号処理	2	講義	- 1				-		2	半			学修単位
修	学	通	情報理論	2	講義	- 1								2	半	学修単位
(B)	æ¥		通信工学 I	2	講義							2	半			学修単位
	17.1	信	通信工学Ⅱ	2	講義									2	半	学修単位
	_	電	半導体工学	1	講義					. 1	半					
	エ	子	電子回路I	2	講義					2	通					
	学	集	電子回路 II	2	講義					2	通					
	m¥.	積	電子回路演習	2	演習							2	通			学修単位
	794.1	回路	集積回路工学	4	講義							-		4	通	学修単位
	17		計測工学	2	講義					2	通					
	2	01	制御工学I	2	講義							2	*			学修単位
	群 ウ		オペレーティングシステム	2	講義					2	通	-	- 1			7 19 7 14
	I		アルゴリズムとデータ構造	2	講義			-		2	通					注1
			The state of the s	_	10000000				_		ш			-	'æ	
	六进	1 OT	卒業研究	8	実験	10		- 10		4.7				8	通	注1
_		4. 1	修得単位計	88	28.44	12		12		17		23	317	24		214 Mr 344 / L
	NIE.	1000	化学Ⅱ	2	講義							2	半		100	学修単位
		i.e.	電磁気学Ⅱ	2	講義			-						2	半	学修単位
		情報	情報通信総合演習	2	演習	1			-			2	通			学修単位
	7	通	電波電送学	2	講義									2	半	学修単位
sga.		$\overline{}$	通信法規	1	講義									1	半	学修単位
選	ウソ ェフ ア	81	人工知能	2	講義							2	半			学修単位、注1
	押ト	機	制御工学Ⅱ	2	講義							2	半			学修単位
		共	産業創造セミナー	2	講義·実習					2	通					注1
	群。	通	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	<ul> <li>● 各学年毎に単位取得可 (最大5単位)。注1</li> </ul>
			航空基礎I	2	满義·演習			2	通							航空技術者プログラム獲修者に限
+0	78		航空基礎Ⅱ	2	講義·演習				_	2	通					航空技術者プログラム履修者に很
択	II-		航空機技術I	2	講義·演習					-	АЩ.	2	通			航空技術者プログラム履修者に限
	科		航空機技術Ⅱ	2	講義·演習							_	Щ	2	通	航空技術者プログラム履修者に限
	目															
		:5°	航空実習	4	実習	-				_				4	通	航空技術者プログラム履修者に限
	_		開設単位計	32		1		3		5		11		12		
	_	80	修得单位計	1		0		0		0		1		0		
		開	設 単 位 合 計	120		13		15		22		34		36		
		修	得 単 位 合 計	89		12		12		17		24		24		ı

<sup>※</sup> 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

<sup>※</sup> 修得単位に関して、学修単位数が60単位を超える場合には担任へ相談すること。 注1 観光・地域共生デザインコース読替科目

メディア情報工学科(令和5年度入学生)

	授	and the second s						学 :	年 況	il ac	当				
1	12	業 科 目	単位数	区分		年	2	年	3	年	4:	年	5		備考
		沖縄宣書もこよ		6# <b>**</b>		期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	24-4
	守土	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									注1
1 1	門字	情報技術の基礎 創造演習	3	講義	3	通	_	178	-						注1
i i			2	演習			2	通			-	'X			注1
		インターンシップ	3	実習					_	*35.	3	通			注1
		離散数学	2	講義					2	通	•	11/			A14 A47 334 A44
	788	応用数学	2	講義			_		_	178	2	半			学修単位
		応用物理	2	講義					2	通	•	м			ANA 845 334 F.L.
必	,	情報理論	2	講義	_	1785			-		2	半			学修単位
		プログラミング I	3	講義	3	通	-		-						注1
	22 L	メディア情報工学セミナー	1	講義	. 1	半									
-		コンピュータアーキテクチャ	2	講義	_				2	通					
		メディアコンテンツ基礎	3	講義·演習	3	通									
	1.	メディア情報工学実験 I	4	実験			4	通			- 1		-		M M W W
		コンピュータグラフィックス I	2	講義							2	半		***	学修単位
	211	コンピュータグラフィックス I	2	講義							- 1		2	_	学修単位
		コンピュータグラフィックスⅢ	2	講義									2	半	学修単位
-		メディア情報工学実験 II	2	実験					2	通	- 1				
		プログラミング I	4	講義			4	通							
	,	プログラミング Ⅲ	2	実験		-			2	通					注1
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通					
		メディア情報工学実験Ⅳ	2	実験							2	通			
		オブジェクト指向言語	2	講義							2	半			学修単位
	群	OSとコンパイラ I	2	講義					_		2	半			学修単位
		OSとコンパイラII	2	講義									2	半	学修単位
修		データベース	2	講義									2	半	学修単位
	ш	ディジタル回路	2	講義			2	通							
	21	メディア情報工学実験Ⅲ	2	実験					2	通					***************************************
L		ディジタルシステム設計	2	講義							2	半			学修単位
		通信工学	2	講義					2	通					
	IV	情報セキュリティI	2	講義									2	半	学修単位
		情報セキュリティⅡ	4	講義									4	半	学修単位
	群	コンピュータネットワーク I	2	講義					2	通					注1
L		コンピュータネットワークⅡ	2	講義							2	半			学修単位
	共通	産業創造セミナー	2	講義·演習							2	半			学修単位、注1
L	群	卒業研究	8	実験							:		8	通	注1
		修得単位計	85	:	12		12		18		21		22		
		メディアコンテンツ応用	2	講義									2		学修単位
1:	I ~Ⅳ群	組み込みソフトウェア	2	講義									2	半	学修単位
L		信号処理とメディア通信	2	講義							:		2	半	学修単位
選	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可 (最大5単位)。注1
		航空基礎 I	2	講義·演習			2	通							航空技術者プログラム服修者に限る
		航空基礎Ⅱ	2	講義·演習					2	通					航空技術者プログラム服修者に限る
Ŧ	足が	航空機技術 I	2	講義·演習							2	通			航空技術者プログラム展修者に限る
択	티 그	航空機技術Ⅱ	2	講義·演習									2	通	航空技術者プログラム服修者に限る
L		航空実習	4	実習									4	通	航空技術者プログラム服修者に限る
		開設単位計	23	:	1		3		3		3		13		
		修得単位計	4		0		0		0		0		4		
		開設単位合計	108		13		15		21		24		35		
					_		12		18		21		26		

<sup>※</sup> 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

<sup>※</sup> Ⅰ 群:メディア・コンテンツ群、Ⅱ 群:ソフトウェア群、Ⅲ 群:ハードウェア群、Ⅳ 群:ネットワーク群

注1 観光・地域共生デザインコース読替科目

生物資源工学科(令和5年度入学生)

<u>— 17.</u>	9000	学科(令和5年度入学生)	137 (1 m)			_			年 別	门面		_		_	
	授	業 科 目	単位数	区分		年		年		年		年		年	備考
	<b>=</b> A	沖縄高専セミナー	2	講義	单位 2	期间 半	単位	期间	単位	期间	単位	期间	単位	期间	注3
	238 0300	情報技術の基礎	3	講義	3	通						_	_		注3
		創造演習	2	演習	3	囲	2	<b>'</b> Æ				-			注3
		剧垣演習 インターンシップ					2	通			2	'X		_	注3 注3
	1000		3	実習	_	半					3	通			注3
		基礎科学	2	講義	2	+			_	177					
	1000	応用物理	2	講義					2	通	_	117			336 16- 336 1.L
	888	応用数学	2	講義	_	1727					2	半			学修単位
	目群	基礎プログラミング	2	講義	2	通			_	127					注3
必	存于	情報技術の応用	2	講義			_	) TE	2	通					注3
æ.	生	有機化学 [	2	講義			2	通							
	*/**	物理化学基礎	2	講義			2	通							
	物	生物分析化学	2	講義·実習			2	通							
	化	有機化学Ⅱ	2	講義					2	通					
	学	生化学	3	講義					3	通					
	_	生化学実験	1	実験					1	通					
		遺伝子工学	2	講義							2	半			学修単位
	学	遺伝子工学実験	2	実験							2	半			学修単位
	群	生物工学	2	講義							2	半			学修単位
		生物工学実験	2	実験							2	半			学修単位
	+=	微生物学	3	講義			3	通							
	境・	微生物学実験	1	実験			1	通							
	微	発酵学	2	講義·実習					2	半					
	生	環境学	1	演習					1	丰					
	物学	環境学実験	2	実験					2	#					
		環境分析学	2	講義·演習							2	半			学修単位
	- 食	生物資源利用学 I	2	講義							2	半			学修単位
修	I 프 유	生理学	2	講義							2	半			学修単位
-	学	生理学実験	2	実験							2	半			学修単位
	化群点	食品プロセス工学	4	講義									4	通	学修単位
	群 学	食品製造学	2	講義·実験									2	通	
		産業創造セミナー	2	講義·演習							2	半			学修単位、注3
	井	バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通									
	通	化学および化学実験法	2	実験					2	半					
	79.14	化学資格基礎	2	講義					2	通					
	群	卒業研究	8	実験					_				8	通	注3
		修得単位計	81	24.27	13		12		19		23		14		-
	I ±	分子生物学	2	講義								_	2	半	学修単位
		細胞工学	2	講義									2	通	, 12 T
	微調	環境保全学	2	講義							2	*		712	学修単位
	T.	植物生理学	2	講義							2	<u>+</u>			学修単位
	学.	資源リサイクル学	2	講義							-	т.	2	半	学修単位
選	工 章														
	学生	生物資源利用学Ⅱ	2	講義・実験									2	半	学修単位
	群 ≠	タンパク質工学	2	講義									2	通	
	共 通	産業化学	2	講義	110		Kar		74		104		2	通	* 各学年毎に単位取得可
	群	創造研究 *	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	(最大5単位)。注3
	_	航空基礎I	2	講義·演習			2	通		-					航空技術者プログラム履修者に
択	후 다	航空基礎Ⅱ	2	講義·演習					2	通					航空技術者プログラム履修者に
	77 =	航空機技術I	2	講義·演習							2	通			航空技術者プログラム履修者に
	B 7	航空機技術Ⅱ	2	講義·演習									2	通	航空技術者プログラム履修者に
		航空実習	4	実習									4	通	航空技術者プログラム履修者に
		開設単位計	33		1		3		3		7		19		
		修得単位計	8		0		0		0		2		6		
_		開設単位合計	114		14		15		22		30		33		
		修得単位合計			13		12	_	19		25	_	20		

<sup>(</sup>注1)4年生の選択科目は、環境・微生物学群から2単位以上修得すること。

<sup>(</sup>注2)5年生の選択科目は、生物化学工学群、環境・微生物学群、食品化学工学群、共通群から6単位以上修得すること。

<sup>(</sup>注3)観光・地域共生デザインコース読替科目

<sup>◎</sup> 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

## 教育課程表(専攻科)

創造システム工学専攻(令和5年度入学生)

剧這	ンス	<u> アムエ</u>	学専攻(令和	3年及八子王				쓰노미드	1/ H /L =4			
l		必修・選択の別	科	目 名	単位数	区分	1.	字年別配 <b>年</b>	当単位数	<u></u> 年	備	考
ı		50.18 - 16 B/ (10 V)	177	<b>D</b> 10	单位数		前期		前期	後期	ν <del>π</del>	75
$\vdash$	料—		実用英語 I		2	講義	2	[文79]	80 793	区791		
	目般		実用英語Ⅱ		2	講義			2			
		S. 12	特別研究IA		3	実験	3		-			
	共通専	必修	特別研究Ⅱ		8	実験				8		
	科門		専攻科実験		4	実験				4		
ıı	目		創造システムエ	- 学宝晗	4	実験	4			i –		
ıı			修得単位計		23	大叔		9	1	4		
ıı			哲学·倫理学		2	講義			<del></del>	2		
ıı			日琉交流史		2	講義		2		-	1	
ıı			地球科学特論		2	講義		2			1	
ıı	般		琉球諸語入門		2	講義	2				※1年又は2年で	修得可
ıı	科	選択	英詩研究		2	講義		2				
ıı	目			s Communication	2	講義			2			
ıı	п		スポーツ科学特	<b>持論</b>	2	講義			2			
ıı			創造システムエ	学セミナー一般	2	講義		2		2		る教育技術講演会
						HTT TOO					※1年又は2年で	修得可
全			修得単位計		4	COEA			4			5
エコ			特別研究IB		3	実験		3			0 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /	
l i l					1						2年次選択可	3単位以
」			長期インターン	シップ	4~12	実習		4 ~	- 12		1か月:4単位	上修得す
^											2か月:8単位	ること
ıı			物理学特論		-	講義		0			3か月:12単位	
			数学通論		2 2	講義	2	2			-	
			数子週冊   応用解析学		2	講義			2			
ıı	専		広田物理特論		2	講義	2					
ıı	門		物理化学		2	講義			2			
ıı	共	選択	バイオテクノロシ	ジー	2	講義		2				
ıı	通		バイオマス利用		2	講義		2				
ıı	科		品質・安全マネ		2	講義		2				
ıı	目		経営工学		2	講義			2			
ıı			グローバルイン	ターンシップ	2	実習				2	1年次選択可	
ıı									•		2単位:30時間	1
		l										
ıı					l .						4単位:60時間	
			創造システムエ	学セミナー専門	2~8	講義		2 -	~ 8		4単位:60時間 6単位:90.時間	
			創造システムエ	学セミナー専門	2~8	講義		2 -	~ 8		4単位:60時間  6単位:90.時間  8単位:120時	
						講義					6単位:90.時間	引 間以上
<i>M</i>			修得単位	拉計	15	講義		1	5		6単位:90.時間 8単位:120時	引 間以上
修品		得	修得単位単位	立計 位	15 42	講義		1	5		6単位:90.時間 8単位:120時	引 間以上
修開		得設	修得単位	拉計	15 42	講義		1 4	5 2 32		6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開		設	修得単位	立計 位 言 位 言	15 42 82			1 4 8 学年別配	5 2 32 3単位数		6単位:90.時間 8単位:120時	引 間以上
開	コース	得 設 必律・選択の別	修得単位単位	立計 位	15 42	講義 区分		1 4 8 学年別配 年	5 2 32 3 3 3 3 3 4 3 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	コース	設	修得単位 単 単 科	立計 位 言 位 言	15 42 82 単位数	区分	前期	1 4 8 学年別配	5 2 32 3単位数		6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	Carrell	設	修得単位 単 単 科 科 学 特 論	立計 位 記 位 記 目 名	15 42 82 単位数 2	区分講義		1 4 8 学年別配 年	5223単位数	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機	設	修得単位 単 単 科 科学特論 溶接·接合工学	立計 位 記 位 記 目 名	15 42 82 単位数 2 2	区分講義講義	前期	1 4 8 学年別配 年	5 2 32 3 3 3 3 3 4 3 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械	設	修得単位 単 科 科学特論 溶接·接合工学 連続体力学	立計 位	15 42 82 単位数 2 2 2	区分講義議議	前期	1 4 8 学年別配 年	5 2 32 当単位数 2 前期	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械シ	設	修得単位 単 料 材料学特論 溶接·接合工学 連続体力学 材料強度学特調	立計 位 言 位 言 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2	区一講講講講講講講講	前期	1 4 8 学年別配 年 後期	5223単位数	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械シス	設	修得単位 単 料 材料学特論 溶接・接合エ学 連続体力学 材料強度学特調 数値シミュレー	立計 位 計 位 計 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2	区一講講講講講講講講	前期	1 4 8 学年別配 年	5 2 3 当单位数 2 前期 2	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械システ	設	修得単位 単単 科 科学特論 溶連続体力学 技力学 数値シミュレー 数値シミュレー	立計 位 計 位 計 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講	前期	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 32 当単位数 2 前期	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械システム	設	修得単位 単単 科 料学特論 溶接・接合工学 連続体力学 材料強シミュレー 数値シミュレー 生産工学特論	立計 位 計 位 計 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講	前期	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械システムエ	設	修得単位 単単 科料学特合工 を 材料・接力学 材料・強強シション学特 数値を が 数性を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	立計 位 語 位 語 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講講講講講	前期	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	後期	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械システムエ学	設	修得単位 単単 科料学特合学 材料を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	立計 位 語 位 語 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講	前期 2	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	年	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
種別	機械システムエ学コ	設	修得単位 「本学を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	立計 位 語 位 語 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	後期	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開	機械システムエ学コー	設	修 単 材 将接・ 材 将接・ は が は が は が は が は が は が は は が は が は が は が は が は が は が は が は が は が は に が は が は に が は に が は に が は に が は に が は に が は に が は に に が は に に が は に に が は に に に に に に に に に に に に に	立計 位 語 位 語 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	後期	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
種別専	機械システムエ学コ	設	修得単位 「本学を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	立計 位 語 位 語 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	後期	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
種別	機械システムエ学コー	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	修 単 材 将接・ 材 を を が を を を を を を を を を を を を を	立計 位 語 位 語 目 名	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	1 4 8 学年別配 年 後期	5 2 3 当单位数 2 前期 2	年 後期 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門	機械システムエ学コース	設	修 単 材容連材 材容連材 を を を を を を を を を を を を を	並計 位 言 日 名 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区 講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	1 4 8 学年別配 年 後期 2 2 2 2	5 2 3 当単位数 2 前期 2	年 後期 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
種別専	機械システムエ学コース電	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	修 単 材容連邦 材容連邦 材容連邦 村子接続料値値産産御面送体機ボボッシンエ系エ現工関、管理 大学・体強シシンエ系エ現工関、管理 大学・体強シシンエ系エ現工関、管理 大学・体強シシンエ系エ現工関、管理 大学・体強シシンエ系エ現工関、管理 大学・体強シシンエ系エリー画 大学・体強シシンエ系エリー画 大学・体強シシンエ系エリー画 大学・体強シシンエ系エリー画 大学・体強シシンエ系エリー画 大学・体強シシンエ系エリー画 大学・体強・大学学 は、ボボコー 大学・体強・大学・大学・大学・ は、大学・大学・大学・ は、大学・大学・大学・大学・ は、大学・大学・大学・ は、大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・	並計 位 言 日 名 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	生 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	5 5 2 2 2 3 当単位数 2 前期 2 2 2	年 後期 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「単単 材	並計 位 言 日 名 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	1 4 8 学年別配 年 後期 2 2 2 2	5 5 2 2 2 2 前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	年 後期 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門	機械システムエ学コース 電子通	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	本学   本学   本学   本学   本学   本学   本学   本学	並計 位 言 日 名 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 5 2 2 2 3 当単位数 2 前期 2 2 2	年 後期 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	位計位 高 位 高 目 名 ! 	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2	1 4 8 学年別配 年 後期 2 2 2 2	5 5 2 2 2 2 前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システム工学コース 電子通信シ	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	修 単 材溶連材数数生制表輸流熱口技シ数生数信 が持続料値値産御面送体機ボ術ミ理体値号 対接続料値値産御面送体機ボ術ミ理体値号 が高が、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては	立計 位 語 位 語 目 名 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	1	2 2 2 2 2 2	5 5 2 2 2 2 前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	年 後期 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信シス	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	修 単 材溶連材数数生制表輸流熱口技シ数生数信アマイ 特合学学レレ論論 特合学学レレ論論 特別のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	位 位 名 日 名 論 ション I ション I	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 5 2 2 2 3 当単位数 2 前期 2 2 2	2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信システ	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「「「「「「」」」」を 「「」」」を 「「」」を 「「」」を 「「」」を 「「」」を 「「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」」を 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、	立計 位	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 5 2 2 2 3 当単位数 2 前期 2 2 2	2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信システム	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「本学学・「大学学・「大学学・「大学学・「大学学・「大学学・「大学学・「大学学・	位は高いはないできます。	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 5 2 2 2 3 当単位数 2 前期 2 2 2	2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システム工学コース 電子通信システムエ	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「単単   村溶連材数数生制表輸流熱口技シ数信別でする。 「おいって、	位は高いはないできます。	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 2 2 2 1 3 4 位数 2 前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信システムエ学	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「「大学」を表示である。 「本学」を表示である。 「本学を表示である。」を表示である。 「本学を表示である。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないでは、または、または、またし、または、または、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし	位は高いはないできます。	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 5 2 2 2 3 当単位数 2 前期 2 2 2	2 2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信システムエ学コ	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「「大学連材数数生制表輸流熱口技シ数生数信アマシ光半弾電子・体強シシエ系工現工関小管」計情解処ゴクテ子体波機特合学学レレ特成。論特学学概シ法工論特別では上が大変を受けていた。 「特合学学レレ特成」論特学学概シ法工論特が工場である。 「特合学学レレ特成」論特学学概シ法工論特が工場である。 「特合学学レレ特成」論特学学概シ法工論を対していた。 「特合学学レレ特成」論特学学概シ法工論を対していた。 「特合学学レレ特成」論は、「特別で	立計 位 言 位 言 目 名 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 -2 -2 -2 -2 -1 -1 -1 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2	2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義
開 種別 専門科	機械システムエ学コース 電子通信システムエ学	<b>高</b> ひ 必様・選択の別	「「大学」を表示である。 「本学」を表示である。 「本学を表示である。」を表示である。 「本学を表示である。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。」を表示である。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないである。 「おきないでは、または、または、またし、または、または、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし、またし	位は言いて	15 42 82 単位数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	区講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	5 2 2 2 1 3 4 位数 2 前期 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2	6単位:90.時間 8単位:120時間 ※連携企業・提携板	引 間以上 なで実施する講義

V 教育内容及び方法

									学年別配	当単位数		
		必修・選択の別	科	目 名	各	単位数	区分	1	年	2:	年	備考
			1853110	1000000		3.0034		前期	後期	前期	後期	A3323601 115001
			情報数学			2	講義	2				
			メディアコンテ	ンツ特論		2	講義		2			
			組込システム			2	講義	2				
	情		データ工学			2	講義		2			
	報		情報セキュリ	ティ特論		2	講義			2		
	工		ソフトウェア開	発特論		2	講義				2	
	学		計算機科学特	持論		2	講義	2				
			ロボティクス			2	講義			2		
	그		ヒューマンイン	ノタフェイス		2	講義			2		
	7		ネットワーク特	持論		2	講義		2			
	ス		システム制御	工学		2	講義	2				
			画像処理特論			2	講義		2			
			デジタルフォレ			2	講義				2	
専		選択	プログラミンク	が特論		2	講義			2		
4		1	資源生物機能	能形態学		2	講義	2				
門			分子生物学II			2	講義	2				
1.1	生		植物工学			2	講義				2	
科	物		無機化学			2	講義		2			
14	資		代謝生化学			2	講義			2		
	源		応用微生物学	<u> </u>		2	講義	2				
目	エ		酵素化学			2	講義	2				
	学		醸造学			2	講義		2			
	コ		生物資源の機	能性科学		2	講義			2		
			酸化ストレスの	の生命科学	<u> </u>	2	講義		2			
	ス		タンパク質資	源利用学		2	講義			2		
			食品化学			2	講義		2			
			食品機能学			2	講義			2		
			他コースの選	択科目								6単位まで認める
			航空工学 I			2	講義	2				
		選択	航空工学Ⅱ			2	講義	2				
			航空工学Ⅲ			2	講義			2		
			航空工学IV			2	講義				2	
	修開	得 設	単	<u>位</u> 位	計	20			2	0		
	開	設	単	位	計	118		6	8	5	0	
	修	得	単	位	計	62				2		
	開	設	単	位	計	200			20	00		

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある

#### 2. 取組

#### ◇授業の内容

各科目の授業内容は、本科教育目標のいずれかの項目に沿うものとなっており、シラバスにその科目が対応する目標の番号や関連する他の科目を記載することとしている。さらに、各科目は国立高等専門学校のモデルコアカリキュラムの学修項目との対応を記載している。ここで、モデルコアカリキュラムとは、国立高等専門学校のすべての学生に到達させることを目標とする最低限の能力水準・修得内容である「コア(ミニマムスタンダード)」と、高専教育のより一層の高度化を図るための指針となる「モデル」を提示している。また、全国の国立高等専門学校で統一化されたWebシラバスを導入し、全ての科目の教育内容を公開している。

国立高専機構 モデルコアカリキュラム

URL: https://www.kosen-k.go.jp/about/profile/main\_super\_kosen.html

国立高専機構 Webシラバス

URL: https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSchools

例として、1年次で学習する沖縄高専セミナーのシラバスを以下に示す。

沖縄工業高等専	1門学校	開講年度	令和05年度 (2	2023年度1	授業科目	沖縄高専セミナー
	カープで	加姆十/文	マート COUPti	2023十1又)	1 1 1 大木行口	/丁州のサビー/
科日本班 (月刊X) 科目番号	1016			科目区分	専門 / 必	公修
受業形態	授業			単位の種別と単位		V-18/00
<sup>1</sup>	機械システ	/、丁学科		対象学年	1	2
用設 <u>于行</u> 開設期	前期	A工于行		週時間数	4	
		サルニナフト・ギ			- 4	
教科書/教材			印貝科・电丁ノア	11116		
<sup>旦当教員</sup> 到達目標	武村 史朗,日	1選 後助				
【VIII-B】台意形成:第 【VIII-C】情報収集:第 【IX-A】主体性:身内c 【IX-B】自己管理力: 【IX-D】チームワーク: を尊重し、適切なコミニ	、二(人) 上(人) 上(人) 上(人) 一() 一() 一() 一() 一() 一() 一() 一(		ご情報収集・活用・ご 情任な感、Dチーム うけでは うけで うけで いた いた うけで いた うけで いた うけで うけで いた うけで いた うけで うけで うけで うけで うけで うけで うりで うりの うりの うりの うりの うりの うりの うりの うりの うりの うりの	発進力)を身について、 フークカ、E倫理観) 法を身につける。 でを伝え、円滑に応用で、 を伝え、円滑ために、 がな情報収集や情報 がな情報収集や情報 がするための努力。	を身につける できる。 ミュニケーション こ合意形成ができ 発信に活用でき を怠らない。	ンを図ることができる。 きる。
レーブリック	-	理想的な到達レイ		標準的な到達レベ		最低限必要な到達レベル(可)
汎用的技能(Aコミュ ニケーション、B合意 形成、C情報収集・活 用・発信力)を身につ ける		Aトでしたという。 一般では、 一をは、 一をは	ポー し 一 し グこ き 探るが ル 情	A.自分の考えがを を言う見いできる のことがでいる。 B.話からいの意でしてを もいんのでは いしてを もいんのでで いして いたいので いたい いたいので いたい いたい いたい いたい いたい いたい いたい いたい いたい いた	見 人 ろ グ と っ ア 集	A.自分の意見を述べることができる B.自分の意見を他人 に押し付けない C.必要となる情報を 集めることができる
PBLに必要な行動要 素(A主体性、B自己 管理力、C責任感、D チームワークカ、E倫玛 につける		A.割行るB.せとB.組レがC.し行C.掌D.のけ達きE.なりの示自を動と、変すが予みボで自、動が握り状合成る引る、もすられていた。 一き分子すいでルスいに 用人自のる 調を 一き分子すいでルスいに 用人自のる 調を 一ち出 割基との メ握らて 被許も別が こうかん だいがく シー・ディング アラー・ディング アラー・ディー・ディング アラー・ディング アラー・ディング アル・アー・ディング アラー・ディング アラー・ディング アラー・ディング アラー・アー・ディング アラー・ディング アー・ディング アラー・ディング アラー・ディング アー・ディング	要が 席ナ こきる 埋いで兄 バーヨ動 本をと きなで をる 取っこ 解てきを 一助標で とと他明るき こ てと る しん	A.割できょう に さい と に と に と に と に と に と に と い か に 当る 断 当行るみたが者るこ と で す 動 当行るみたが者ること に と 他 さる と に さず と で る か に と し に と し に と し に と し に と で る い に は と に と に を を に な す い に は い	がを 役る を たこるの	A.自分の役割をりかいできるのといれてきる B. 世界ではい B. レデスられい B. レデスられたできるしたできないできないというできる B. ジャンス B. ジャンス B. ジャンス B. ジャンス B. ジャンス B. Wました 配子に 他者に 配布しない
						1
総合的な学習経験を 通して、創造的思考 力を身につける		用し、工夫して(作り、チームメ) に教えることが る	作品を ンバー で切	ツールの使い方を 解するが、簡単な とする	ことだけやろう	り ツールの使い方を理 解できる
通して、創造的思考		用し、工夫して作 作り、チームメン に教えることが	作品を ンパー で切 工学 宝電 生物)	解するが、簡単な	さことだけやろう 学 電 物)	
通して、創造的思考 力を身につける 工学関連分野 (機 戒・電気電子・情報・ 主物)の問題発見 力・解決方法を身に	目との関係	用し、エチームメントリールでは、エチームメントリールである。	作品を ンパー で切 工学 主物)	解するが、簡単な 資料を使って、工 関連分野情報・生 の問題・解決方法	さことだけやろう 学 電 物)	ア 解できる エ学関連分野 (機 械・電気電子・情報・ 生物)の問題と解決
通して、創造的思考」で身につける  「学関連分野(機成・電気電子・情報・性物)の問題発見っ、解決方法を身につける	目との関係	用し、エチームメントリールでは、エチームメントリールです。 でである。 一般を表する。 一般を、 一般を表する。 一般を表する。 一般を表する。 一般を表 。 一般を表 。 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一般を、 一。 一般を	作品を ンパー で切 工学 主物)	解するが、簡単な 資料を使って、工 関連分野情報・生 の問題・解決方法	さことだけやろう 学 電 物)	ア 解できる エ学関連分野 (機 械・電気電子・情報・ 生物)の問題と解決
通して、創造的思考 力を身につける 工学関連分野(機 戒・電気電子・情報・ 生物)の問題発見 力・解決方法を身に つける	各専門学科 各専門学科 各自が興味	用作にない。 エチームとが というえる 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一のでは、 一のでは、 一のでは、 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 のでは、 の	作品をしています。 では、	解するるが、簡単な 資料を使って、 資料を使り(機械・生 気電別・解決方法 説明できる。 する。解析しながら、 発表する。 発表する。	さことだけやろう 学 電物) を その構造と構成	アンドラス アンドラ
値して、創造的思考 力を身につける 一学関連分野(機 成・電気電気電子・情報・ 地のの問題発見 コ・解決方法を身に いける 学科の到達目標項E 教育方法等	各専門学科 各専門学科 各自が興味	用作にない。 エチームとが というえる 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一のでは、 一のでは、 一のでは、 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 のでは、 の	作品をしています。 では、	解するるが、簡単な 資料を使って、 資料を使り(機械・生 気電別・解決方法 説明できる。 する。解析しながら、 発表する。 発表する。	さことだけやろう 学 電物) を その構造と構成	解できる 工学関連分野(機 械・電気電子・情報・生物)の問題と解決 方法を区別できる
通して、創造的思考 力を身につける 一学関連分野(機 成・電気電気電気発見 コ・解決方法を身に いける 学科の到達目標項E 教育方法等	各専門学科 各専門学科 各自が興味 異分野を含	用作にない。 エチームとが というえる 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一のでは、 一のでは、 一のでは、 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 でで関連できる。 のでは、 の	作品をしています。 工学・電・生まが 一様成品と概要を理解立たのでは、 一様成品とである。 一様では、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一	解するるが、簡単な 資料を使って、 資料を使り(機械・生 気電別・解決方法 説明できる。 する。解析しながら、 発表する。 発表する。	さことだけやろう 学 電物) を その構造と構成	解できる  工学関連分野(機 械・電気電子・情報・ 生物)の問題と解決 方法を区別できる

□ アクテ	ィブラー	ーニング	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	ប៊	□ 実務経験の	ある教員による授業			
授業計画	j										
		週	授業内容			週ごとの到達目標					
		1週	メカトロニクスが打 2週4コマ)	石く新社会(機械シ	ステム工学科,全	メカトロニクスの 通して,メカトロ し,解決策を考察	進歩について学ん ニクスにより解∂ ∪ていく.	しだ後, 体験学習を 央できる課題を検討			
		2週	メカトロニクスが打 2週4コマ)	石く新社会(機械シ	ステム工学科,全		進歩について学ん ニクスにより解決	しだ後, 体験学習を 央できる課題を検討			
		3週	電子回路及びIoT技 4コマ)	を術(情報通信シスラ	テム工学科,全2週	・電子回路と小型 LEDやモーターの るようになる。 ・レポート作成	マイコン用いた碁 動きを小型マイコ	基礎実習[3] コンにより制御でき			
	1stQ	4週	電子回路及びIoT技 4コマ)	技術(情報通信シスラ	テム工学科,全2週	らの情報を取得し、	を用い温度センサ これらの情報だ ることにより、¶	ナーや光ヤンサーか			
	前期	5週	情報を伝える技術	(メディア情報工学	科,全2週4그マ)	・授業の狙いの説 ・コンテンツ制作、 ットの仕組みなど する。 ・レポート作成	明 コンピュータの 青報を伝えるため	D構成、インターネ かの最新技術を理解			
<b>→</b> 4.80		6週	情報を伝える技術	(メディア情報工学	科,全2週4그マ)	・授業の狙いの説明 ・コンテンツ制作、コンピュータの構成、インターネットの仕組みなど情報を伝えるための最新技術を理解する。 ・レポート作成					
前期		7週	生物の実験と観察	(生物資源工学科,全	≥2週4コマ)	植物の形態・分類に関する講義、観察・スケッチ、レポート作成					
		8週	生物の実験と観察	(生物資源工学科,全	≥2週4コマ)	絹(シルク)のもとを作る昆虫であるカイコに関する 講義、実験、観察・スケッチ、レポート作成					
		9週	アントレプレナー	シップとは?		アントレプレナーシップとその事例を知り、沖縄高専 で学び社会の変化に立ち向かう姿勢・考え方を学ぶ。					
		10週	世界と地域社会の	変化を知ろう		グローバル経済が発展し、国内・県内の雇用制度が変わっていく中で、自分達はどう対応して行くべきか討論する。					
		11週	リスクに冷静に対象	処しよう				から逃げ出さないた 持って過ごせば良い			
	2ndQ	12週	未来をイメージし	よう		個人が関わる地域! い未来とはどのよう 実際に書き出し、	うなものか、具体	R、地球規模での良 本的に思い描けるか る。			
		13週	思い描いた未来の	実現には、どんなこ	とが課題だろう	各個人またはグル- 、解決すべき課題を		Rを実現するために ように討論する。			
		14週	検索しても出てこれ	ないアイデアを出そ	う	課題解決のためので ・認め合う関係性を ーションを生み出す	を学ぶ。独創を持	っ合い、否定しない 持った発想、イノベ			
	15週 人と人を繋ぎ、学び続けよう			コーディネーター からの人的ネット! り学び続けることの	フーク構築の意義	寅を聴講し、若い頃 褒や、生きている限					
	16週										
評価割合							1				
64) A FT /T -	試験 小テスト レポート 態度		Towns and the second	ポートフォリオ	その他	合計					
総合評価書		0	5	85	0	0	10	100			
基礎的能力	E9# .	0	5	30	0	0	0	35			
専門・融合	<b>à</b> )	0	0	30	0	0	0	30			
社会性	全性 0 0 10 0			0	0	0	10				
主体的・維 学修意欲	体的·継続的 0 0 15 0				0	0	10	25			

## ◇地域等の有識者や経験者による取り組み

今年度の本科1年生からアントレプレナーシップとその事例を知り、本校で学び、社会の変化に立ち向かう姿勢・考え方を学ぶ教育に取り組んでいる。

外部講師として、本校のOB・OGを含む地域等の有識者や起業経験のある方々に、講話を 行ってもらい、テーマとして与えられた課題に対してのディスカッションをそれぞれのグ ループで行った。

また、2年生以上の学生達にもキャリア講演の一環として、アントレプレナーシップ講話を前期1回、後期1回実施した。

講義のテーマ	会社名	講師
データで視る沖縄の産業	ちゅらデータ 代表取締役社長・DATUM STUDIO 取締役副社長	真嘉比 愛 様 (卒業生)
沖縄の企業の取り組みを知る	沖縄セルラー電話株式会社	冷水 晴香 様 (卒業生)
沖縄の観光資源を知る	一般財団法人 沖縄県環境科学センター	岩村 俊平 様
スタートアップビジネスの紹介	一般社団法人沖縄スタートアップ支援協 会代表理事	兼城 駿一郎 様(卒業生)

FULLER株式会社

さくらインターネット 代表取締役社長

外部講師一覧



沖縄の価値を知る

沖縄×エンジニア

さくらインターネット田中社長の講話



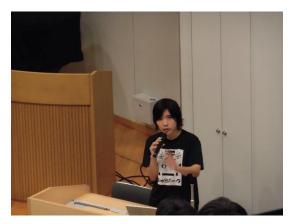
ディスカッションの様子(1年生)



田中 邦裕 様

伊禮 吉充 様 (卒業生)

起業経験を聞くの様子(4年生)



学生達の質問にも丁寧に回答して頂きました

#### ◇インターンシップでの取り組み

本校では、学生が社会や産業について実践的な知見を深め、学生自身のキャリア形成に 資することを目的として、「インターンシップ」を本科4年生の必修科目として開設してい る。今年度は、新型コロナ感染症も終息しつつあったため、ほとんどの受入先企業で対面 実施となり、県内外合わせて、92社に167名の学生が参加した。

### ◇創造システム工学実験

課題を設定し、設定した課題解決のために、適切に実験計画を立て、それを遂行するための技術を身につけることを目的として「創造システム工学実験」を専攻科第1学年の必修科目として開設している。特に今年度は地域の課題解決をテーマとして3つの課題に、3チームがIT技術や分析力等を駆使して地域や地元企業等と連携して取り組んだ。

A「麦芽粕、乾燥酵母を活用した商品開発と地域活性化」では、名護こども食堂と連携し、廃棄されている地域資源を活用して子ども達が喜んで食べる商品の開発を行った。B「カムカムプロジェクト」は、むし歯が多い子ども達に楽しみながら口腔健康意識を高めるために、知識をつけつつ咀嚼運動を促進させるアプリを作成した。C「75beer~winter~」は、名護市の街を活性化させることを目的に、ビールの街名護をアピールする情報発信ツール作成やビアカクテル試作、観光ウォーキングコースの試案、フォトスポットの作成を行った。これらの取り組みは、新聞各紙やテレビでも取り上げられた。

## 創造システム工学実験 地域社会の課題解決

## 3つのテーマ

- A チーム 麦芽粕、乾燥酵母を活用した子供が喜んで食べる 商品の開発とそれを通した地域活性化の推進
- Bチーム 虫歯が多い子供たちに楽しみながら歯の健康を 意識させる口腔ケアアプリの開発
- Cチーム 名護市の街を活性化させることを目的とした PRツール、観光コースやフォトスポットの開発



「創造システム工学実験」において、地域や地元企業と連携して課題に取り組むことで、 創造的思考力及び工学関連分野(機械・電気電子・情報・生物)の問題発見・解決方法を身 につける機会を得ることができた。

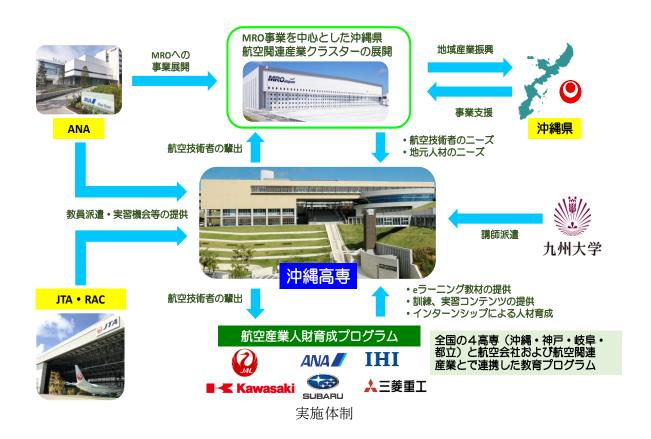
#### ◇航空技術者プログラム

沖縄県の進める「21世紀ビジョン」の重点戦略の一つである「航空関連産業クラスターの形成」の中核をなす、MRO事業を展開する MRO Japan をはじめとした、航空関連産業界で活躍する人材を育成することを目的として、平成27年度に開設された人材育成事業が航空技術者プログラムである。これまで航空技術者プログラムは、本科4・5年生と専攻科1・2年生の4年間のプログラムで"航空機整備"に重点を置いた内容となっていたが、既に7年が経過し、多様化する航空業界および学生のニーズに応えるべく、今年度からは航空関連産業分野を広く学ぶことができるカリキュラムとして、2・3年生で「航空機・関連産業に関する基礎」を4・5年生で「航空技術・航空工学の基礎」を学ぶことができる新しいプログラムに再編した。さらに勉強したい学生のために、オプションとして1年生の後期から JTA 派遣講師による特別講義や専攻科の2年間の課程も継続している。この専攻科までのプログラムを継続した学生はRACのパイロット養成制度である「運航乗務員

候補者養成(奨学金貸与)制度」に推薦できることになり、また令和3年度からは、全国の4高専と、航空会社・重工業メーカー(6社)および国土交通省・経済産業省・文部科学省の産学官が連携したオールジャパン体制での航空機製造・整備技術者の育成をする取り組みである「航空人財育成プログラム」にも参画している。このような様々な連携によって、これまで以上に幅広い学修はもちろんのこと、より多くの進路を選択することができるようになった。



新しい航空技術者プログラム



航空技術者プログラム科目のシラバス例として、整備基礎Ⅱのシラバスを以下に示す。また、本プログラム受講生の進路先を以下に示す。

油線	工業高等	専門学校	開講年度	6和05年度 (2	0023年度1	扫	業科目 !	Ÿ備基礎Ⅱ	
科目基礎		71 JT1X	ment T	かねり3千度 (2	.025+B()	12	ANTE I	王 阿金州[11	
科目番号	LIFTIA	7002			科目区分		専門/選択	!	
授業形態		講義			単位の種別と単	位数			
開設学科		機械シス	テム工学科		対象学年		5		
開設期		通年			週時間数		2		
教科書/教	И		幕座7.タービンエンジ	ン(日本航空技	析協会)、教員作	成資料			
担当教員		大貫 龍哉							
到達目標									
を目標とす	న,	ンジン、電	ス・電子装備品のナビ	グーション、航	空法令の概要、筋	空機の	財空性管理並	びに安全全般の基礎的内容の理解	
ルーブリ	リック		I THE STATE OF THE		CONTRACTOR AND ADDRESS OF THE PARTY OF THE P		l ede	+=0=1 1 E-+	
			理想的な到達レベル 定期試験で90%に		標準的な到達した 定期試験で70%			未到達レベルの目安 定期試験で60%未満の理解度評	
評価項目1	: 授業内容	の理解度	值	以上05座所授計	個	765A T.O.	<b>冲坐阱/点件</b>	個	
学科の到	達目標項	目との関	係						
教育方法	等								
概要		航空機の 全般の基準	タービン・エンジン、 壁的内容に関しての講	電気・電子装備! 機を行う。	品のナビゲーショ	ン、航3	を法令の概要	<ul><li>航空機の耐空性管理並びに安全</li></ul>	
授業の進め	方・方法		講義形式であるが、エ こ展示されているエン				<b>元空産業のト</b>	・ビックを提供しながら進める。ま	
注意点							ステムの役割	を理解してもらうことに力点を置	
授業の原	性・履修	上の区分							
************	ィブラーニ		□ ICT 利用		② 遠隔授業対応	5		☑ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	i								
		週	授業内容			週ごと	の到達目標		
		1週	エンジンの分類特長機	念、熱力学		エンジンの基礎を理解		里解	
	1stQ	2週	タービンエンジンの概要			タービンエンジンの概要を理解		の概要を理解	
			タービンエンジンの出力			タービンエンジンの出力を理解		の出力を理解	
			タービンエンジン本体の基本構成要素(1)			基本構造を理解 EANIX http://paperson.times			
			タービンエンジン本体の基本構成要素(2)		FANおよびCOMPRESSORを理解				
			タービンエンジン本体の基本構成要素 (3)		燃焼室およびタービンを理解 排気系統を理解				
			タービンエンジン本体の基本構成要素(4) 中間試験			排风系統包理解 NA			
前期		-	中国和級 タービン用燃料および滑油		タービン用燃料およ		ン用燃料お。	よび滑油を理解	
				アービンエンジンの各種系統(1)		燃料系統を理解			
		11週	タービンエンジンのき	S種系統(2)	点火、空気		空気、制御系統を理解		
	2ndQ	_	タービンエンジンの各			指示、滑油		骨油、始動系統を理解	
	znav		タービンエンジンの材			一般、概要、特異現象を理解			
			エンジン試運転、状態	極監視手法		エンジン試運転、状態監視手法を理解			
			環境対策			環境対策の概要を理解			
			明末試験	¢ Zin		NA 航法関連のシステムに関しての基礎的事項の理解			
			電気・電子装備品の基						
			電気・電子装備品の基			航法関連各システム(ADF 、VOR等)の基礎的事項の理解 航法関連各システム(ATC、TCAS、Weather		的事項の理解	
			電気・電子装備品の基	MEET.		原本国連合システム等)の基礎的事項の			
	3rdQ		電気・電子装備品の基			航法関連各システム(GPWS等)の基礎的事項の			
		5週	電気・電子装備品の基	<b>B</b> 模				ム(FMS等)の基礎的事項の理解	
		6週	航空法规			しての	全体感の理解		
		7週	航空法规			航空機に係る安全性の確保の概念 、耐空証明、型式証明の基礎的事項の理解			
後期		8週	中間試験			NA			
		9週	航空法规			整備と 航空運	改造、事業 <sup>は</sup> 送事業に関し	場の認定、航空機の運航 して基礎的事項の理解	
		10週	航空機の耐空性管理に	関して		耐空性 を理解		特制確保に関しての基礎的な仕組み	
	4thQ	11週	航空機の耐空性管理に	関して		仕組み	を理解する	管理プログラムに関しての基礎的な	
		12週	安全全般			安全と か)を		特性(人間は何故エラーを起こすの	
		13週	安全全般					- 、エラー防止に関しての基礎的事	
		14週	安全全般			項の理解 安全管理体制 (SMS) の基礎事項を理解する			
								- Charles Charles	

		15週	安全全般		航空事故とインシデントに関しての基礎的事項の理解			
		16週	期末試験		NA			
評価割合	評価割合							
		Į1	枕験	発表	取組姿勢	合計		
総合評価割合	à	8	0	0	20	100		
基礎的能力		8	0	0	20	100		
専門的能力		0		0	0	0		
分野横断的梯	能力	0		0	0	0		

令和6年3月 本科卒業・専攻科修了予定者 就職・進学状況

	V# 0.6	機械システ	ム工学科	情報通信	工学科	メディアヤ	青報工学科	專功	科
	進路	男	女	男	女	男	女	男	女
	MROJapan			1					
	<b>ДNA</b> ANAラインメンテナンステクニクス株式会社	2							
	株式会社 JALエンジニアリング				1				
就職	<b>₩</b> JTA							1	
万/七月秋	与する SugaRu デウノ機銃会社 字都宮事業所							1	
	航空宇宙カンパニー SUBARU							1	
	SEIKO EPSON							1	
	amazon	1							
	沖縄高専 専攻科	3							
	東京大学			1					
進学	一千葉大学 CHIBA UNIVERSITY			1					
	wanth 豐橋技術科学大学			2					
	未定(海外の大学へ進学予定)	1							

今年度は、新型コロナウイルスが5類に移行するなど受講者も戻りつつある。採用については回復の兆しが見え、県内外の航空整備会社や航空機メーカーへも決まっている。

#### ◇観光・地域共生デザインコース

沖縄県内の産業は、8割が観光・商業・情報通信業からなる第3次産業である。近年、多くの業種を含む観光産業界からは、情報通信技術の素養を持ち、文理融合的な発想からイノベーションを構築できる人材が強く求められるようになってきた。一方で、令和3年7月に沖縄島北部は世界自然遺産となり、その生物多様性の高さと絶滅危惧種や固有種の多さから「世界的にかけがえのない地域」とされている。このような豊かな自然を保護しつつ産業振興を図るには、高い技術力だけでなく、地域と共生する方策をデザインできる人材が必要となる。このような背景を踏まえ、観光やそれを支える情報通信分野および商業分野などに人財を輩出するために、令和5年度より観光・地域デザインコースを設置することとなった。

本コースは、学科を問わず1年生から受講できる。1年生ではアントレプレナーシップ (起業家精神) の導入教育を受講し、また、地域と共生する基礎技術や基礎知識を学ぶ。2年生から3年生では情報通信技術の知識やプログラミング技術を高め、4年生では観光業や情報通信業などの現場でインターンシップを実施し、実務を実習する。さらに5年生では経済学・経営学・統計学などを学び、それらを起業の視点でどのようにデジタル広報へ活かすか、といった文理融合的な演習を行う。

本コースの趣旨の一つに地域の課題を見つけ、その課題解決に向けてアクションを起こせる人材育成がある。令和5年度は町おこしに力を入れている沖縄県うるま市津堅島の課題や課題解決に向けた活動を学ぶ機会を設け、本科1年生50名が12月6日~8日の実習に参加した。

#### 実習時の様子













#### 3. 自己評価

準学士教育課程は本校の本科教育目標が達成されるように授業科目を設定し、学年進行に伴って段階的に履修ができるように適切に配置されている。低学年には主に一般科目や 基礎的な専門科目が配置され、高学年では応用分野を含む専門科目が多く配置されており、 一般科目と専門科目が本科教育課程の中でバランスよく編成されている。

専攻科課程は準学士課程の専門学科を母体とした4コースから構成されている。授業科目は専攻科教育目標と教育方針に基づき配置され、各コースで準学士課程と専攻科課程を含めた7年間で体系的な教育課程が編成されている。専攻科教育目標との対応関係が明記されたシラバスが作成され、活用されている。

したがって、教育課程が体系的に編成されており、その内容が適切に実施されている。

# VI 教育の成果

#### VI 教育の成果

#### 1. 現状

学生のキャリア形成と、学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的として、キャリア教育センターを設置している。キャリア教育センターでは、策定しているキャリア教育プランに沿って年間スケジュールを組み、担任らと連携しながら各学年のキャリア教育に取り組んでいる。また、学内外の他組織や企業などと共同した取り組みも進め、学生に多方面から働きかけることで「自分の進路を自分で決定すること」を支援している。さらに、県の新規学卒者総合就職支援事業により常駐の就活コーディネータを置き、学生の就職等に関する個別相談に対応している。

#### 2. 取組

新型コロナウイルス感染症の影響が緩和された今年度は、対面で3年及び4年で企業見学 (研修旅行)、4年でインターンシップ、4年と専攻科1年で合同業界研究会(12月に2回)などのイベントを実施した。12月13日実施の合同業界研究会では、各学年のLHR時間 と重なる水曜午後に開催し、1年生~3年生の希望する学生も参加させた。

これまで地元企業を知る機会として、県内企業や産学連携協力会企業が主に参加する合同業界研究会を県外企業のものとは別日程で開催するなどの工夫を継続してきた。今年度は、昨年度と同様に県商工労働部雇用政策課と共同して、新規学卒者総合就職支援事業の一環として本校産学連携協力会の企業が参加する「理系学生向け業界研究会」を1月に実施した。またこれとは別に、昨年度と同様に県企画部科学技術振興課と共同して、高度研究人材等活用促進事業に参加する繊維・バイオ(生物系)分野および機器製造・整備(機械系)分野の企業により、12月には企業講座を、1月には業界研究会を実施した。1月実施の2つの業界研究会は、各学年のLHR時間と重なる水曜午後に開催し、1年生~3年生も参加させた。

来年度以降は、本校地域連携研究推進センターなども加え、上述の取り組みを引き続き行うとともに技術開発を含めた共同研究やインターンシップなどの実施を検討していく。

また昨年度から、金秀グループ、りゅうせきネットワーク、琉球セメント、オカノ、拓南グループの県内製造大手5社人事担当者が結成した「ジンジャー5」と協力し、共同で低学年の段階からの企業研究イベントを実施している。来年度に向け、「ジンジャー5」とキャリア教育センターとの協働インターンシッププログラムや、学内説明会などの取り組みを引き続き検討していく。

学校生活の見通し・学校生活や、上述のようなキャリアイベントの振り返り・自己評価を学生自身に行わせ、記録させる教育ポートフォリオの一つとして、沖縄高専 Career Log (沖縄高専版「キャリア・パスポート」)を一昨年度から本科で年2回 (前期1回、後期1回)実施している。これは文部科学省の通達により、県内小中高の全学年で一斉に実施されている沖縄県版「キャリア・パスポート」の本校版であり、「自分の進路を自分で決定すること」を支援し、学生に多方面から働きかけることの一助となるものである。来年度以降も、これを継続して実施していく。なお、女性エンジニアとしてのキャリアパスについては、男女共同参画推進委員会を含め、来年度検討していく。

#### VI 教育の成果

## キャリア教育年間スケジュール

有文・自称の応   新文   新文   新文   新文   新文   新文   新文   新文		1 学年	2 学年	3学年	4学年	5 学年	専攻科1学年	専攻科2学年
フーション	教育プラン		関わりについて	き、具体的な行	理解し、実践で きるようにす る、インターン シップで企業内 容と、求める人 材について理解	けた努力. 社会 に出るための知	た社会進出を目	た社会進出を目
講演会   企業見学(研修	学		「アントレプレ ナーシップセミ	分析テスト)* セミナー 「アントレプレ ナーシップセミ	プ事前学習 「インターンシャ セミナー 「身だしな サー」と オ・マー」・マートンプ セミアントプセミ		学セミナー (一	
理系学生向け/ 高度研究人材等	実施内容	門学校に入学し	2年生になって	3年生になって	4年生になって	5年生になって		
美スヤ	後学	高度研究人材等 活用促進事業の 業界研究会(県 と共催):学科	「2 年生のため のたが イス」 * セ「キャガイス」 * セ「ナートレプセー」 <b>選度用研究</b> <b>連究人業(</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業)</b> <b>一・での大業(</b> <b>一・での大業)</b> <b>一・での大業)</b> <b>一・での大業)</b>	旅行) 講演会(企業技 術者) セ「歴業」 を自書。 理所の書 を自書。 理所の書 を での書 を での表 を での表 を の を での表 を の を の を の は の は の は の れ り は の れ り く の り く の り と り 、 り と り と り 、 り と り と り と り と り と	「業界研究会の歩き方」* 講演会(企業技術者) 高度研究・大材等活用促進事業の企催。 セミナー 「アンソプセミナー」 企業見学(研修旅行) 合同業界研究会 セミナー 「適性特査対策 WEB テスト」* 理系研究・業の業界研	「ワークルー	シップ グターバルッツ グローバンツ 対対 は (企業技術者) セミ業を に で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ー 「ワークルー
	実施内容 スポー	*				門学校卒業に当		
	通年	全学年	企業説	.明会(個別) *	大学・	大学院説明会(個	別)*	

下線を引いたものは、キャリア教育センターと学内他組織とが共同した取り組み 太字は、キャリア教育センターと学外(企業等)とが共同した取り組み \*オンラインで実施

## 合同業界研究会参加企業

## (12月5日実施分)

	(12月5日実施分
番号	社名
1	㈱RKKCS
2	㈱アイティーオー
3	安治川鉄工㈱
4	AMECコンサルタンツ(株)
5	㈱ヴィッツ
6	㈱AESCジャパン
7	ANAグループ整備部門4社(e.TEAM ANA)
8	エスアイエス・テクノサービス(株)
9	SCSKニアショアシステムズ㈱
10	㈱NHKテクノロジーズ
11	NOK㈱
12	エプソン販売㈱
13	OTNet㈱
14	㈱沖縄銀行
15	沖縄ケーブルネットワーク㈱
16	株沖縄電子
17	沖縄日立ネットワークシステムズ㈱
18	オリオンビール㈱
19	㈱カヌチャベイリゾート
20	キヤノンメディカルシステムズ㈱
21	㈱九南
22	コマツカスタマーサポート(株)
23	さくらインターネット(株)
24	三建設備工業㈱九州支店
25	㈱シーエー・アドバンス
26	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing報
27	㈱セゾン情報システムズ
28	全保連㈱
29	(株)創和ビジネス・マシンズ
30	㈱ソフトウエア・サイエンス
31	㈱ダイハツビジネスサポートセンター
32	㈱タマディック
33	㈱中央エンジニアリング
34	中部電力㈱
35	
36	DIC㈱ ㈱ディスコ
37 38	東京エレクトロングループ 東芝ITサービス㈱
1000000	SACTOR SA
39	東芝プラントシステム㈱
40	東洋銅鈑㈱
41	TOTOバスクリエイト㈱
42	TOPPAN㈱
43	㈱ナノベーション
44	日東電工㈱
45	日本オーチス・エレベータ㈱
46	ネクストウェア(株)
47	㈱ビーシーシー
48	BBSakura Networks株
49	㈱ビーンズラボ
50	㈱日立ハイシステム21
51	㈱FIXER
52	㈱プロトソリューション
53	㈱ベアック沖縄
54	三菱地所コミュニティ(株)
55	ムラテックCCS㈱
56	㈱メイテックフィルダーズ
57	㈱明電エンジニアリング
58	メタウォーター(株)
59	㈱メンバーズ
60	矢崎総業㈱
61	山崎製パン㈱
62	㈱リウコム
	Manager Committee (1997) The second of the s
200 M 100	株I TXTI 有明丁堤
63	㈱LIXIL 有明工場 ㈱琉球銀行
200 M 100	株LIXIL 有明工場 株琉球銀行 株Relic

## 合同業界研究会参加企業

## (12月13日実施分)

	(12月13日実施分
番号	社名
1	アイエックス・ナレッジ(株)
2	㈱アイエンター
3	I-PEX㈱
4	旭化成㈱
5	㈱アルティア
6	㈱アルプス技研
7 8	(有)石場建設 出光興産㈱
9	(株)ヴィッツ沖縄
10	㈱NS・コンピュータサービス
11	㈱エヌ・ティ・ティ・エムイー
12	㈱オーエスデザイン
13	大阪シーリング印刷㈱(OSPグループ)
14	㈱OCC
15	㈱オカノ
16	㈱沖縄環境保全研究所
17	(一社)沖縄県情報産業協会
18	沖縄セルラー電話㈱
19	沖縄テクノス株
20	沖縄電力㈱
21	沖縄八厶総合食品㈱
22	沖縄明治乳業㈱ 沖縄菱電ビルシステム㈱
23	株開邦工業
25	花王㈱
26	金秀グループ
27	㈱クリエイティブキャスト
28	㈱クレスコ
29	㈱国際システム
30	㈱コマス
31	サントリーグループ
32	㈱JALエンジニアリング
33	ジョンソンコントロールズ(株)
34	㈱スリーエスシステムアンドサービス
34 35	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱
34 35 36	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ
34 35 36 37	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所
34 35 36 37 38	以フリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ
34 35 36 37 38 39	様スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス様 Daigasグループ 様高木製作所 拓南グループ 様タップ
34 35 36 37 38 39 40	様スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス様 Daigasグループ 株高木製作所 拓南グループ 株タップ 株テクノ菱和
34 35 36 37 38 39	㈱スリーエスシステムアンドサービス       ゼニヤ海洋サービス㈱       Daigasグループ       ㈱高木製作所       拓南グループ       ㈱タップ       ㈱テクノ菱和       東海ドック工業㈱
34 35 36 37 38 39 40 41	様スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス様 Daigasグループ 株高木製作所 拓南グループ 株タップ 株テクノ菱和
34 35 36 37 38 39 40 41 42	㈱スリーエスシステムアンドサービス         ゼニヤ海洋サービス㈱         Daigasグループ         ㈱高木製作所         拓南グループ         ㈱タップ         ㈱テクノ菱和         東海ドック工業㈱         東京電力ホールディングス㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱タップ ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス㈱ 東空販売㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱タップ ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ ㈱トヨタシステムズ
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱タップ ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ ㈱トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉄ステンレス鋼管㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱タップ ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ ㈱トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉄ステンレス鋼管㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱タップ ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ ㈱トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉄ステンレス鋼管㈱ 日本特殊研紙㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱タップ ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ ㈱トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉄ステンレス鋼管㈱ 日本特殊研紙㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス株  Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タウプ (株テクノ菱和 東海ドック工業株) 東京電カホールディングス(株) 東空販売(株) (株トヨタシステムズ トランスコスモス(株) ニチレキ(株) 日本ソフテック(株) 日本特殊研紙(株) 日本トランスオーシャン航空株) (株) (株) (株) (株) (株) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タップ (株テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉄ステンレス鋼管㈱ 日本ソフテック㈱ 日本特殊研砥㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱ (株阪技
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タップ (株テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス(株) 東空販売(株) (株トヨタシステムズ トランスコスモス(株) ニチレキ(株) 日本ソフテック(株) 日本ソフテック(株) 日本キウンスオーシャン航空(株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株)
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タップ (株テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉄ステンレス鋼管㈱ 日本ソフテック㈱ 日本特殊研砥㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱ (株阪技
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タップ (株ケノ) 菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス(株) 東空販売(株) (株トヨタシステムズ トランスコスモス(株) ニチレキ(株) 日本ソフテック(株) 日本ソフテック(株) 日本トランスオーシャン航空(株) (株) 様) 段技 (株) 様) 段技 (株) 様) 段技 (株) 様) 日本特殊研砥(株) (株) 様) 日本特殊研砥(株) (株) 様) 日本世界ができます。 (株) 様) 日本世界ができます。 (株) 様) 日本世界ができます。 (株) 様) 日本機(大) では、(大) では、
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タップ (株テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス(株) 東空販売㈱ (株トヨタシステムズ トランスコスモス(株) ニチレキ(株) 日本ソフテック(株) 日本ソフテック(株) 日本トランスオーシャン航空(株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株)
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56	はスリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株ケノ)菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日本ソフテック㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱ (株阪技 (株)医技 (株)にジュアル・プロセッシング・ジャパン 日立建機日本㈱ 富士電機㈱ (株)物前川製作所 (株)牧野技術サービス
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株タップ (株テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス(株) 東空販売㈱ (株トヨタシステムズ トランスコスモス(株) ニチレキ(株) 日本ソフテック(株) 日本特殊研砥(株) 日本特殊研砥(株) 日本特殊研砥(株) 日本地ランスオーシャン航空㈱ (株) 「地ビジュアル・プロセッシング・ジャパン 日立建機日本株) 富士電機(株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株)
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58	関スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株)タップ (株)テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株)トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日本ソフテック㈱ 日本特殊研砥㈱ 日本特殊研砥㈱ 日本特殊研で、 (株) 日本特殊研で、 (株) 日本特別でで、 (株) 日本地ので、 (株) 日本地ので、 (大) 日ので、 (大) 日ので (大) 日ので
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59	㈱スリーエスシステムアンドサービス ゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ ㈱高木製作所 拓南グループ ㈱ケック ㈱テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ ㈱トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日本ソフテック㈱ 日本ドランスオーシャン航空㈱ 桃阪技 ㈱ビジュアル・プロセッシング・ジャパン 日立建機日本㈱ 富士電機㈱ ㈱前川製作所 ㈱牧野技術サービス MOOC(ものづくり Only One Club) 盟友技研㈱ ㈱屋部土建
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62	はスリーエスシステムアンドサービスゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株)テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株)トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉢ステンレス鋼管㈱ 日本ソフテック㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱ (株)阪技 (株)にジュアル・プロセッシング・ジャパン 日立建機日本㈱ 富士電機㈱ (株)前川製作所 (株)牧野技術サービス MOOC(ものづくり Only One Club) 盟友技研㈱ (株)屋部土建 横河ソリューションサービス㈱ 琉球セメント㈱ 琉球な送㈱
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63	はスリーエスシステムアンドサービスゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株)テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電カホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株)トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日本ソフテック㈱ 日本ソフテック㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱ (株)阪技 (株)にジュアル・プロセッシング・ジャバン 日立建機日本㈱ 富士電機(株) (株)前川製作所 (株)牧野技術サービス MOOC(ものづくり Only One Club) 盟友技研㈱ (株)屋部土建 横河ソリューションサービス㈱ 琉球セメント㈱ 琉球な送く (株)りゅうせき
34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62	はスリーエスシステムアンドサービスゼニヤ海洋サービス㈱ Daigasグループ (株高木製作所 拓南グループ (株)テクノ菱和 東海ドック工業㈱ 東京電力ホールディングス㈱ 東空販売㈱ (株)トヨタシステムズ トランスコスモス㈱ ニチレキ㈱ 日鉢ステンレス鋼管㈱ 日本ソフテック㈱ 日本トランスオーシャン航空㈱ (株)阪技 (株)にジュアル・プロセッシング・ジャパン 日立建機日本㈱ 富士電機㈱ (株)前川製作所 (株)牧野技術サービス MOOC(ものづくり Only One Club) 盟友技研㈱ (株)屋部土建 横河ソリューションサービス㈱ 琉球セメント㈱ 琉球な送㈱

#### 理系学生向け業界研究会参加企業\*1

番号	社名
1	株式会社 アクロラド
2	株式会社 EM研究機構
3	株式会社 ヴィッツ沖縄
4	ANAスカイビルサービス 株式会社
5	SCSKニアショアシステムズ 株式会社
6	MRO Japan 株式会社
7	株式会社 太名嘉組
8	沖電グローバルシステムズ 株式会社
9	沖縄NXエアカーゴサービス 株式会社
10	株式会社 沖縄環境保全研究所
11	株式会社 沖縄銀行(おきなわフィナンシャルグループ)
12	一般社団法人,沖縄県情報理量協会(中縄県情報者に関連理量団体連合会)
13	沖縄セルラー電話 株式会社
14	OTNet 株式会社
15	株式会社 沖縄電子
16	沖縄電力 株式会社
17	沖縄八ム総合食品 株式会社
18	沖縄プラント工業 株式会社
19	沖縄菱電ビルシステム 株式会社
20	オリオンビール 株式会社
21	株式会社 開邦工業
22	株式会社 カヌチャベイリゾート
23	金秀グループ
24	上代工業 株式会社
25	三建設備工業 株式会社
26	JTAインフォコム 株式会社
27	拓南グループ
28	T&Cテクノロジーズ 株式会社
29	株式会社 仲本工業
30	ニチレキ 株式会社
31	日本トランスオーシャン航空 株式会社
32	株式会社 阪技
33	株式会社 ビーンズラボ
34	株式会社 プロトソリューション
35	株式会社 メディアトランスボート / 株式会社 サムスインターナショナル
36	株式会社 リウコム
37	株式会社 琉球銀行
38	琉球セメント株式会社
39	株式会社 琉球ネットワークサービス
40	株式会社 りゅうせき

## 高度研究人材等活用促進事業の 業界研究会参加企業\*2

番号	社名
1	㈱ホクガン
2	㈱バタフライピー研究所
3	由風BIOメディカル㈱
4	株オーエーシー
5	(株)ADO
6	㈱おきさん
7	㈱沖縄計測
8	㈱中央建設コンサルタント
9	㈱okicom
10	ちゅらデータ㈱
11	㈱グローバルウェイ
12	アクシオヘリックス(株)
13	沖縄テクノス㈱
14	㈱アイセック・ジャパン
15	ビットノット(株)

- \*1 沖縄県商工労働部 雇用政策課「新規学卒者総合就職支援事業」の一環として実施。
- \*2 沖縄県企画部 科学技術振興課「高度研究人材等活用促進事業」の一環として実施。

## 【令和4年3月卒業者の進路状況】

令和4年5月1日現在

_								
	区分		7			<b>at</b>		
l		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	470		
⊢	卒業者数※2	41	46	55	36	178		
	進学希望者数	16	19	16	23	74		
l	進學者數	15	17	16	22	70		
	うち3年次編入等進学者数	6	5	10	13	34		
	うち専攻料進学者数	8	9	5	6	28		
l	うち専門学校・その他進学者数	1	3	1	3	8		
	進学決定率 (進学者数/進字希望者数)	93.8%	89.5%	100.0%	96.7%	94.6%		
an		沖縄工業高等専門学校専政科(4)	沖縄工業高等専門学校専攻科(8)	沖縄工業高等専門学校専攻科(S)	沖縄工業高等専門学校専攻科(4)			
進学状		千葉大学	九州大学	会津大学	佐賀大学			
払		東京農工大学	東京農工大学	千葉大学	島模大学			
æ		琉球大学	豐橋技術科学大学	筑波大学	長回技術科学大学(2)			
ı		金沢大学	琉球大学	電気通信大学	想為大学			
l	選学先※1	千葉工業大学	沖縄国際大学	島模大学	信州大学			
l		東京理科大学	モンゴル科学技術大学	琉球大学(3)	琉球大学(2)			
l		沖縄高車研究生	沖縄高尊研究生(2)	東京工芸大学	香川大学(2)			
l				東京国際工科専門職大学	<b>帯広面産大学</b>			
ı				文化服装学院	東京農工大学			
ı				Per to the Per T to the				
					熱農学園大学			
					学校决人新典学图片编纂理解専門学校			
					KBO学園 沖縄ペットワールド専門学校			
					学校法人SOLA学園 沖縄医療工学院			
⊢	*****	25	26	35		00		
l	試職希望者数	21	26	34	13	99 94		
ı	試験者數	21	20	34	13	54		
	放職率 (就職者数/就職希望者数)	84.0%	100.0%	97.1%	100.0%	94.9%		
ı		株式会社FMやんぱる	JTAインフォコム株式会社	株式会社ビーンズラボ(2)				
ı		金秀アルミ工業株式会社		株式会社サムズインターナショナル				
ı		拓南製鉄株式会社(2)		T&Cテクノロジーズ株式会社				
ı		極東建設株式会社						
ı	就職先企業名※1							
ı	(県内) 長内に本社のある企業							
ı								
ı								
ı		£+ 5 &	# 1 %	# 4 4	# 0 &	<b>県内計 10 名</b>		
l		就職者に占める割余 24%	就職者に占める割合 45	就職者に占める割合 125	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 115		
ı		出光興産株式会社(3)	I-PEX株式会社	大阪シーリング印刷株式会社	出光與產株式会社			
ı		株式会社アルブス技研	NTTデータソフィア株式会社	株式会社FIXER(3)	大阪シーリング印刷株式会社			
ı		株式会社技研製作所	NTT東日本グループ(2)	株式会社NS・コンピュータサービス				
ı			出光展度株式会社	株式会社クリエイティブキャスト				
ı		株式会社マイタック		株式会社コンピュータマインド				
		株以養性マイプラン キヤノングディカルシステムズ株式会社	l	株式会社セルシス	日本たばこ産業株式会社 ユニチカ株式会社			
就								
離状		東京ガスパイプネットワーク株式会社		株式会社ソフトウェア・サイエンス(2)				
沒		日本ペイント株式会社	株式会社オーエスデザイン	株式会社タップ	三友ブラントサービス株式会社			
		三菱ケミカル株式会社	株式会社をは20mmのフォーメのものサービス 株式会社をは10mmのフォースとって		株式会社オーエスデザイン(2) 株式会社アルブス技研			
		メタウォーター株式会社		株式会社ドリコム				
		株式会社福井村田製作所	株式会社日立ハイシステム21	株式会社ハイマックス	安連機関			
		株式会社メイテックフィルダーズ		株式会社がジェアル・プロモッシング・ジャバン	中即阿特殊工業程			
	****	l	キャノンマーウティングジャバン株式会社	I				
	就職先企業名※1 (順外)	ダイダン株式会社	国際ケーブル・シップ株式会社					
	根外に本社がある企業			株式会社メンバーズ(2)				
			東芝プラントシステム株式会社					
				クラウドエース株式会社(2)				
			パテリニットシステムッドルーションポジャンと最近最初	エヌシーティ株式会社				
			富士電機株式会社	株式会社アイダ設計				
			株式会社テクノブロ	株式会社アルブス技研(2)				
			株式会社ディライトテクノロジー	株式会社Jストリーム				
			三興コントロール株式会社	関ロジェキラルサービス株式会社				
		\$+ 16 &	# 25 &	# 30 <b>%</b>	# 13 <b>%</b>	原外計 84 名		
ı		就職者に占める割合 76%	就職者に占める割合 96%	就職者に占める割合 88%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 89%		

<sup>※1</sup> 同一企業に複数名の学生が試職した場合、または同一の選学先に複数名の学生が選学した場合、その人数を( )内に示しています。

<sup>※2</sup> 卒業者数には留学生を含む。

## 【令和4年3月修了者の進路状況】

令和4年5月1日現在

_						令和4年5月1日現在
	区分	機械システムエ学コース	コ 電子通信システムエ学コース	ース 情報工学コース	生物資源工学コース	<b>会計</b>
l	作了者数	4	5	3	9	21
$\vdash$	進学希望者数	0	2	1	2	5
l	選手者数		2	1	1	4
l	うち大学院等選学者		2	1	0	3
l	うち専門学校・その他選学者		0	0	1	1
	進学決定率 (進学者数/進学希望者数)		100.0%	100.0%	50.0%	80.0%
*	(進学者数/進学希望者数)		電気通信大学大学院	電気通信大学大学院	沖縄車専研党生	00.070
進学状況	進字先※1		電料機能のデステ統 和歌山大学大学院			
г	就職希望者数	4	3	2	6	15
	就職者依	4	3	2	5	14
	就職率 (就職者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	93.3%
	就職先企業名※1 (第内) 県内に本社のある企業	計 0 名 就職者に占める割会 0%	計 2 名 試職者に占める割合 67%	計 0 名 奴職者に占める割合 0%	計 1 名 故職者に占める割合 20%	計 3 名 奴職者に占める割会 21%
就職状況	就職先企業名※1 (集外) 乗外に本社がある企業	場化成株式会社 キヤノングディカルレステムズ株式会社 株式会社タマディック 日本精工株式会社	KDD聯式会社	株式会社メンバーズ テームラボ株式会社	DIC株式会社(2) 出光房産株式会社 沢井製栗株式会社	
L		計 4 名 状態者に占める割余 100%	計 1 名 就職者に占める割合 33%	計 2 名 就職者に占める割合 100%	計 4 名 就職者に占める割合 80%	計 11 名 就職者に占める割合 79%

<sup>※1</sup> 同一企業に複数名の学生が就職した場合。または同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を( )内に示しています。

## 【令和5年3月卒業者の進路状況】

令和5年5月1日現在

						令和5年5月1日現在
	区分		学	'科		合計
	54	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	6229/63620
	卒業者数※2	28	41	41	38	148
	進学希望者数	13	19	14	20	66
ı	合格者数	11	16	10	17	54
ı	うち専攻科進学者数	5	9	5	8	27
	うち3年次編入等進学者数	6	6	4	9	25
	うち専門学校・その他進学者数	0	1	1	0	2
	進学決定率 (進学者数/進学希望者数)	84.6%	84.2%	71.4%	85.0%	81.8%
	The second company of the second seco	沖縕工業高等専門学校専攻科(5)	沖縄工業高等専門学校専攻科(9)	沖縄工業高等専門学校専攻科(5)	沖縄工業高等専門学校専攻科(8)	
進		愛知教育大学	長岡技術科学大学(2)	岐阜大学	長岡技術科学大学(3)	
学状		長岡技術科学大学		豊橋技術科学大学	All the state of t	
况		45666	豊橋技術科学大学		神戸大学	
"		東京工業大学	東京農工大学	大阪芸術大学	広島大学	
ı		島根大学	佐賀大学	京都芸術大学	琉球大学	
ı	進学先※1	福島大学	沖縄中央学園	代々木アニメーション学院金沢校	弘前大学	
ı	11-12-2-2-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	北見工業大学	具志川職業能力開発校		東北大学	
					愛媛大学	
Г	就職希望者数	15	22	27	18	82
	就職者数	13	18	25	16	72
	就職率	00.70/	04.00/	02.00/	00.00/	07.00/
ı	(就職者数/就職希望者数)	86.7%	81.8%	92.6%	88.9%	87.8%
ı		MRO Japan 株式会社		沖縄ケーブルネットワーク株式会社	拓南商事株式会社	
ı		株式会社沖電システム		OTNet株式会社	THE PERSON OF TH	
ı		林以芸社汗電ンハノユ		OTNOUMARK		
ı						
ı	afab man an a salle ha ver					
ı	就職先企業名※1 (県内)					
ı	県内に本社のある企業					
ı	2076230000000000000000000000000000000000					
ı						
ı		計 2 名	計 0 名	計 2 名	計 1 名	県内計 5 名
ı		内定者に占める割合 15%	内定者に占める割合 0%	内定者に占める割合 8%	内定者に占める割合 6%	内定者に占める割合 7%
		株式会社IHIエスキューブ	株式会社マイスターエンジニアリング	The state of the s	サントリー知多蒸留所株式会社	FIXE BIRD ON 1 10
ı		Con a second based and the states and the		Management of the second	and the second s	
ı			エスアイエス・テクノサービス株式会社	V	KMバイオロジクス株式会社(2)	
ı		アマゾンジャパン合同会社	パナソニックコネクト株式会社(2)	Approximately and the second s	A Marine Area Colored	
ı		I-PEX株式会社(2)	NTTデータソフィア株式会社(2)	株式会社くふうカンパニー(2)	旭化成株式会社	
ı		SUS株式会社	富士電機株式会社	株式会社ローソンエンタテインメント	東レ株式会社	
就		出光興産株式会社(2)	NTTコミュニケーショングループ	株式会社福岡銀行	サントリーホールディングス株式会社	
職		株式会社ダイハツビジネスサポートセンター	凸版印刷株式会社	AMECコンサルタンツ株式会社	日本ジェネリック株式会社	
状		ヤマザキピスケット株式会社	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社	NECフィールディング株式会社	東海シープロ株式会社	
況		株式会社トップエンジニアリング	株式会社ウィズ・ワン	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社	関電プラント株式会社	
ı			ジョンソンコントロールズ株式会社	and the second second second second	三洋化成工業株式会社	
ı			さくらインターネット株式会社	ローランド株式会社	YUIME株式会社	
ı			AND THE RESERVE AND THE PARTY OF THE PARTY O	The second secon	THE PROPERTY OF THE PARTY OF TH	
ı			三菱地所コミュニティ株式会社		株式会社オーエスデザイン	
ı			フラー株式会社	Committee and the committee of the commi	株式会社エンバイオエンジニアリング	
ı	就職先企業名※1		株式会社日産オートモーティブテクノロジー	アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社		
ı	(県外) 県外に本社がある企業		I-PEX株式会社	株式会社FIXER(5)		
ı			株式会社メンバーズ	サイバートラスト株式会社		
ı				INTLOOP株式会社(2)		
ı						
ı						
ı						
ı						
ı						
ı						
ı						
		計 11 名	計 18 名 内定者に占める割合 100%	計 23 名	計 15 名	県外計 67 名

<sup>※1</sup> 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

<sup>※2</sup> 卒業者数には留学生を含む。

#### 【令和5年3月修了者の進路状況】

令和5年5月1日現在

_						令和5年5月1日現在
	区分	機械システム工学コース	コー電子通信システムエ学コース	ース 情報工学コース	生物資源工学コース	合計
	修了者数	6	2	4	10	22
	進学希望者数	2	0	1	3	6
	進学者數	2	0	1	3	6
	うち大学院等進学者	2	0	1	3	6
	うち専門学校・その他進学者	0	0	0	0	0
	進学決定率 (進学者数/進学希望者数)	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学状況	進学先※1	奈良先端科学技術大学院大学 東北大学大学院		北陸先端科学技術大学院大学	長岡技術科学大学大学院 東京大学大学院 筑波大学大学院	
Н	就職希望者数	4	2	3	7	16
	就職者数	4	2	3	5	14
	就職率 (就職者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	71.4%	87.5%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	計 1 名 内定者に占める割合 25%	計 1 名 内定者に占める割合 50%	計 0 名 内定者に占める割合 0%	計 1 名 内定者に占める割合 20%	計 3 名 内定者に占める割合 21%
就職状況	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	東京電力ホールディングス株式会社 関西電力株式会社 富士電機株式会社	ソフトバンク株式会社	NITデータソフィア株式会社 東京計装株式会社 KDDI株式会社	旭化成株式会社 ハイモ株式会社 中外製薬工業株式会社 株式会社ちと世研究所	
		計 3 名 内定者に占める割合 75%	計 1 名 内定者に占める割合 50%	計 3 名 内定者に占める割合 100%	計 <b>4</b> 名 内定者に占める割合 80%	計 11 名 内定者に占める割合 79%

<sup>※1</sup> 同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

## 【令和6年3月卒業予定者の進路状況】

	【令和6年3月卒業予定者の進路状況】 ************************************									
	区分	合計								
	平業予定者数※2	機械システム工学科 33	情報通信システム工学科 43	メディア情報工学科 37	生物資源工学科 33	146				
	進学希望者数	13	19	11	13	56				
	食養者數	9	16	8	12	45				
	うち専攻料会格者数	8	6	4	10	28				
	うち3年次編入等合格者数	1	10	3	2	16				
	うち専門学校・その他会格者数	0	0	1	0	1				
	進学合格率 (合格者数/進学希望者数)	69.2%	84.2%	72.7%	92.3%	80.4%				
合格状		沖縄工業高等専門学校専攻科(B) 豊橋技術科学大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(d) 豊橋技術科学大学(4) 長岡技術科学大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(4) 豊橋技術科学大学 東京国際工科専門職大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(10) 長岡技術科学大学 高知大学					
提	進学予定先※1		夏京大学 千葉大学 场面大学 场球大学 版本大学	北見工業大学 代々木アニメーション学院福岡校						
	就職希望者数	20	24	26	17	87				
	内定者教	18	18	22	17	75				
	内定率 (内定者数/就職希望者数)	90.0%	75.0%	84.6%	100.0%	86.2%				
	内定先企業名※1 (集内) 集内に本社がある企業		MRO Japan 株式会社 株式会社プロトソリューション	かまちょっかい株式会社 株式会社ヴィッツ沖縄(2)						
		H 1 6	# 3 %	# 5 %	# 0 4 #285-45-284 00	現内計 9 名				
内定状况	内定先企業名※1 (個外)	株式会社情報技研 富士電機株式会社(2) MMA(一次ルデナンスヤウニンス単成会社 株式会社メイテックフィルダーズ アマゾンジャバン合同会社 キヤルンディカルシステム工株式会社 DMG森積機株式会社 東空販売機株式会社 東空販売機は会社 ANAスカイビルサービス株式会社 IIーソルクロステラノロジー株式会社	株式会社JALエンジニアリング 核立行政法人 国立印刷局 株式会社アテック 出光規度株式会社(3) 日本オーテス・エレベータ株式会社(2) はアデータソフィア株式会社(2) 株式会社第一テクノ 株式会社ビクソン 原芝ITサービス株式会社	株式会社アルトナー(2) 株式会社ウィッツ 株式会社トラタンステムズ 株式会社クリエイティブキャスト 株式会社メイテックフィルダーズ 三菱電機エンジニアリング株式会社 ビクシブ株式会社 株式会社FIXER アマゾンジャパン合同会社	株式会社レゾナック	内変者に占める割合 12%				
		計 17 名 内定者に占める割合 94%	計 15 名 内定者に占める割合 83%	計 17 名 内定者に占める割合 77%	計 17 名 内定者に占める割合 100%	機外針 66 名 内定者に占める割合 88%				

<sup>※1</sup> 同一企業に複数名の学生が内定した場合。または同一の選学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を( )内に示しています。

<sup>※2</sup> 卒業予定者数には留学生を含む。

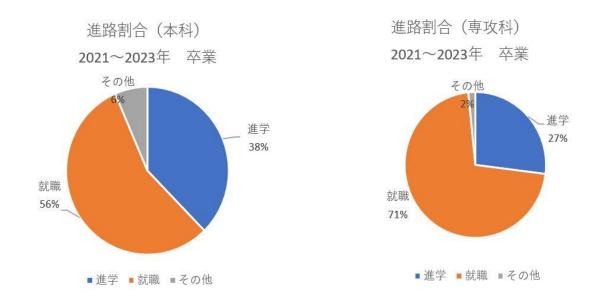
## 【令和6年3月修了予定者の進路状況】

令和6年2月1日現在

_	1	令和6年2月1日現在				
	区分	機械システム工学コース	コー電子通信システム工学コース	ース 情報工学コース	生物資源工学コース	合計
	修了予定者数	8	10	5	5	28
$\vdash$	進学希望者数	1	0	2	1	4
	合格者數	1	0	2	0	3
	うち大学院等合格者	i	0	2	0	3
	うち専門学校・その他合格者	0	0	0	0	0
	進学合格率	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	75.0%
合格	(進学者数/進学希望者数)		0.0%		0.0%	75.0%
		<b>豊橋技術科学大学大学院</b>		九州工業大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学		
格状況				**EXMITTIXMXTMXT		
-						
	進学予定先※1					
	就職希望者數	7	10	3	1	21
	内定者敷	7	9	2	1	19
	内定率	100.0%	90.0%	66.7%	100.0%	90.5%
	(内定者数/就職希望者数)					
		株式会社アクロラド	JTAインフォコム株式会社			
			日本トランスオーシャン航空株式会社			
	内定先企業名※1		沖縄セルラー電話株式会社			
	(県内)					
	県内に本社がある企業					
		a			** 0 **	
		計 1 名 内定者に占める割合 14%	計 3 名 内定者に占める割合 33%	計 0 名 内定者に占める割合 0%	計 0 名 内定者に占める割合 0%	計 4 名 内定者に占める割合 21%
		SUBARUテクノ株式会社	NTT東日本グループ会社	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社		PIACEICE SOURCE ZIN
		セイコーエブソン株式会社	株式会社レッドクリフ	日産自動車株式会社		
		株式会社資生堂	KDDI株式会社			
1_		株式会社ダイハツビジネスサポートセンター				
内定		株式会社SUBARU	株式会社トヨタシステムズ			
定状		シャープ株式会社	株式会社アイ・エス・ピー			
況						
	内定先企業名※1					
	(県外) 県外に本社がある企業					
	Maria de Caración					
		計 6 名	計 6 名	計 2 名	計 1 名	計 15 名
		内定者に占める割合 86%	内定者に占める割合 67%	内定者に占める割合 100%	内定者に占める割合 100%	内定者に占める割合 79%

<sup>※1</sup> 同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を( )内に示しています。

## 【進路割合】



※過去3年間(卒業、修了時)の就職者、進学者の比率。「その他」は企業、留学生の帰国、就職・進学いずれも希望しなかった場合など学生個別の事情によるもの。

### 【就職者に占める県内企業への就職者数及び就職率(卒業・終了予定者の進路状況より)】

### ○本科

学科名	卒業年月	就職者数 ()内は県内就職者数	県内就職率
	2019/3	16 ( 0 )	0%
	2020/3	23 ( 4 )	17%
機械システム工学科	2021/3	12 ( 3 )	25%
	2022/3	25 ( 5 )	20%
	2023/3	13 ( 2 )	15%
	2019/3	21 ( 1 )	5%
	2020/3	26 ( 0 )	0%
情報通信システム工学科	2021/3	30 ( 3 )	10%
	2022/3	26 ( 1 )	4%
	2023/3	18 ( 0 )	0%
	2019/3	31 ( 1 )	3%
	2020/3	27 ( 2 )	7%
メディア情報工学科	2021/3	27 ( 3 )	11%
	2022/3	35 ( 4 )	11%
	2023/3	25 ( 2 )	8%
	2019/3	15 ( 1 )	7%
	2020/3	18 ( 1 )	6%
生物資源工学科	2021/3	16 ( 1 )	6%
	2022/3	14 ( 0 )	0%
	2023/3	16 ( 1 )	6%
	2019/3	83 ( 3 )	4%
	2020/3	94 ( 7 )	7%
全体	2021/3	85 ( 10 )	12%
	2022/3	100 ( 20 )	20%
	2023/3	72 ( 5 )	7%

### ○専攻科

コース名	卒業年月	就職者数 ()内は県内就職者数	県内就職率
	2019/3	5 ( 1 )	20%
	2020/3	4 ( 1 )	25%
機械システム工学コース	2021/3	4 ( 1 )	25%
	2022/3	4 ( 0 )	0%
	2023/3	4 ( 1 )	25%
	2019/3	5 ( 1 )	20%
	2020/3	3 ( 0 )	0%
電子通信システム工学コース	2021/3	7 ( 1 )	14%
	2022/3	3 ( 2 )	67%
	2023/3	2 ( 1 )	50%
	2019/3	7 ( 1 )	14%
	2020/3	3 ( 0 )	0%
情報工学コース	2021/3	1 ( 0 )	0%
	2022/3	2 ( 0 )	0%
	2023/3	3 ( 0 )	0%
	2019/3	6 ( 2 )	33%
	2020/3	2 ( 1 )	50%
生物資源工学コース	2021/3	5 ( 0 )	0%
	2022/3	6 ( 1 )	17%
	2023/3	5 ( 1 )	20%
	2019/3	23 ( 5 )	22%
	2020/3	12 ( 2 )	17%
全体	2021/3	17 ( 2 )	12%
	2022/3	15 ( 3 )	20%
	2023/3	14 ( 3 )	21%

### 3. 自己評価

本科及び専攻科の就職希望者の就職先は各学科の専門分野に沿っており、また進学希望者は各学科の関連分野の希望校へ進学しているが、令和4年度および令和5年度において就職率が90%未満、進学率が90%未満の学科及びコースがあった。就職や進学の状況から判断して、教育の効果は十分上がっているものの、就職率、進学率共に低下する傾向にあると判断できる。新型コロナウイルス感染症の感染爆発は収束に向かいつつあるが、本校学生の進路活動に未だ大きな影響を与えており、このことは、就職率や進学率が低下傾向であることにも表れている。

地元企業を知る機会を増やしてきた結果、一時減少していた県内就職率に回復がみられる。地元企業の周知の取組は、数年前から開始したものであり、その成果が県内就職率に反映されるには時間を要する。また、新型コロナウイルス感染症が本校学生の就職活動へ影響することも否定できないが、県や産学連携協力会企業等の県内企業との協力によって開催する周知活動が、今後も県内就職率向上に寄与するものと思われる。

# VII 学生支援等

### VII 学生支援等

### ◇学生の課外活動支援体制

### 1. 現状

部・同好会等の課外活動に対する支援としては、教職員による人的支援、活動場所及び後援会による資金面での支援等の体制を整えている。人的支援としては、各団体に顧問を担当する教員を配置し、支援体制を整備している。資金面における支援としては、後援会による補助の体制が整備されている。顧問は、原則として全教員で対応することとなっており、学生主事名で希望調査を行い、各団体の活動実績等を考慮して1名~5名の教員を配置している。顧問の兼任についてはできるだけ避けるようにしているが、教員数に比べて団体数が多いため、数名の教員が兼任を行っている。顧問の主な業務としては、部員及び活動の監督・指導、年間を通しての大会・練習試合等のスケジュールの把握、校外活動の際の引率等がある。また、外部コーチを委嘱して技術指導を行い、競技力の向上に努めるとともに教員の業務負担軽減を行っている。

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、各種 大会等の平常開催や部・同好会活動の制限が解除され、課外活動が活発となっている状況の中、 外部コーチによる技術指導を活用し、学生の課外活動支援を行っている。

また、夏季休講 (R5.8.19~8.25) と春季休講 (R6.2.17~R6.2.22) に学生寮を利用した合宿を再開し、夏季合宿では、男子バレーボール部、弓道部、バスケットボール部、ロボット製作委員会の4団体が活動を行い、技術の向上に努めた。さらに、体育部会の活動が活発になるため、課外活動中の事故が起きた時のフローの見直しを行い、教職員及び学生への周知を行っている。(令和4年度第6回教員会議(R4.10.26開催)・学生会部会員への周知)

### 団体数

体育		<b>育部会</b>	文化	/部会	委員会等
	部	同好会	部	同好会	安貝云守
令和3年度	13	3	4	8	4
令和4年度	12	4	4	8	4
令和5年度	12	3	2	9	3

### 外部コーチ委嘱数

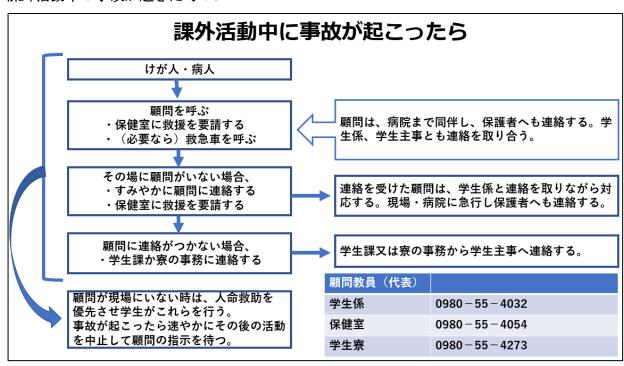
(令和6年1月1日現在)

	委嘱人数(うち専攻科生)	謝金総額
令和3年度	10 (2)	4,000 (支出額)
令和4年度	12 (4)	248, 587(支出額)
令和5年度	11 (3)	361,151(支出額)

### 団体名及び顧問配置

	団体名	局	部•同好会		凮	問	-	
1	ハンドボール部	体育局		高良秀彦先生	島尻真理子先生			
2	弓道部	体育局		眞喜志隆先生	澤井万七美先生			
3	水泳部	体育局		和多野大先生	藤本教寛先生	萩野航先生		
4	バレーボール部	体育局		下郡剛先生	吉居啓輔先生	金城伊智子先生		
5	テニス部	体育局		下嶋賢先生	山内祥之先生	山城光先生		
6	ソフトテニス部	体育局	(活動休止)					
7	男子バスケットボール部	体育局		伊波靖先生	濱田泰輔先生	カーマン先生		
8	サッカー部	体育局		亀濱博紀先生	中平勝也先生	木村和雄先生		
9	硬式野球部	体育局		比嘉吉一先生	森澤征一郎先生	仲間祐貴先生		
10	卓球部	体育局		玉城康智先生	成田誠先生			
11	バドミントン部	体育局		片山鮎子先生	赤嶺宗子先生	比嘉聖先生		
	ダンス部	体育局		吉井りさ先生	小池寿俊先生			
13	陸上同好会	体育局		與那嶺尚弘先生				
14	空手同好会	体育局		平良淳誠先生				
	剣道同好会	体育局		磯村尚子先生				
16	女子バスケットボール部	体育局	活動休止	学生委員会預かり				
17	女子バレ一部	体育局		金城伊智子先生				
18	デジタルアート部	文化局	同好会(活動休止)	学生委員会預かり				
19	総合美術部	文化局		當間栄作先生				
20	軽音学部	文化局		山本寛先生	佐藤尚先生			
21	吹奏楽同好会	文化局		山田親稔先生				
22	合唱同好会	文化局		青木久美先生				
23	アマチュア無線同好会	文化局	同好会(活動休止)	谷藤正一先生	山田親稔先生			
24	写真同好会	文化局	同好会(活動休止)	学生委員会預かり				
25	ピアノ同好会	文化局		三宮一宰先生				
26	生物資源利用研究会	文化局	同好会(活動休止)	学生委員会預かり				
27	エイサー同好会	文化局		谷藤正一先生	山田親稔先生			
28	モノカルチャー同好会	文化局		田邊俊朗先生	沖田紀子先生			
29	航空宇宙同好会	文化局		森澤征一郎先生				
30	数学同好会	文化局	同好会(廃部)	学生委員会預かり				
31	ロボット製作委員会	文化局		安里健太郎先生	武村史朗先生	スリヨン先生	津村卓也先生	具志 孝先生
32	ICT委員会	文化局		金城篤史先生	玉城龍洋先生			
33	国際交流委員会(WSB)	文化局		玉城梓先生				
34	イベント運営委員会	文化局	同好会(活動休止)	神里志穂子(学生主	事)			

### 課外活動中の事故が起きた時のフロー



### 2. 取組

令和5年度 部・同好会等の主な実績一覧 (令和6年1月31日現在)

団体名	会等の主な実績一覧 (令和 6 年 1 月 31 日現仕) 実績
ロボット製作委員会	【アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2023】
	(九州沖縄地区大会)
	●技術賞
	Aチーム (獅子舞プロジェクト)
	宮里 鷹翔(情報通信システム工学科5年)
	宮里 彰吾(機械システム工学科4年)
	伊志嶺 孝太 (機械システム工学科3年)
	(全国大会)
	●アイデア賞 (文部科学大臣賞)
	Aチーム (獅子舞プロジェクト)
	宮里 鷹翔(情報通信システム工学科5年)
	宮里 彰吾 (機械システム工学科4年)
	伊志嶺 孝太 (機械システム工学科3年)
部•同好会	【九州沖縄地区高専体育大会】
[水泳部]	(水泳競技)
	●男子 100 メートル背泳ぎ 決勝 2位 全国大会出場権獲得
	比嘉 徠日(情報通信システム工学科2年)
	●男子 200 メートル個人メドレー 決勝 3位 全国大会出場権獲得
	比嘉・徠日(情報通信システム工学科2年)
	【全国高専体育大会】
	(水泳競技)
	●男子 100 メートル背泳ぎ 決勝 4 位
	比嘉 徠日 (情報通信システム工学科2年)
	PLAN IN A CHARLETTO AND A STATE OF THE PARTY
	【県民体育大会】
	(水泳競技)
	●男子 100 メートル背泳ぎ 3位
	比嘉 徠日(情報通信システム工学科2年)
[弓道部]	【令和5年度高校1年生弓道大会】
	●女子個人 3位
	金城 志歩 (生物資源工学科1年)

# [航空宇宙同好会]

### 【宇宙甲子園沖縄地方大会】

●缶サット部門 優勝 全国大会出場

宮里 広想 (機械システム工学科2年)

國吉 真奈(機械システム工学科2年)

大森 香花 (メディア情報工学科2年)

仲村 恵 (情報通信システム工学科2年)

田中 琉華 (機械システム工学科2年)

阿波根 優里 (メディア情報工学科2年)

### 【第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト】

予選通過 本選出場

●課題部門 敢闘賞

KARTAR-オンライン×かるた×AR で生み出す新たな可能性-

仲本 兼吾(メディア情報工学科5年)

崎山 竜(情報通信システム工学科3年)

砂川 春樹 (メディア情報工学科2年)

新垣 善也 (メディア情報工学科3年)

山川 響(情報通信システム工学科3年)

●自由部門 敢闘賞

ホロアクリーアクリル廃材を利用した創作システムー

城間 華(メディア情報工学科3年)

仲村 優佳 (メディア情報工学科3年)

嘉陽田 光毅(情報通信システム工学科3年)

川満 秀太朗(メディア情報工学科2年)

屋宜 元晃紗 (メディア情報工学科2年)

### 部・同好会以外

### 【高専ワイヤレステックコンテスト (WICON2022)】

●電波利用システム利活用部門 ビーチドローンズ大賞

テーマ:海・空ドローン連携による水難警告システム DeGO (Drone Guardians of Ocean)

Under the Orion

星 草太(専攻科・電子通信システム工学コース1年)

伊敷 真之助 (情報通信システム工学科5年)

川上 隼人(情報通信システム工学科5年)

相島 和貴(情報通信システム工学科4年)

山川 響樹 (情報通信システム工学科3年)

新里 鴻(情報通信システム工学科3年)

### 【テクノ愛コンテスト 2023】

●高校生の部門 1位グランプリ

テーマ:未来の海洋ナビゲーション\_\_革新的離岸流発生予測システム

の研究開発

吉井 慈恩 (情報通信システム工学科3年)

仲宗根 由弥 (情報通信システム工学科3年)

又吉 竜輝(情報通信システム工学科3年)

西川 七音(情報通信システム工学科3年)

長嶺 真太郎 (情報通信システム工学科3年)

●大学生の部門 1位グランプリ

テーマ:視覚障害者向け革新的デバイス どこ点シューズの開発

平良 俊樹 (情報通信システム工学科4年)

新里 察得(情報通信システム工学科4年)

新里 佑介(情報通信システム工学科4年)

伊波 天(情報通信システム工学科4年)

【第 14 回 Software Challenge Award 2023】

●ひらめき部門 特別賞(1位相当)

Crane tool

田村 晃穏 (情報通信システム工学科1年)

ドリームシェアリング

當山 浩生(メディア情報工学科1年)

【第4回インフラテクコンマネジメントテクノロジーコンテスト】

●地域賞(3位相当)

テーマ:まちの維持管理体験アプリ「オペメン」

• PUNITTO

石原 廉太郎 (メディア情報工学科5年)

佐久本 大嘉 (メディア情報工学科4年)

田中 柊 (メディア情報工学科4年)

夘野 温人 (メディア情報工学科3年)

田崎 美熙(メディア情報工学科3年)

平良 昂也 (専攻科・情報工学コース1年)

安里 佳恋 (メディア情報工学科4年)

知念 涼太郎 (メディア情報工学科4年)

福地 琉星 (メディア情報工学科4年)

嘉陽田 光毅(情報通信システム工学科3年)

渡辺 珠月 (メディア情報工学科3年)

【一般財団法人東熱科学技術奨学財団 2023 年理工系高校生によるプロジェクト】

●本賞

テーマ: 持続可能な未来のための宇宙放射線テクノロジーを応用した

建造物老朽化予測システム

吉田 英恵 (情報通信システム工学科3年)

仲川 玲(情報通信システム工学科3年)

大城 栄翔 (メディア情報工学科3年)

### ●奨励賞

テーマ:時空間流水ベクトルと機械学習を活用した海岸離岸流予測の 革新的アプローチ

仲宗根 由弥(情報通信システム工学科3年)

吉井 慈恩 (情報通信システム工学科3年)

崎山 竜(情報通信システム工学科3年)

【第17回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト】

チーム部門 予選通過 全国大会出場

阿波根 優里 (メディア情報工学科2年)

大森 香花 (メディア情報工学科2年)

仲村 恵 (情報通信システム工学科2年)





### 3. 自己評価

学生の課外活動等については、これまで活動が制限されてきた部分を徐々に見直し、各種コンテスト、高校総体、高専体育大会へ積極的に参加している。Teams などオンラインで会議を行えるツールも継続して活用しながら、学生達同士で知恵を出し合い、活動に取り組む様子が見られる。その結果、低学年での活動の活性化やコンテストへの参加、いろいろな賞の受賞に繋がっている。

どのチームも自ら学んでいる技術と知識を地域の課題解決に活かすアイディアが評価されており、学生達は、実際に地域へ足を運び、地域の方々に話しを伺いながら、社会実装の活動に取り組んでいる。異なる学年、専門分野の学生達がそれぞれの知識や技術、専門分野の強みを活かして、社会実装と SDG s に取り組める環境は、本校の強みであり、魅力ともなっているため、入学前の中学生にも本校をアピールするポイントになっている。今後、学生達の活動の範囲を広げる事ができるよう、教職員だけではなく、地域や企業の方々と連携して、学生の活動をサポートする

### VII 学生支援等

仕組み作りを進めている。したがって、学生の課外活動に対する支援体制等が整備されており、 継続的な活動が行われている。

大会への参加回数及び受賞総数

	体育	部会	文化	部会	主な実績
	参加回数	受賞総数	参加回数	受賞総数	土は天根
令和2年度	九州: 0種目		11	11	ロポコン九州沖縄地区大会特別賞、令和元年度社会実装教育フォーラム(令和2年3月表彰)社会実装賞、三菱電機ロポット技術賞受賞等
令和3年度	九州: 3種目 全国: 0種目	九州: 1種目 全国: 0種目	8	9	ロボコン九州沖縄地区大会特別賞受賞で全国大会出場、全国大会で特別賞(株式会社安川電機)、2020年度高専ワイヤレスIoT技術実証コンテストで社会課題解決大賞受賞等
令和 4 年度	九州: 7種目 全国: 0種目	九州: 1種目 全国: 0種目	14	12	ロボコン九州沖縄地区大会デザイン賞受賞で全国大会エキシビジョン招待出場、第1回高専GCON2022で、文部科学大臣賞を受賞。 2021年度高専ワイヤレスIoT技術実証コンテストで2件採択(実証実験中)。第33回全国高等専門学校プログラミングコンテストで自由部門、課題部門ともに敢嗣賞受賞等。
令和5年度	九州: 7種目 全国: 1種目		12	7	ロボコン九州沖縄地区大会技術賞受賞で全国大会出場、全国大会ではアイデア賞(文部科学大臣賞)受賞。WICON2022では電波利用システム利活用部門でピーチドローンズ大賞受賞。 第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストで自由部門、課題部門ともに敢闘賞受賞。

### ◇いじめ防止対策

### 1. 現状

いじめ防止対策に関しては、「いじめゼロをゼロにする!」ことを目標に、令和2年から、組織的かつ実効的にいじめの防止等に取り組むため「沖縄工業高等専門学校いじめ対策委員会」を設置し、学生のいじめ防止に関する業務を行っている。以下に業務内容を示す。

- (1) 学生のいじめの未然防止、早期発見及び事案対処に関すること
- (2) 学生のいじめに関する情報収集及び提供に関すること
- (3) 学生のいじめに関する対策の点検及び見直しに関すること
- (4) 学生のいじめに関する教職員の意識啓発に関すること
- (5) その他学生のいじめ防止に関すること

現状では、いじめまたはいじめに類する行為が確認された場合、いじめにあっている学生の保護と状況把握を最優先として、対応を行うよう学内の認識を統一するように教員会議でのいじめに関する研修の報告などを行っている。いじめと判断される事象が起こっており、再発防止に向けて、いじめにあっている学生だけでなくいじめの行為をおこなった学生、双方の見守りに関して担任やいじめ対策委員会委員、学生委員会委員の対応チームを作り、心身のサポートにあたっている。

### 2. 取組

いじめ防止対策として年間の実施計画「沖縄工業高等専門学校いじめ防止プログラム」、「沖縄工業高等専門学校いじめの早期発見・事案対処マニュアル」を作成し、いじめの防止啓発や早期発見、いじめが起こったときの対処など学生達のヘルプサインを見逃さない仕組みを作っている。

令和5年度沖縄工業高等専門学校いじめ防止プログラム:年間実施計画

月	いじめの未然防止の ための取組	担当	備考
4月	新入生オリエンテーショ	学校いじめ対策委員会	学生生活におけるいじめ未然
	ン(本科1年)	(学生主事)	防止等の説明
	PC 設定会	学生委員会	Teams の使い方・インターネッ
		(学生主事)	トリテラシー講座
	入寮式・開寮式(寮生)	学校いじめ対策委員会	寮生活におけるいじめ未然防
		(寮務主事)	止等の説明
	全校集会(全学生)	学校いじめ対策委員会	学生生活におけるいじめ未然
		(学生主事)	防止等の説明
	学生相談・支援室の相談	学生相談・支援室	しおり等の配布
	窓口の周知(全学生)		
	カウンセラー講話(本科	学生相談・支援室	
	1・2年)		
	体育祭(全学生)	体育祭実行委員会(学生	学生間のコミュニケーション
		会)	向上を図る

VII 学生支援等

		VII 学生支援等	
	PDCA サイクルに基づく	学校いじめ対策委員会	
	年度計画の検証		
5月	インターネット上でのコ	「情報技術の基礎」科目	
	ミュニケーションの心構	担当教員	
	え(本科1年)		
	学校いじめ対策委員会の	学校いじめ対策委員会	
	開催①		
	いじめ防止基本方針及び	学校いじめ対策委員会	学内メール、本校ウェブサイト
	相談窓口の周知(全学生		で周知
	及び保護者)		
	アンケート調査①(ここ	学生相談・支援室	いじめの兆候等があればカウ
	ろと体の健康調査(全学		ンセラー面談を経て学校いじ
	生))		め対策委員会に報告
6月	学級懇談会・保護者面談	担任	いじめの兆候等があれば学校
	(保護者)		いじめ対策委員会に報告
7月	学校いじめ対策委員会の	   学校いじめ対策委員会	
1 /1	開催②	子及いしの別衆安貞云	
	Hyper-QU(本科 1~3 年)	   学生相談・支援室	
	Tryper & O (ANT) 1 5 AT)	子工作版 大坂主	いじめ対策委員会に報告
		<u> </u>	
	アンケート調査②(全学	学校いじめ対策委員会	いじめの兆候等があれば学校
	生)		いじめ対策委員会に報告
8月	夏季休講前注意事項の連	教務主事、学生主事、寮	HR 教室で資料配布又はメール
	絡(全学生) 	務主事	通知
	アンケート調査③(保護	学生主事	いじめの兆候等があれば学校
	者)		いじめ対策委員会に報告
9月	学校いじめ対策委員会の	学校いじめ対策委員会	
	開催③		
	【いじめ防止週間】	学校いじめ対策委員会	
	学生向け研修		
10 月	高専祭(全学生)	高専祭実行委員会(学生	学生間のコミュニケーション
		会)	向上を図る
11 月	学校いじめ対策委員会の	学校いじめ対策委員会	
	開催④		
	アンケート調査④(メン	学生相談・支援室	いじめの兆候等があれば学校
	タルヘルスに関するアン		いじめ対策委員会に報告
	ケート)		
	アンケート調査⑤(全学	学校いじめ対策委員会	いじめの兆候等があれば学校
	生)		いじめ対策委員会に報告

VII 学生支援等

12 月	アンケート調査⑥(保護	学生主事	いじめの兆候等があれば学校
	者)		いじめ対策委員会に報告
	【いじめ防止週間】	学校いじめ対策委員会	
	教職員研修		
1月	学校いじめ対策委員会の	学校いじめ対策委員会	
	開催⑤		
2月	終業式(全学生)	学校いじめ対策委員会	学生生活におけるいじめ未然
		(学生主事)	防止等の説明、春季休講前注意
			事項等の資料配布
3月	学校いじめ対策委員会の	学校いじめ対策委員会	
	開催⑥		

新学期がスタートした後の5月と7月に「こころと体の健康調査」と「Hyper-QU」によるアンケート調査を行い、いじめの兆候等があれば 学校いじめ対策委員会に報告するようになっており、7月と11月には、いじめ対策委員会を中心とした、「安心・安全な学校生活を送るために」のアンケートを実施している。その際に、ヘルプサインやいじめに関するような記載があった場合は、周りの学生達も含め話を聞くなど初動対応を迅速にするようにしている。いじめ行為に繋がるような場合は、校長への報告後、関係教職員に対し、対応の相談、報告を行っている。

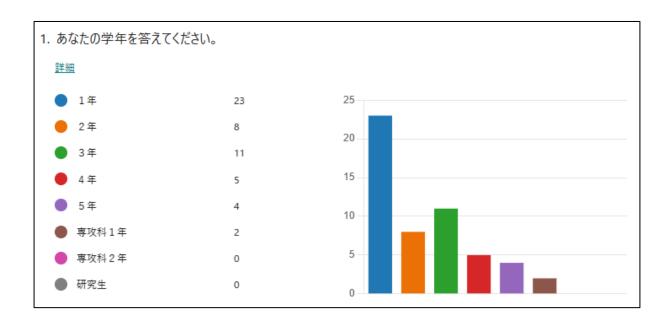
アンケートは令和2年から実施しており、令和3年からは、年2回実施している。以下は、令和5年7月に実施した内容である。1年生の回答数がやや多く低学年での見守りを強化できている。また、いじめを受けたことがあるか、いつ頃のことなのかを把握し、対応ができるようにしている。これまで低学年での、SNSへの不適切な投稿がいじめに繋がる事象が発生しているため、情報処理センターと連携し、「SNS の適切な利用に関して」メールやポスターでの注意喚起なども行っている。

アンケート結果は、以下のとおり、いじめ対策委員会で確認の後、運営会議で報告を行った。 学科長といじめ対策委員会委員から各学科教員へ、現状の共有といじめを見逃さないという学校 方針を改めて確認している。

- ・令和5年7月実施分(R5.7.14~7.24)第4回いじめ対策委員会(R5.9.14 開催)で確認、第7回運営会議(R5.10.18 開催)で報告。
- ・令和5年11月実施分(R5.10.31~11.10) 第5回いじめ対策委員会(R5.12.6開催)で確認、第9回運営会議(R5.12.13開催)で報告。

## アンケート概要

- 無記名形式, 学年のみ記入
- 学校/クラスで楽しく過ごせているか?
- 「いじめ」を受けたことがあるか?その時期は?
- 受けた「いじめ」の行為について
- 「いじめ」を受けている学生がいる?いない?
- 言葉や態度に脅かされる思いや悲しい思いをしている?いない?
- 「不安」「悩んでいること」はありませんか?
- 「安心・安全」で「充実した」学びの場とするための提案・要望



また、保護者アンケートも9月と1月の年2回実施しており、保護者からも家庭での気づきやお子様との会話から、気になる発言など情報を得て、担任、学科長、寮務主事等と情報共有できるよう連携の強化に取り組んでいる。こちらも低学年の保護者から得た情報から、学生の様子を把握することに繋げている。

保護者から頂いた情報は、学年、クラス、学科ごとに集計を行い、いじめ対策委員会で確認の 後、運営会議で報告を行っている。改善が必要な内容に関しては、学科長、寮務主事を通して、 各学科、部署での改善を求めている。対応する部分を各学科、部署で共有の上、次年度6月に開催される保護者懇談会で、報告するよう依頼している。

- ・令和5年8月~9月実施分(R5.8.18~9.18)第5回いじめ対策委員会(R5.12.6開催)で確認、第9回運営会議(R5.12.13開催)で報告。
- ・令和5年12月~令和6年1月実施分(R5.12.22~R6.1.12)第7回いじめ対策委員会(R6.2 開催予定)で確認、第12回運営会議(R6.3 開催予定)で報告。

# 質問フォーム

- 2023/08/17に案内を送付
- Webによるアンケート回収
- 回答数(310件)

# 保護者アンケートの実施について【令和 5 年度・夏季】

令和5年8月17日

保護者 各位

沖縄工業高等専門学校長 佐藤 貴哉

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本校では、学生ひとりひとりがより安心して高専生活を送るために、保護者の皆さまとの連携を密にし、学生を見守ることが必要であると考えております。そのための取り組みのひとつとして、下記アンケートを実施致します。お手数ですが、ご協力のほど、宜しくお願い致します。

なお、集約しましたアンケート結果については、関係法令(秘密保持義務)を遵守の上、学生指導に資する情報として学内で共有させていただきますので、ご理解くださいますよう宜しくお願い致します。

※アンケート実施期間:令和5年8月18日(金)~9月18日(月)



開催時期	H29	Н30	R1	R2	R3 夏	R3 冬	R4 夏
回答数	160	165	132	312	247	288	305

### 3. 自己評価

「いじめゼロをゼロにする!」事を目標に学生達の見守りを多方面から行っている。本校は、550人の寮生が共同生活をおこなっており、共同生活から発生する不満やいじめの行為を見逃さないように注意を払う必要がある。また、学生全員がノートPCを持っており、スマホの利用率も高いため、SNSなどへの情報発信に対するリテラシーの向上もさらに指導していく必要がある。

アンケートなどの実施により、学生のヘルプサインを少しでも見逃さないような配慮を行っているが、普段の学校生活から学生の些細な変化を見逃さないよう教職員のいじめに対する感度を高めるための研修として、FD・SD 講演会 (R6.1.24 開催) を開催した。教職員に関しても不適切な発言により、学生を傷つける事がないよう学生に寄り添う姿勢を持つように、普段から呼びかけ学校全体で、その雰囲気作りに取り組んでいく。

今後は、回答されたアンケートをもとに改善に繋げる仕組みを作り、その結果を公表していく。

### ◇保健室、学生相談・支援室

### 1. 現状

本校の保健室及び学生相談・支援室は、学生の健康及び環境上の問題を改善する拠点の一つ として機能している。また、相談員によるカウンセリングを実施しており、人員配置は以下の ようになっている。

	配置場所	勤務体制
看護師(常勤)	保健室	平日 8:30~17:15
看護師 (非常勤)	保健室	平日 12:30~19:00
カウンセラー:男性(非常勤)	カウンセリングルーム	月・火 14:30-18:30
		金(奇数週)16:00-19:00
カウンセラー:女性(非常勤)	カウンセリングルーム	水・木 14:30-18:30
		金(偶数週)15:30-18:30
スクールソーシャルワーカー(非	寮 (5F相談室)	日・月・火・木・金
常勤)		13:00-20:00
スクールソーシャルワーカー(非	サポートルーム	火・水・木・金
常勤)	1 M   1 / V A	14:30-17:30

### 利用者状況は以下になっている。(延べ人数)

	利用者	R1	R2	R3	R4	R5※
	学 生	445	557	875	872	600
保健室	保護者	2	14	40	33	27
	教職員	12	135	103	108	43
	学 生	192	175	258	291	211
相談室	保護者	22	33	27	49	26
	教職員	55	82	68	56	53
	学 生	235	134	282	332	726
	保護者	10	0	0	4	61
寮	教職員	0	0	0	8	224
	外部機関					13
	との連携					13
	学 生	-	ı	36	61	76
0014/	保護者	-	1	8	19	2
SSW	教職員	-	1	4	17	40
	外部機関 との連携	1	1	7	6	32
室長	学 生	1	-	50	44	28
	保護者	1	ı	29	71	6
	教職員	1	ı	49	72	12
	外部機関 との連携	3	8	22	17	6

※令和5年12月まで

### 2. 取組

平成28年に施行された「障害者差別解消法」が昨年改正され、高等教育機関において、合理的配慮・支援が義務づけになったことに伴い、本年度、「障害等を有する学生支援に関する基本方針」および「合理的配慮に関するガイドライン」の策定を行った。発達障害を含めた障害など、就学上、合理的配慮・支援を要する学生に関しては、「障害者差別解消法」に基づき、本人の申請と同意による支援内容及び支援体制の構築に、既に一昨年度より着手している。本年度は、令和6年1月時点で37名(昨年度からの継続は18名)の支援申請があり、学習支援などの配慮を行っている。本年度において、新規に支援申請をした学生の殆どは、精神疾患に伴う登校困難が要因であり、学校としては、そのような学生に対し、オンライン授業による講義提供による学習支援を行った。

本年度も、昨年度に引き続き、スクールソーシャルワーカー(SSW)を配置することができており、年度当初より SSW の出勤を週4日に増やすことで、外部機関との連携を伴う学生対応に充てることができた。SSW については、合理的配慮支援対象の学生の面談や行政機関との連携などを積極的に行っている。さらに、病院や行政機関など外部機関との連携で学生フォローを対応するケースもある。

本年度は、新型コロナ感染症のまん延が落ち着き、年度当初から対面授業が行われた。カウンセリングや保健室などの利用状況は前ページにある表に示すようになっている。これらの相談内容として、包括的には、学習、友人、家族に関する内容ではあるが、コロナ禍前までは「普通に自分で対処できた困りごと」が多くなっており、また、前述したように、精神疾患(不安症、適応障害など)のように、コロナ禍の影響が少しずつ、学生、教職員の「こころのストレス」「体調へのストレス」が見え始めている。そのため、担任や副担任、相談員、カウンセラーで包括した事案が多くなりつつも、学生のフォローにあたっている。学生の重大事案発生予防の観点から、FDSD実施委員会との協働により、教職員向け研修会として「学生のヘルプサイン」への気付きと、これらサインを共有する学生指導に関する講演会を令和6年1月24日に実施した。一方で、学生向けに「いのちの大切さ」をインプットする研修会について、従前のカウンセラー講話を拡充するカタチの検討を進めているところである。

### 3. 自己評価

本校における保健室及び学生相談・支援室に関しては、学生ひとり一人の健康及び環境上の問題を改善するために、保健室やカウンセリングルームが設置されている。保健室には看護師が、カウンセリングルームには医療・教育の現場で経験を持つ相談員(カウンセラー)が、カウンセリング(相談)にあたっている。また、学生の特性・個性にあわせて、適時、支援チームを発足し、学生の修学環境の改善に努めている。

SSW を配置することができ、学生の「困りごと」への対応を行っていただき、教職員の負荷の軽減につながっている。

以上により、保健室及び学生相談・支援室は、人員、施設とも適切に配備され、有効に活用されている。

### ◇図書等整備状況

### 1. 現状

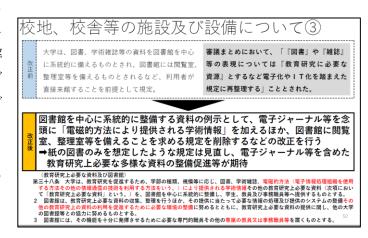
本校の図書館は、教育・研究を支援する拠点の1つとして機能している。館内には情報学、工学、自然科学等の専門書を中心として、学術雑誌、文庫本、視聴覚資料、全国の高等専門学校関連資料などを所蔵し、視聴覚資料については館内のAVブースやメディアホールの大型スクリーンで視聴することができる。開架閲覧室は、740 ㎡(125 席)あり、広いスペースで図書の閲覧や学習ができるようになっている。

蔵書数は、令和5年5月1日現在で、図書約8万2千冊・雑誌約1万8千冊・視聴覚教材約1800点・電子図書(オフライン)110冊・電子図書(オンライン)35冊となっている。

### 2. 取組

令和5年度は、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、学外利用者の入館制限の解除や閲覧席設置のアクリル板を撤去しグループ学習を可能とする等、図書館サービスの変更を行った。

また、令和4年9月30日4文科高第963号「大学設置基準等の一部を改正する省令等の公布について(通知)」に基づき、以下のとおり必要なサービスを提供した。



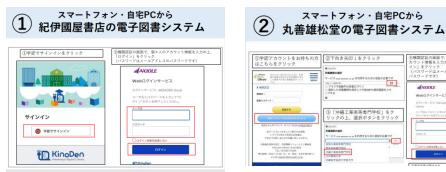
大学設置基準等の一部を改正する省令等の公布について (通知) (抜粋)

ールアドレスの

### (1) 利用者サービス向上のための取組

・学外からの電子図書の利用

これまで、電子図書の利用は学内からのみとなっていたが、認証システムと連携し、 学外から PC・スマートフォンで利用できるようになった。



電子図書システムログイン画面

### ・オーディオブック(聞く読書)の導入

今年度、新たにオーディオブックを導入した。オーディオブックは、音声による本の朗読のため、場所や時間の制約を受けずに利用することができる。また、活字による読書が難しい方へのサービスの提供を行うことができるようになった。

### (2) リモートブックハンティングを実施

ブックハンティングとは、学生図書委員が書店に訪問し、直接選書を行うイベントである。 昨年度、コロナ渦中に実施した全学生参加型の「リモートブックハンティング」が好評だっ たため、今年度も引き続き「リモートブックハンティング」を実施した。

学生は、自宅や学生寮から PC・スマートフォンで選書リクエストができ、合計 5 0 冊の希望 図書リクエストを受け付けた。

4. 希望	望図書の種類は?*
0	図書(辞典等含む)
0	漫画
0	DVD
0	その他
5.希望	望図書の題名(タイトル)を記入してください。
	答を入力してください
DV ISB	望図書のISBNコードを記載してください Dの場合は販売元を記載してください INコードや販売元がわからない場合は「0000」と記載してください IOO)の場合は優先順位が下がります *
	答を入力してください

リモートブックハンティング申込み用クラウドフォーム



リモートブックハンティングお知らせポスター

### (3) 企画展・他機関連携

図書館企画展及び他機関との連携による取り組みとして、「学生書評の掲示」「夢工場×図書館コラボ展」「国立女性教育会館との連携によるパッケージ図書貸出サービス」「第32軍司令部壕の保存・公開を求める会事務局との連携による第32軍司令部壕の模型展」を行った。全ての展示に関して、図書館内スペースを有効に活用し、利用者に対し、様々な分野の図書に興味を引くためのアプローチを行った。









### 3. 統計

入館者推移・貸出冊数推移・蔵書数推移・閲覧数推移を以下にまとめる。

入館者数推移 (単位:人)

区分	令和2年度 (R3.3.31 時点)	令和3年度 (R4.3.31 時点)	令和4年度 (R5.3.31 時点)	令和5年度 (R5.12.31 時点)
学生(本科·専攻科生)	11,353	47,738	68,672	53,926
教職員(教員・技術職員・事務職員)	5,762	939	3,230	2,195
学外利用者	111	15	326	472
総計	17,226	48,692	72,228	56,593

貸出冊数推移 (単位:冊)

区分	令和2年度 (R3.3.31 時点)	令和3年度 (R4.3.31 時点)	令和4年度 (R5.3.31 時点)	令和5年度 (R5.12.31 時点)
学生(本科・専攻科生)	3,882	8,188	10,144	6,756
教職員(教員・技術職員・事務職員)	1,238	2,319	1,339	1,044
学外利用者	15	0	1	39
総計	5,135	10,507	11,484	7,839

蔵書数推移 (単位:数)

区分	令和2年度 (R3.3.31 時点)	令和3年度 (R4.3.31 時点)	令和4年度 (R5.3.31 時点)	令和5年度 (R5.12.31 時点)
一般書籍	62,765	64,132	65,264	<b>※</b> 65,305
英語多読·多聴書籍	16,576	16,558	16,628	16,628
AV(DVD·CD 等)	1,854	1,853	1,863	1,864
雑誌	16,097	16,836	18,790	19,282
電子図書(オフライン)	69	106	110	111
電子図書(オンライン)	1	29	35	39

<sup>※</sup>研究室貸出図書の消耗品転換による除籍があったため、一般図書がトータルで微増となっている。

閲覧数推移 (単位:回)

区分	令和2年度 (R3.3.31 時点)	令和3年度 (R4.3.31 時点)	令和4年度 (R5.3.31 時点)	令和5年度 (R5.12.31 時点)
雑誌閲覧数	385	658	1,551	731
新聞閲覧数	723	1,700	1,705	1,103
AV(DVD·CD 等)閲覧数	20	120	91	63
電子ジャーナル閲覧数	2,279	1,565	1,082	583
電子図書(オフライン)閲覧数	0	3	0	0
電子図書(オンライン)閲覧数	19	218	474	835

### 4. 自己評価

本校の図書館には、図書・学術雑誌・視聴覚資料などが系統的に整備されており、電子図書・電子ジャーナルも利用することができる。電子図書は、認証システム連携により学外からも利用可能となり、電子ジャーナルについては、随時図書館で利用方法等を説明し、論文の検索などに役立てている。リクエストカードやブックハンティングなど学生希望図書を導入する制度があり、学生の希望を反映した図書の整備が行われている。

以上により、図書・学術雑誌・電子ジャーナル等その他の教育研究上必要な資料が系統的に 整備され、有効に活用されている。

# Ⅷ 施設·整備

### WI 施設·整備

### 1. 現状

本校の施設・設備は、教育内容を達成するため総面積156.056 ㎡の敷地に創造・実践棟、メディア棟、体育館、学生寮などの建物に各教室、演習及び実験室、図書館、IT教室、CALL教室、事務部、視聴覚ホール、レストラン、アリーナ、格技場、トレーニング場、伝統芸能場、プール、陸上競技場、多目的グランド(野球場)、テニスコートの施設を備えている。また本校の特徴となる教育施設として、夢工場や教育・実験棟などがある。

土 地						
使用区分						
総面積	校舎等	屋外運動場	学生寮	その他		
156,056m²	49,100m²	36,100m²	11,600m²	59,256m²		

建物物						
区 分	名 称	構造	延面積			
	創造·実践棟	R4	14,009m <sup>d</sup>			
校舎等施設	メディア棟	R4	5,023m²			
仪古寺爬政	夢工場	S2	665 m <sup>2</sup>			
	教育·実験棟	S1	498m <sup>°</sup>			
体育施設	体育館	RS2	2,707m <sup>*</sup>			
141月 / 加設	アスレチックハウス	R2	256m²			
学生寮施設	学生寮	R9	11,105㎡			
	合 計 34,263m					

### (1) 学生寮

本校の学生寮は、1年生と2年生は優先的に入寮することができる。2年生以上の学生が次年度、入寮を希望する場合には、学生寮委員会で審議し、入寮の可否を通知する。本校の学生寮は単に通学の便宜を図るためだけではなく、「学習の充実を図り、基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的とした教育施設としての役割も果たしている。カードキー、防犯カメラ、赤外線センサーなどの警備設備のほか、2名の当直者及び機械警備で寮内の安全を保持している。

令和5年5月1日現在

		機械システム 工学科	情報通信システム 工学科	メディア情報 工学科	生物資源 工学科	合計	
	1 年	38 (4)	41 (7)	33 (11)	41 (26)	153 (48)	
	2 年	34 (4)	38 (2)	38 (8)	37 (17)	147 (31)	
本科	3 年	26 (3)	31 (10)	38 (11)	28 (12)	123 (36) 529 (137)	
	4 年	22 (0)	17 (1)	16 (8)	14 (8)	69 (17)	541 (137)
	5 年	7 (0)	13 (1)	9 (1)	8 (3)	37 (5)	
専攻科	1 年		3	(0)		10 (0)	
导以科	2 年		9	(0)		12 (0)	

※() はうち女子学生

また、今年度も引き続き新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染拡大防止対策 として、以下の対応を行っている。

- 各フロア入口及び共通部分へのアルコール設置
- ・教員による寮内巡回 (17 時 30 分~21 時 00 分)
- ・居室とは別に、体調不良時に速やかに帰省できない場合の静養室を、男子寮に8部 屋、女子寮に5部屋確保
- ・寮生の各種届出(帰省・外泊、欠食)を、学生寮事務室での対面方式ではなく、 自身のPC・スマートフォンでいつでも行えるようにし、さらにFelicaカードを用 いて点呼が出来るシステムを導入したことにより、寮生の利便性を向上

### (2) レストラン

晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめる レストランは、全380席の寮生食堂のほか、 教職員や寮生以外の学生のための一般食堂がある。



### (3) 夢工場

夢工場 (実習工場) には、旋盤・アーク溶接などの材料加工の基礎から、NC フライス、NC 旋盤、高速マシニングセンター、FSW 装置などの最先端加工装置まで設置しており、「夢をカタチに」する実践の場である。また、本工場は3次元 CAD/CAM/CAE 統合システムとリンクして、複雑形状部品を高能率に設計・性能予測・製作することができる。

さらに、樹脂製品を作る3Dプリンターを 複数台導入し、教育に活用している。また 老朽化した装置の更新も行っている。こ れらの設備・システムを有機的に活用し て、本工場では材料加工の基礎から最先 端までの高度教育が行えると同時に、産 業界のニーズに応じて試作を行うことも 可能であり、地域産業活性化と新産業創 生支援を狙った産学連携のキーステーシ



ョンとしての役割を果たすことが可能である。



教育•実験棟





### 2. 取組

- ◇令和5年度改修事項
- <一般改修>学生の安全・安心確保、修学環境の整備
  - ・学生寮渡り廊下(連絡橋)改修工事:主要構造部塗装改修、屋根塗膜防水改修
  - ・創造工房建具改修等工事:室内側金属製建具の改修(嵌め殺し窓の開放改修)
- <災害復旧事業>台風6号被害
  - ・メディア棟レストランテラス鉄骨庇防水修繕
  - · 創造実践棟講義室 3 6 室空調室外機取替修繕
  - ・台風6号被害テニスコートネットフェンス補修

### ◇令和5年度取組事業

### <新規事業>

・スタートアップ教育環境整備のため、創造・実践等1階創造工房を改修し、スタートアップラボとして自由に使うことのできる金属製品を作る3Dプリンター及び3次元計測装置を導入した。

### 3. 自己評価

国道329号を跨ぐ連絡橋について、平成28年度の橋梁点検にて部分的な要補修の評価を受けてから7年を経て、改修工事の実施に至った。国道への塗装部の剥離落下の抑止を第一に橋全体の主要構造部の塗装改修を行い、施設の長寿命化を図れたことは、学生の安全・安心確保に貢献できたと評価する。

また、創造工房の建具改修等工事では創造工房と創造ホールの一体的利用を可能とする全開放型の建具への改修によって、より良い学習環境の整備に貢献できたと評価する。さらに8月には近年稀にみる強力かつ長期間の台風6号の接近により、レストラン庇の防水シートの剥離、室外機の外板剥離による空調機故障、テニスコートの防球フェンスの支柱倒壊などの被害に見舞われた。文部科学省へ高専機構本部を通して災害報告を行い、災害復旧事業として工事を迅速に進め学生の修学環境の復旧に貢献できた点は評価したい。

例年、電気需給契約の最大電力値に影響を与える「オープンキャンパス」の使用電気量について、全学への節電の協力要請によって最大電力値の更新を回避したことで次年度の契約更新は現状のまま継続更新が可能となったことは評価に値する。

一昨年度に熱変換効率の良い新空調機とデマンド制御・タイマー制御に更新したことで、節電を通じ学内経費削減に貢献し続けている。学校施設の電気利用内訳の内、一般に 1/3-1/4 は空調機に起因するものであることから、省エネ性能を発揮し続けられるよう、引き続き空調を最適化し続けることは重要である。

今後の整備計画については、産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や 教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修、施設・設備の老朽化状況、整備サイ クル等に配慮、対応した整備を推進する。

# IX 教育の質保証及び 改善のためのシステム

### IX 教育の質保証及び改善のためのシステム

### 1. 現状

### ◇教員評価

沖縄工業高等専門学校における教員評価実施要領に基づき、各教員を評価し、教育の質保証、改善等組織としてシステムを整備している。

### 沖縄工業高等専門学校における教員評価実施要領(抜粋)

- 1. 教員評価については、以下の評価資料に基づき実施する。
  - (1) I.教員の教育業績等評価
  - (2) II.教員の研究業績等評価
- 2. 前掲の資料に基づいて実施する教員評価は下記の事項に利用する
- (1)総合評価
- (2) 教員顕彰
- (3)教育研究経費配分
- (4) 昇任判定(教授, 准教授, 講師への昇任)
- (5) 運営管理貢献度評価
- (6) 課外活動貢献度評価
- (7) その他校長が必要に応じて実施する事項

### ◇在学生アンケート

令和3年度から学生による学習の到達度及び高専教育への満足度を測り、学生自身の成長実感を把握することで教育改善に活用することを目的に、本科1年生~4年生及び専攻科1年生を対象とした在学生アンケートを実施している。FD・SD実施委員会においてアンケート結果を要約したデータを取り纏めの上、教育や学校改善に携わっている部署に提供し、データの分析及び活用方法の検討を依頼することにより本校の教育改善に活用する。

### ◇卒業生・修了生アンケート

学生による学習の到達度及び高専教育への満足度を測り学生自身の成長実感を把握することで、高専の教育改善に活用することを目的とし、本科5年生及び専攻科2年生を対象とした卒業生・修了生アンケートを実施している。本アンケート結果はFD・SD実施委員会においてデータを取り纏め、組織的な改善につなげられるよう運営会議で報告する。

### ◇企業・大学向けアンケート

本校の卒業生・修了生が在学時に身につける学力や資質・能力について、各企業・大学の学外関係者から意見等を聴取することにより、各企業・大学が求めている人材等を把握するとともに、教育研究水準の向上等、本校の学校運営及び教育研究活動、学生のキャリ

ア支援等の改善に資するため、アンケートを実施した。今年度は12月5日および12月13日に実施した業界研究会に参加した企業、また卒業生の進学先となっている大学を対象にアンケートを実施したが、今後は卒業生の就職先も含めたアンケートを定期的に実施していく。

### ◇授業改善アンケート

授業内容や評価方法の良い点や改善すべき点を明らかにし、教育改善に活用することを目的に、授業改善アンケートを実施している。平成30年度からそれまで教員1名につき1科目であったアンケート対象科目を本科及び専攻科の全学生が受講している全科目において実施しており、令和5年度からアンケート結果を本校ホームページに掲載している。

FD・SD 実施委員会においてアンケート結果を取り纏めの上、各教員が授業改善アンケートの結果に関する所見を作成し、今後の授業改善の材料として活用する。また、教員によって作成された所見は学生をはじめ他の教職員からも閲覧できるように公共フォルダ内に保存し、フィードバックできる体制を整備している。

### 2. 取組

### ◇FD・SD 講演会の実施

沖縄高専における学生指導体制構築に繋げることを目的として、「学生情報の共有化」及び「学校組織としての学生指導・活用事例」に関する他高専の事例を参考に、「沖縄高専でできていること/できていないこと」について教職員の理解を深めるため、国立高等専門学校機構本部事務局学務参事の小林睦先生を招いて第1回FD・SD講演会を実施した。

また、学術関係者を標的としたサイバー攻撃の事例を紹介し、セキュリティが脆弱な部分が狙われやすいことから、普段から対策に努めることや実際にインシデントが発生した場合の被害を軽減するための措置を講じることの重要性について、教職員の理解を深めることを目的とし、沖縄県警察本部、沖縄総合事務局、沖縄地区税関から講師を招いて第2回FD・SD講演会を実施した。

そしてこのような本校主催の講演会の他にも、8月に機構本部主催の「情報セキュリティ e-Learning」、10月に日本学生支援機構主催の「障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー」、12月に大学コンソーシアムによる「第18回琉大未来共創フォーラム×琉球大学 FD・SD 研修会」と機構本部主催の「全高専教職員 FD 著作権セミナー」といった研修会に参加してもらった。

令和5年度FD・SD活動実績一覧

安坂口	IH- 57	分類	参加者	
<b>夫</b> 爬口	実施日 件名 件名		教員	職員
1月24日	『学生情報の集約と共有化を通した学生指 導』	FD	5 4名	3 1名
2月28日	『経済安全保障と警察の対策について』 『「経済安全保障に関する産業技術基盤強化 アクションプランについて」及び「外国投資 家から投資を受ける上での留意点について」』 『経済安全保障における税関の取組等につい て』	SD	40名	2 1名

### 令和4年度FD・SD活動実績一覧

宝梅口	W- Az	分類	参力	11者
天旭 口	実施日 件名		教員	職員
11月9日	『琉球大学における教職員が連携した SDGs への取り組み』	SD	46名	2 4名
12月15日	『高専の国際展開戦略と沖縄高専に期待すること』	SD	4 5名	3 1名
12月22日	『高専が抱える課題と危機管理』	FD	49名	27名
2月27日	『吃音から考える子どもの人権』	FD	3 7名	18名
3月22日	『沖縄高専のブランドについて考える』	FD	24名	6名

### 3. 自己評価

沖縄工業高等専門学校における教員評価実施要領に基づき各教員を評価し、教育の質の保証、改善等組織としてシステムを整備している。学生による授業改善アンケートを全科目で実施し、それを基に教員が自己点検・評価として授業改善アンケートの結果に関する所見を作成し、授業内容の改善を行っている。更に、授業以外の教育を視野に入れた在学生アンケートと卒業生・修了生アンケートを実施することで学生の意見の聴取が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価が適切に行われている。しかし、これまで卒業後、また修了後の成果等に関する学外関係者からの意見を聴取する仕組みを構築できていなかったため、今年度から企業・大学向けアンケートを実施することによって各企業・大学が求めている人材等を把握できるようにした。また、教員に対しても各種研修会を実施することで、学生支援のスキル向上に役立てている。

以上のことから、評価結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムがあり、授業方法の改善及びカリキュラムの見直しに継続的な方策が講じられている。

# X 研究活動の状況

### X 研究活動の状況

### 1. 現状

### ◇研究活動の目的

本校の研究活動の目的は、以下に示すとおりである。

- [1] 教員の専門分野における研究活動の推進とともに、その成果を教育内容の充実につなげる。
- [2] 地域連携研究推進センター等を活用し、地域産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究、技術相談等の受入れを推進するとともに、科学研究費補助金等の外部資金獲得に取り組む。
- [3] 研究環境の充実を推進する。

上記各事項の主な内容は、次のとおりである。

### 1. 教員の専門分野の研究推進を教育内容の充実に繋げる

本校教員が産業界の高度化を背景にした研究活動、特に自分の専門分野の研究活動に精力的に取り組み、さらなる発展に寄与する技術や情報等を教育課程に還元することは、学生に技術の継承の重要性を伝えられるとともに、学習意欲の高揚に繋がっているといえる。さらに、卒業後も、本校で培った技術革新に対する柔軟な適応力の素地が、急速に展開する社会からのニーズに対しても新たな技術革新で対応でき、国内のみならず国際的に活躍できる先端的技術者としての基盤を築くものである。

### 2. 地域及び産業界との連携及び外部資金獲得

本校は、地域に根差す高専として研究連携推進室及び地域連携研究推進センターを中心とし、県内産業界や各自治体の抱える問題等の解決のため、共同研究、受託研究、技術相談等を積極的に進めている。また、その支援体制として、本校には地域産業界を結ぶパイプ役として「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置されており、技術相談のみならず技術的要請にも十分に応えることが可能であり、本科卒業研究、専攻科特別研究における実践的教育の充実策として、地域企業が抱える実践的な技術的課題が研究題目としても幅広く取り上げられており、実践に対応した考え方や解決法の探求は学生の研究能力の向上にも貢献している。

一方、地域貢献で培った研究能力の向上は沖縄県や国家レベルの公募事業の採択や各 教職員の科学研究費補助金等への応募・採択率の向上につながり、本校の外部資金獲得 レベルの高さを支えている。

### 3. 研究環境の充実

教育環境の高度化のみならず、教員と企業との間の共同研究において、最新鋭の高性 能な設備を保持することが必要である。特に外部資金の獲得による設備更新が不可欠と いえる。そのために、科学研究費補助金(科研費)、共同研究、受託研究および研究、教育を奨励する寄付金の申請が精力的に行われており、導入された設備が企業との連携をさらに促進する相乗効果が生まれるよう図られている。

### 2. 取組

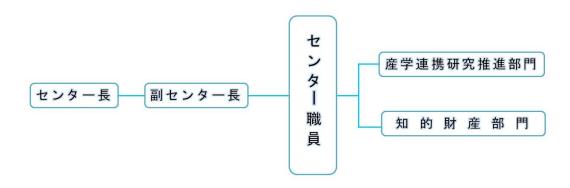
研究活動の推進・強化をすすめるために総務委員会が設置され、技術支援室・図書館、事務部等の支援により、全校的に研究を支援・推進する研究支援体制が整備され、機能している。各教員の研究成果は研究紀要や「研究業績公開 Web サイト」を通じて発信されている。地域産業界等との連携を目的とした地域連携研究推進センターが設置され、教員の研究の支援を通じて、共同研究、受託研究、技術相談等の受入れを推進し、それが機能している。より積極的に外部資金を獲得するため、総務課による情報提供体制の整備、地域連携コーディネーターによる調整などが行われている。また、科学研究費の採択率を向上させるための学内査読や教員の研究費を支援するインセンティブ経費があり、有効に機能している。研究成果の知的財産化を促進するための知的財産委員会もあり、機能している。

### ○地域連携研究推進センター

地域連携研究推進センターは、本校の教職員の教育・研究の成果を地域に発信し、また 地域・産業界のニーズを受け、技術開発及び産業の活性化に貢献する。また、生涯学習、地 域文化交流及び地域課題の解決に取り組んでいる。

当センターには、センター業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」及び「知的財産部門」を設けており、機動的に活動できる組織となっている。

### 地域連携研究推進センターの組織図



### ○研究シーズ集

毎年発行している「地域連携研究推進センター報」や WEB サイト「国立高専研究情報ポータル」において、本校教職員の研究シーズを発信している。



### ○産業界との連携

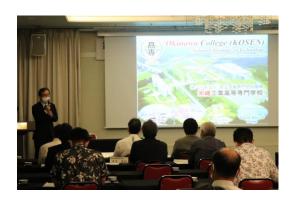
平成16年4月に沖縄県内の経済・産業界を中心として、本校の教育・研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置され、企業等を対象とした研修事業の実施や技術交流・技術相談等の交流事業などの活動が行われている。

現在の会員数:県内外の117の企業団体及び21の個人会員(令和6年1月1日現在)

### 「令和5年度沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 理事会・総会・懇親会」の開催

令和5年4月28日(金)に那覇市内のホテルにおいて、令和5年度沖縄工業高等専門学校産学連携協力会理事会・総会・懇親会を開催した。理事会、総会では、令和5年度事業計画、収支予算案等が審議され、地域連携研究推進センター報製作費等の予算案が承認された。また、総会では佐藤貴哉校長から本校の近況についての報告を、伊東昌章副校長から産官学・地域連携活動についての報告を行った。

引き続き行われた懇親会では、本校教職員と会員の交流を深める貴重な場となった。



本校の近況報告を行う佐藤校長



懇親会の様子

### 「第47回沖縄の産業まつり」への参加

令和5年10月27日(金)~29日(日)に那覇市で開催された第47回沖縄の産業まつりに出展した。今回の沖縄の産業まつりは4年ぶりに制限なしの開催となり、3日間で約31万人が来場した。本校展示ブースでは、研究成果の紹介や本校学生が創立20周年記念事業の一環として取り組んだ3つのプロジェクトに関するポスター展示等を行い、本校の特色ある教育研究活動について、広く情報発信することができた。





### 「第19回沖縄高専フォーラム」の開催

令和5年12月20日(水)に那覇市内のホテルにおいて、「沖縄高専の地域課題解決に向けた取り組み」をテーマに第19回沖縄高専フォーラムを開催した。本校と企業の講師による本校の地域課題解決に向けた取り組みについて講演を行いました。フォーラム終了後の情報交換会では、和やかな雰囲気の中、参加者間での意見交換、情報共有が行われ交流を深めた。また、本校学生による研究成果のポスター展示も行い、多くの参加者が興味深くポスターに見入り、学生と活発に質疑応答をする姿が見受けられた。

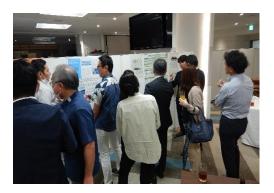
会場には大変多くの方にご来場いただき、今後の産学連携の推進、広域連携の活性化等、 産業の発展や有用な人材育成、社会貢献を担う、本校の使命を惟う大変有意義なフォーラム となった。

### 【第19回沖縄高専フォーラム講演内容】

- ・講演①「社会に貢献できる Social Doctor を目指して〜GEAR5.0 での取り組み〜」 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科 教授 池松 真也
- ・講演②「循環型社会に対応したビール造り及びビール副産物のアップサイクル事例紹介」 オリオンビール株式会社 ビール商品開発部 課長 大城 敬一郎 氏
- ・講演③「産学連携による地域課題解決の取り組み サバニプロジェクト」 富士通 Japan 株式会社 ソリューショントランスフォーメーション本部 マネージャー 多和田 敦 氏



講演の様子



懇親会の様子

### 社会人向けセミナーの開催

令和5年11月10日(金)に沖縄県工業連合会会議室において、「人材不足がもたらす危機 ~社内課題解決・解消の取り組み~」をテーマに社会人向けセミナーを対面、オンライン併用で開催した。セミナーではデジタルに関わる様々な業務に従事し、数多くの講演活動を行う富士通株式会社シニアエバンジェリスト 松本国一氏を講師に招き、デジタルを活用した企業の成長事例の紹介や、セミナー参加者がすぐに実践できるDXを推進するためのメソッド等について講演を行った。講演後には、参加者によるソロワークを行い、自社が客に提供している「価値」を再確認するとともに、本校との産学連携によってどのような新しい価値を創造できるか検討を行った。参加者からは、「具体例が多くDXを身近に

感じられた。」、「ワークを通して自社理解を深めるきっかけになった。」という感想が寄せられた。また、本校産学連携コーディネーターによる本校の産学連携活動の紹介も行った。



セミナーの様子

#### 3. 自己評価

各教員の研究成果は研究紀要や地域連携研究推進センター報、研究業績公開Webサイト、各種イベントにより外部に公開されている。地域産業界等との連携を目的とした地域連携研究推進センターは、教員の研究の支援を通じて、共同研究、受託研究、技術相談等の受入れを推進し、それが機能している。また、科学研究費の採択率を向上させるための学内査読や教員の研究費を支援する制度があり、有効に機能している。研究成果の知的財産化を促進するために「知的財産委員会」も整備されている。共同研究、受託研究等の受入件数、技術相談件数、および科学研究費の採択件数など、いずれも全国国立高専に引けを取らないレベルにある。また「運営会議」、「評価対応委員会」等により、教育研究活動等の状況が点検・評価するシステムが構築され、適正に機能している。

これらのことから、高等専門学校の研究を推進するための実施体制及び支援体制、さらには、研究活動等の実施状況や問題点を把握し改善を図っていくための体制が整備され、研究の目的に沿った活動の成果が上げられている。

## XI 外部資金受入状況

## XI 外部資金(科研費、共同研究、受託研究)受入状況

#### 1. 現状

高専機構は、平成26年度に研究推進・産学連携本部を立ち上げ、外部資金獲得活動の加速的推進をミッションとして捉え、獲得に向けた恒久的仕組みの構築を各高専に求めてきた。本校では、平成25年度に地域連携推進センターを設置、平成31年度より地域連携研究推進センターと改名し、高専教員及び技術職員が企業の技術相談に当たる定期技術相談会(月2社)を開催している。毎月実施の定期技術相談会、企業懇談会及び不定期の技術相談を起点とし、外部資金の獲得に繋げている。

## 沖縄工業高等専門学校地域連携研究推進センター規則(抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校学則(平成16年学則第1号)第11条の 4第2項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校地域連携研究推進センター(以下 「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、沖縄工業高等専門学校(以下「本校」という。)における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資することを目的とする。

(業務)

- 第3条 センターは、校長の命を受け、次の各号に掲げる業務を行う。
  - (1) 企業等との共同研究及び受託研究に関すること。
  - (2) 企業等からの技術相談に関すること。
- (3) 企業等の技術者に対する技術教育及び研修に関すること。
- (4) 校内及び大学・研究機関等との共同研究及び連携に関すること。
- (5) 戦略的研究活動の推進に関すること。
- (6) 研究成果の公表に関すること。
- (7) 知的財産に関する教育活動及び啓発活動に関すること。
- (8) 職務発明等の知的財産の内容評価及び権利化の手続きに関すること。
- (9) 知的財産の管理・運用に関すること。
- (10) 講習会、セミナー、社会人への教育開放事業の実施に関すること。
- (11) その他地域社会との連携・交流の推進に関すること。

## 2. 取組

## ◇外部資金受入状況(令和6年1月1日現在)

単位:円

区分		令和3年度		令和	14年度	令和5年度		
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	
基盤研究	研究代表	0	0	0	0	0	0	
(S)	研究分担	0	0	0	0	0	0	
基盤研究	研究代表	0	0	0	0	0	0	
(A)	研究分担	1	1,300,000	1	1,170,000	1	650,000	
基盤研究	研究代表	3	10,400,000	3	5,200,000	3	5,200,000	
(B)	研究分担	2	455,000	4	1,326,000	1	260,000	
基盤研究	研究代表	12	14,573,000	13	13,159,250	9	9,314,500	
(C)	研究分担	7	1,560,000	7	2,528,500	6	2,567,500	
挑戦的萌芽	研究代表	1	910,000	0	0	1	2,210,000	
7九年以中) 7十	研究分担	0	0	1	260,000	1	910,000	
新学術領域	研究代表	0	0	0	0	0	0	
利子附頂級	研究分担	0	0	0	0	1	1,222,000	
国際共同 研究加速	研究代表	0	0	0	0	0	0	
基金	研究分担	1	650,000	0	0	0	0	
若手研究		5	7,410,000	4	5,200,000	2	2,860,000	
研究活動スタート支援		0	0	0	0	1	1,430,000	
ときめき☆サイエンス		0	0	0	0	0	0	
計		32	37,258,000	33	28,843,750	26	26,624,000	

単位:円

区分	令和3年度		令和	14年度	令和5年度		
A27	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
共同研究	14	7,202,973	18	8,191,500	10	6,544,000	
兴时明九	8	3,015,973	8	4,446,000	6	4,034,000	
受託研究	7	14,189,189	10	46,429,899	7	31,770,992	
文化研究	5	7,039,189	5	11,306,899	4	6,151,112	
寄附金	8	6,262,640	5	2,989,860	10	8,196,591	
#1 h11 775	4	2,592,640	4	2,860,000	5	3,002,500	
預かり助成金	4	3,280,000	7	15,246,000	5	5,720,000	
[現747時][成並	0	0	0	0	0	0	
受託事業	2	12,810,000	1	11,442,200	2	23,000,900	
又礼于未	1	10,435,000	1	11,442,200	1	13,000,900	
計	35	43,744,802	41	84,299,459	34	75,232,483	
pΙ	18	23,082,802	18	30,055,099	16	26,188,512	

※下段は県内機関・企業分

## 令和4年度産学官連携活動状況実績報告 (通年分)(順位)

研究推進課

f	N.	42	150	a 1
Ł	330	TT.	190	

(単位:千円)

(参考)教員1人当たり額

【獲得報	DIN) (	単位:千円)	(参考	)		(参考	け)教員1人当たり	額
総計			科研剪	(直接経費)		総計名	1/枚員数	
順位	金額	高專名	位	金額	高專名	順位	金額	高專名
1	303,203	長岡	1	52,410	仙台	- 1	4,091	阿南
2	245,440	阿南	2	45,530	香川	2	4,043	長岡
3	240,768	富山	3	38,584	石川	3	3,090	沼津
4	225,581	沼津	4	34,760	福井	4	2,611	福島
5	211,634	仙台	5	33,590	大分	5	2,263	関
6	185,393	福島	6	33,180	豊田	6	2,229	富山
7	141,690	北九州	7	31,895	富山	7	2,221	沖縄
8	131,270	<b>-</b> M	8	28,708	秋田	8	2,116	仙台
9	119,924	沖縄	9	27,670	長岡	9	1,941	北九州
10	106,509	뺙	10	27,530	小山	10	1,902	맦
11	104,707	長野	- 11	26,880	有明	-11	1,810	佐世保
12	103,170	佐世保	12	26,595	沖縄	12	1,697	大分
13	101,902	有明	13	26,374	東京	13	1,668	旭川
14	101,820	石川	14	25,670	長野	14	1,562	舞鶴
15	101,791	大分	15	25,435	熊本	15	1,457	鳥羽
16	101,460	豊田	16	25,400	函館	16	1,454	長野
17	99,754	奈良	17	25,161	呉	17	1,425	明石
18	99,230	鈴鹿	18	23,050	鳥羽	18	1,415	有明
19	97,081	熊本	19	22,418	木更津	19	1,409	豊田
20	96,720	旭川	20	22,253	鶴岡	20	1,395	石川
21	95,690	香川	21	21,166	奈良	21	1,393	徳山
22	93,635	苫小牧	22	19,890	松江	22	1,385	奈良
23	91,841	福井	23	19,819	岐阜	23	1,378	鈴鹿
24	90,801	松江	24	18,850	福島	24	1,377	苫小牧
25	88,583	小山	25	18,805	苫小牧	25	1,340	大島
26	85,031	米子	26	18,240	佐世保	26	1,335	松江
27	81,062	東京	27	17,065	一関	27	1,276	福井
28	78,396	明石	28	17,020	創路	28	1,255	鶴岡
29	78,122	舞鶴	29	16,930	鈴鹿	29	1,252	秋田
30	77,232	鳥羽	30	16,114	旭川	30	1,232	米子
31	76,568	鶴岡	31	15,910	八戸	31	1,230	小山
32	75,202	徳山	32	15,300	米子	32	1,179	高知
33	74,978	函館	33	14,750	久留米	33	1,158	東京
34	73,841	秋田	34	14,680	新居浜	34	1,119	函館
35	69,671	大島	35	14,395	阿南	35	952	岐阜
36	68,562	岐阜	36	13,600		36	938	香川
37	68,362	高知	37	13,500	都城	37	927	新居派
38	63,942	新居浜	38	11,590	徳山	38	912	宇部
39	61,991	宇部	39	11,520		39		和歌山
40	59,244		40	11,350		40	875	
41	57,890		41	11,177		41	864	
42	53,363	群馬	42	11,100		42	846	鹿児島
43	53,197		43	9,420	津山	43	790	八戸
44	49,833	和歌山	44	9,220	広島	44	731	群馬
45	46,629		45	9,175		45	709	木更油
46	40,969	都城	46	8,370	大島	46	683	都城
47	36,157	茨城	47	8,270	弓削	47	671	広島
48	35,826	釧路	48	7,670		48	535	創路
49	34,872		49	6,431		49	523	津山
50	32,426		50	5,150		50	502	茨城
51	20,705	弓削	51	4,510	舞鶴	51	414	弓削

<sup>・</sup>教員1人当たり順位は小教点以下までの金額で算出

<sup>・</sup>教員数については、令和5年5月1日現在

<sup>・</sup>寄附金の件数と金額:使途「研究助成」以外の経費も含む

<sup>・</sup>上記順位表は、本部分除く

#### ◇地域連携コーディネーターの配置

本校は地域連携コーディネーターを配置し、産学連携協力会会員企業を中心とした連携構築から非会員企業との連携へも幅の広がりを見せている。地域連携コーディネーターを中心に積極的に技術相談を受け入れるとともに、新たな事業展開を図る。

#### ◇技術相談会の実施

本校では、企業等における技術的な課題を解決するため、本校の有する研究成果や技術的知識を広く活用した技術相談会を実施している。相談者に対する技術的な課題解決に向けての支援及び相互の研究開発等の活性化を図るための技術指導・助言や情報交換を行っており、相談者と本校の共同研究に発展するものや、相談者が抱える課題を本校で実施する授業等のテーマとして取り上げ、学生が課題解決に取り組むものもある。

※令和5年度技術相談件数:28件(令和6年1月1日現在)



本校での技術相談



工連会議室での定期技術相談

#### ◇ 科学研究費助成事業説明会

教職員の研究に対する意識向上や外部資金獲得の必要性の認識を強化し、科研費申請 促進を目的とした科学研究費助成事業説明会を開催している。

令和5年度は、下記日程により説明会を開催した。

・8月21日~9月1日 校長による教員、技術職員対象の個別説明会

#### 3. 自己評価

共同研究、受託研究、寄付金及び受託事業等外部資金の獲得に積極的に取組んではいるものの、年々獲得額が減少している。今後は、企業等との連携を図ることにより、外部資金の獲得、事業の展開、及び地域貢献の発展へ繋げるとともに、競争的資金の獲得額増加に向けて、積極的な研究助成情報の発信、若手研究者の研究活動の支援、高専機構KRAとの連携等に取り組む。

また、科学研究費補助金については、教員間による申請書の査読を推進し、校長による説明会を実施することにより、科研費獲得額が向上している。今後も引き続き査読等を実施し、科研費採択率の向上を図っていく。このように、必要な研究体制及び支援体制は整備され、機能している。

## XII 正規課程の学生以外に対する 教育サービスの状況

#### XII 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

#### 1. 現状

◇正規課程の学生以外に対する教育サービスの目的

本校の正規課程の学生以外に対する教育サービスの目的は、以下に示すとおりである。

- [1] 本校における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資する。
- [2] 出前授業、生涯学習などを通して、本校での教育・研究の成果を社会に還元すると ともに、本校の教育・研究活動に関する情報を積極的に地域に発信する。
- [3] 外国人研修生(短期留学生を指し、長期留学生を除く。)を計画的に受け入れることにより、国境を超えて地球規模の課題に取り組む国内外のグローバル人材の育成を支援する。

上記[1]の目的を達成するために、本校に地域連携研究推進センター及び国際共同研究 推進センター、又、グローカル連携推進センターを設置している。

地域連携研究推進センターは、それまでに設置されていた地域連携推進センターを改編し、より研究推進体制を強化することを目的として、平成31年4月に新センターとして設置された。新センター設置に際しては、センター業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」、「知的財産部門」を設け、より機動的に活動できる組織体制とし、さらに地域社会・産業界との協力体制を強化すべく、より緊密な連携を図っている。地域連携研究推進センターでは、正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、①企業等からの技術相談、②企業等の技術者に対する技術教育及び研修を計画し、推進している。

これらの社会との連携や地域社会に対する教育サービスに関する情報については、サービスを提供する対象者に向けて、沖縄工業高等専門学校産学連携協力会総会、沖縄高専フォーラム、沖縄工業高等専門学校後援会総会等を通じて情報発信するとともに、本校ウェブサイトでも公開している。

国際共同研究推進センターは、本校の教職員及び学生の国際共同研究と国際学術交流を 推進し、その成果としての国際共著論文執筆に必要なサポートを行うことを目的として、 令和4年3月に多文化共生・国際交流推進本部内の新センターとして設置された。

国際共同研究推進センターでは、正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、 ①教職員及び学生の国際共同研究と国際学術交流のサポートを計画し、推進している。

センターの活動や成果、社会との連携や地域社会に対する教育サービスに関する情報については、本校ウェブサイトへ公開し情報発信している。

グローカル連携推進センターは、地域でグローバルな視野及びローカルな視点をもって 沖縄県の地域住民に本校の教育環境を公開・提供、小中学校の教育向上と科学技術向上を 推進し、次世代の技術者を育てることで地域貢献を行うことを目的として、令和4年3月 に多文化共生・国際交流推進本部内の新センターとして設置された。

グローカル連携推進センターでは、正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、 ①イベントの実施を計画し、推進している。

センターの活動や成果、社会との連携や地域社会に対する教育サービスに関する情報については、本校ウェブサイトへ公開し情報発信している。

上記[2] の目的を達成するために、本校に広報センター及びグローカル連携推進センターを設置している。

広報センターは平成31年4月に設置され、保護者や地域住民など関係機関等に対して 本校を正しく理解してもらうための広報活動を積極的に推進している。

広報センターでは、正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、①本島中部地区、南部地区及び離島での体験教室の実施、②各中学校を訪問し学校説明会を計画し、推進している。

グローカル連携推進センターでは、正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、 ①講習会、セミナー、公開講座等の生涯学習講座の開設、②社会人への教育開放事業の実施、③IT 教材など教材開発等の協力を計画し、推進している。

上記[3]の目的を達成するために、本校では、外国の大学等からの学生の受入れ、また 外国の大学等への学生の派遣支援を目的として、留学生センター及び日本語・日本文化教 育センターを設置している。

留学生センター及び日本語・日本文化教育センターは、それまでに設置されていたグローバル交流推進センターの機能強化や機能拡大を目的として、令和4年3月に多文化共生・国際交流推進本部内の新センターとして設置された。

留学生センターでは正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、①外国人研修 生の受入れを計画し、推進している。

外国人研修生に対する教育サービスに関する情報については、留学生センターの年度計画に基づき本校ホームページを活用しての情報発信や九州沖縄地区9高専連携事業(文部科学省大学改革推進等補助金:平成24~28年度)以降の受入れプログラムとして、九州沖縄地区の9高専が連携して効率的に情報発信している。

日本語・日本文化教育センターでは正規課程の学生以外に対する教育サービスについて、 ①外国人研修生に対する日本語・日本文化教育を計画し、推進している。

留学生の受入れに際しては国立高等専門学校機構等の幅広いネットワークを活用することで計画的、組織的に実施している。

また、定期的に本校教職員向けに国際交流に関する研修等を行い、本校の国際交流に関する環境の改善に取り組んでいる。

#### 2. 取組

#### 1) 地域連携研究推進センター

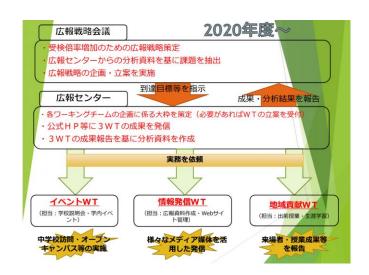
地域産業界を対象とする教育サービスは、主として技術相談、共同研究、受託研究という仕組みを通して、継続的に実施している。この活動は、本校地域連携研究推進センターが地域産業界及び本校教職員と連携して計画、実行、報告、改善しており、これらの内容については本校ウェブサイトや地域連携研究推進センター報などを通じて広く公開している。

技術相談は毎月の定期開催および企業等の依頼に基づく随時開催にて実施しており、相談件数の増加や外部資金獲得につながり、地域産業界との連携と人材育成の強化を推進できている。これらの教育サービスは「地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献する。」という目的に対する成果を着実に上げていると判断できる。



#### 2) 広報センター

地域人材を対象とする教育サービスは、主として出前授業という仕組みを通して、継続的に実施している。これらの教育サービスの内容は本校ウェブサイトや SNS などを利用して広く情報発信を行っており、年間を通じて地域の小中学校や教育委員会との連携下、数多くの教育サービスが計画的に展開されている。また、実施内容としては、主に、中学生を対象とした自然や科学に対する興味を引き出し、本校の教育・研究活動を周知していき、入学志願者の増加を目的としており、着実に志願者の増加につながっている。



#### 3) 多文化共生·国際交流推進本部

多文化共生・国際交流推進本部では、以下の4センターの活動を取り纏めの上、正規過程の学生以外に対する教育サービスを総合的に展開している。

#### ①留学生センター

本校の学生の海外への派遣及び、海外からの外国人研修生(短期留学生)受入事業を推進し、本校における学生の国際交流を推進する等の取り組みを通して、継続的に外国人研修生を対象とする教育サービスを推進している。

外国人研修生の受入れに際しては本校ホームページや海外教育機関と本校教員間の人的ネットワーク等を活用するとともに、九州沖縄地区9高専間の連携し計画的、組織的に推進している。また、学生の海外への派遣及び海外からの外国人研修生の受入れの体制作りとして、各種留学プログラムの情報収集を行い、今後本校の学生や海外の大学等に向け情報提供を行うことを予定している。

#### ②日本語・日本文化教育センター

留学生(外国人研修生及び長期留学生を含む)に対する日本語・日本文化教育(学修支援を含む)を行い、日本人学生及び地域住民や他高専、大学生等との交流促進を行う等の取り組みを通して、継続的に外国人研修生を対象とする教育サービスを推進している。

留学生の受入れに際しては国立高等専門学校機構等の幅広いネットワークを活用する ことで計画的、組織的に実施している。

また、定期的に本校教職員向けに国際交流に関する研修等を行い、本校の国際交流に関する環境の改善に取り組んでいる。

#### ③グローカル連携推進センター

地域でグローバル・ローカルな視点をもって沖縄県の地域住民に本校の教育環境を公開・提供、小中学校の教育向上と科学技術向上を推進すること等の取り組みを通して、地域人材を対象とする教育サービスを推進している。

また、実施内容としては、小中学生を対象とした自然や科学に対する興味を引き出す 内容等の出前授業を行うことや地域の集まりに参加し、本校として協力できることを聴 取する取り組みを実施している。 昨年度の発足時より推進してきた地域の教育機関等との連携を基に、出前授業の実施 や地域の集まりへの参加等を行い、よりよい教育サービス提供に向け、活動を推進して いる。

#### ④国際共同研究推進センター

本校教職員と学生の国際共同研究と国際学術交流を推進し、その成果としての国際共 著論文執筆に必要なサポートを行う等の取り組みを通して、地域産業界を対象とする教 育サービスを推進している。

主として技術相談、共同研究、受託研究という仕組みを通して、継続的に実施している。この活動は、本校国際共同研究推進センターが海外の研究機関及び本校教職員と連携して計画や実行する予定であり、これらの内容については本校ウェブサイトを通じて広く公開することとしている。

令和4年度の発足以降、国立自然科学博物館(台湾)と学術交流に関する協定を締結し、本校と協定締結機関による共同研究の実施に寄与してきた。今後も海外の研究機関等との共同研究や学術交流を推進し、よりよい教育サービスの提供に向けた取り組みを行う。

## i) 令和5年度沖縄工業高等専門学校体験授業の実施

令和5年12月2日(土)に環金武湾振興協議会主催によるうるま市、金武町、宜野座村に居住する小中学生を対象とした体験授業を本校で実施した。本イベントは小中学生を対象に、本校が提供する体験授業を実施することにより、地域に住む子供多たちに科学や工学への興味を持たせ、人材育成を行うことで、将来的な地域振興につなげることを目的としたものであり、事前申し込みとした講座は定員を超過する講座もあり、小中学生に科学や工学の楽しさを伝えることができた。





### 令和5年度の出前授業実績(令和6年1月31日現在)

No	日程	実施校等/主催	講座テーマ/事業名	参加人数	対象	講座担当
1	①7/29(±) ②8/12(±) ③8/19(±) ④8/26(±)	株式会社カヌチャ ベイリゾート	「楽しんで学ぼう!夏の自由研究 2023」 ①ペーパークロマトグラフアート ②土の中の生き物を観察しよう ③光るオリジナルのかわいいワッ ベン ④香りを作ろう	各20名	小学校高学年	①生物資源工学科 特命准教授 沖田 紀子 ②生物資源工学科 講師 萩野 航 ③情報通信システム工学科 教授 金城 伊智子 ④生物資源工学科 教授 嶽本 あゆみ
2	6/6(火)	久辺小学校	海の生き物観察	24名	小学3年生	生物資源工学科 特命准教授 沖田 紀子 生物資源工学科 教授 嶽本 あゆみ 生物資源工学科 特命助教 安田 直子 技術支援室 技術職員 白幡 大樹
3	7/5(水)	久辺小学校	海の生き物観察		小学4年生	生物資源工学科 特命准教授 沖田 紀子 生物資源工学科 講師 萩野 航 生物資源工学科 特命助教 安田 直子
4	8月12日(土) ~8月13日 (日)	QAB/沖縄コンベ ンションセンター	「QAB更休み子ども自由研究」 ①学校紹介(広報センター) ②英語の多読に慣れ親しむ ③石取りゲームと必勝法 ④フライトシミュレーター ⑤魚の画像認識に挑戦しよう ⑥観光・地域共生デザインコース 紹介 ⑦光るワッペンづくり ⑧ホタルとウミホタルが光るひみ つ ⑨イチゴの香りを作ってみよう ⑩ブログラミング体験		小学1年生~ 中学3年生	①情報通信システム工学科 教授 神里 志穂子情報通信システム工学科 教授 山田 親稔機嫌システム工学科 教授 真喜志 治 ②総合科学科 熱授 小池 寿俊 谷藤 正一 ③総合科学科 教授 小池 寿俊 谷藤 正一 ⑤情報通信システム工学科 教授 谷藤 正一 ⑥ メディア情報工学科 精師 仲間 祐貴 全物資源工学科 特命准教授 沖田 紀子 ⑦情報通信システム工学科 教授 沖田 紀子 ⑦情報通信システム工学科 教授 強城 伊智子 ⑧生物資源工学科 教授 選本 あゆみ ⑪機械システム工学科 教授 武村 史朗 ⑪メディア情報工学科 教授 金城 篤史
5	8月24日(木)	大道児童クラブ	ペットボトルロケット	30名		機械システム工学科 教授 武村 史朗
7	9月10日(日)	沖縄県公衆衛生協会	令和5年度子ども科学技術人材 育成事業	10名	中学1年生~ 中学3年生	生物資源工学科 准教授 田邊 俊朗
8	11月12日(日)	おきなわ建設フェ スタ実行委員会	第5回おきなわ建設フェスタ 体験教室「ロボット自動車のライントレース制御で学ぶ機械の自動制御技術」		小学5年生以 上	機械システム工学科 教授 安里 健太郎
9	11月23日(木・祝)	国際海洋環境情報センター (GODAC)	GODAC施設一般公開 ①岸壁の苔や藻の間に生息する 海洋ダニの顕微鏡観察 ②海岸漂流物を使ったアロマキャ ンドル作り		小中学生	①生物資源工学科 講師 萩野 航 ②技術支援室 技術専門員 藏屋 英介 ·技術支援室 技術職員 白幡大樹 ·生物資源工学科 特命准教授 沖田 紀子
10	12月2日(土)	うるま市産業政策 課(環金武湾振興 協議会)	令和5年度沖縄高専体験授業 ①ドローン操作体験 ②プログラミング体験 ③飛行機の形をデザインしてみよう ④いろいろな光の成分を観察し、 太陽電池で電気を作る ⑤薬を作る微生物	125名	小中学生	①メディア情報工学科 教授 タンスリヤボン スリョン ②メディア情報工学科 准教授 金城 篤史 ③機械システム工学科 准教授 森澤 征一郎 ④生物資源工学科 教授 濱田 泰輔 ⑤生物資源工学科 推教授 田邊 俊朗 ⑥情報通信システム工学科 教授 金城 伊智子
11	12月16日(土) 12月17日(日)		サイエンステックフェスin那覇 ①わくわく体験ブース「土の中の 生き物(土壌動物)を観察してみ よう」 ②ミニ科学プログラム「人工知能		①小学生 ②中高生	①生物資源学科 講師 萩野 航 ②機械システム工学科 教授 安里 健太郎
12	1月27日(土)	うるま市	<b>うるま市産業まつり</b> ①ドローンって何?操作体験してみない? ②モーターを使った工作教室 ③光るオリジナルのかわいいワッペン(テクノ小物)を作ろう!	28名	小学生	①メディア情報工学科 教授 タンスリヤボン・スリョン ②機械システム工学科 講師 赤嶺 宗子 ③情報通信システム工学科 教授 金城 伊智子

## ii) 留学生の名護市の小学校における交流

今年度は、名護市の複数の小学校の英語の授業に留学生達が参加する形で地域におけるグローバル人材の育成活動を行った。

多文化共生・国際交流推進本部では、今後も地域の皆様に向けて学校見学や出前授業を引き続き実施していく予定である。

#### 3. 自己評価

正規課程の学生以外に対する教育サービス活動については、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献することを目的として地域連携研究推進センターが設置され、生涯学習、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資することを目的として広報センターが設置されている。

地域社会との連携の下、技術相談、共同研究、委託研究を推進し、具体的な成果をあげている。特に技術相談は平成25年度以降、沖縄県工業連合会との定期的な打ち合わせや産学連携協力会理事会・総会での意見交換を踏まえ、それまでの都度開催から計画的な実施に改善することで、相談件数は増加している。これらの活動については本校ウェブサイトや地域連携研究推進センター報を用いた広報活動も積極的に行われ、地域社会に対して十分な情報を発信している。

今年度も、対面での出前授業などの実施が難しかったが、長期休業期間である春休みや夏休みなど、時期と感染対策などを徹底する事で、出前授業も実施可能であるという事が確認できた。出前授業のイベントは、3月の1回だけとなっているが、県内の感染者数の状況などを視野に入れながら、できる範囲でのイベントの実施を検討していきたいと考えている。うるま市、宜野座、金武の3市町村での出前授業や名護市公民館との連携も何度か協議を重ねてきたが、令和3年度でのイベント実施が実現できなかった。子供達だけでなくサイエンスに興味を持つ地域の皆様に対して、与えられた状況の中で、いかに教育サービスを提供していけるか今後もオンラインの活用とともに新しい出前授業の取り組みを模索する必要がある。正規課程の学生以外に対しても「沖縄高専の学び」を提供していく取り組みを行い、地域から信頼される教育の場としての沖縄高専にしていく事が求められている。

また、正規過程の学生以外に対する教育サービス目標を達成するため、総合的に実施できる組織として、多文化共生・国際交流推進本部が設置されている。

本校の教職員及び学生の国際共同研究と国際学術交流を推進し、その成果としての国際共 著論文執筆に必要なサポートを行う国際共同研究推進センター、地域でグローバルな視野及 びローカルな視点をもって沖縄県の地域住民に本校の教育環境を公開・提供、小中学校の教 育向上と科学技術向上を推進し、次世代の技術者を育てることで地域貢献を行うグローカル 交流推進センター、外国の大学等からの学生の受入れ、また外国の大学等への学生の派遣支 援を行う留学生センター、留学生(外国人研修生及び長期留学生を含む)に対する日本語・ 日本文化教育(学修支援を含む)を行い、日本人学生及び地域住民や他高専、大学生等との 交流促進を行う日本語・日本文化教育センターの4センターを総括しており、柔軟かつ実働 的に正規課程の学生以外に対する教育サービス活動を推進している。

今年度は新型コロナウィルスの感染症の感染状況や新組織として発足したばかりということもあり、明確な目標達成ができなかったが、正規過程の学生以外に対するよりよい教育サービス提供に向け、態勢を再確認し、不足部分を補うための補充・改善を試みた。

以上のように、本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスは、地域連携研究推進センター、広報センター及び多文化共生・国際交流推進本部が中心となって計画、実施、改善する学内実施体制が整っており、これらの計画や取組結果は主として本校ウェブサイトを通じて地域社会に公開されている。また、これらの教育サービスの利用者に関する状況も、実施回数ならびに参加者数の観点から地域社会の期待に応えていると判断できる。

# XII 管理運営

#### XⅢ 管理運営

## 1. 現状

本校の目的を達成するため、校長のリーダーシップの下に校務を担当する副校長 及び主事を置き、その責務を遂行すべく、学則にその役割について明確に規定され ている。

令和2年度からは、副校長及び主事の役割と責任をより明確にして執行部体制を 強化し、円滑な学校運営を図るため、総務主事、教務主事に加えて学生主事及び寮務 主事を副校長として任命した。また、情報ネットワーク・情報セキュリティ管理体制 を強化するため、情報処理センター長を新たに副校長(特命・IT担当)に任命し、副 校長6名体制とした。さらに、本校の経営戦略、将来構想等の重要事項に関する協議 を行うため、校長、副校長及び事務部長で構成するトップミーティングを設置し、毎 月2回開催して執行部の情報共有・連携を密にしている。

令和3年度においては、本校の学生及び教職員の国際交流並びに留学生交流を推進し、本校の国際教育の充実及び国際研究力の向上を図るとともに、地域のグローバル化に資することを目的に、令和4年3月1日付けで「多文化共生・国際交流推進本部」を組織し、本部内に学内組織として新たに「日本語・日本文化教育センター」「留学生センター」「グローカル連携推進センター」「国際共同研究推進センター」を設置した。

沖縄工業高等専門学校多文化共生・国際交流推進本部規則(抜粋)

(目的)

第2条 推進本部は、沖縄工業高等専門学校(以下「本校」という。)における学生及び教職員の国際交流並びに留学生(派遣・受入)交流を推進し、本校の国際教育の充実及び国際研究力の向上を図るとともに、地域のグローバル化に資することを目的とする。

(業務)

- 第3条 推進本部は、次の各号に掲げる業務を行う。
  - (1) 留学生の日本語及び日本文化教育に関すること
  - (2) 留学生相談員 (チューター) に関すること
  - (3) 学生の海外派遣、国際交流事業に関すること
  - (4) 海外からの短期留学生受入れに関すること
  - (5) 地域のグローカル人材育成及び生涯学習の支援に関すること
  - (6) 出前講座・公開講座等による地域貢献に関すること
  - (7) 研究者の国際交流事業に関すること
  - (8) 国際共同研究に関すること
  - (9) 前各号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な業務
- 2 推進本部は、前項に規定する業務のほか、各学科等が行う国際交流活動を支援し、その推 進を図るものとする。

また、令和4年度に執行部体制を見直し、副校長及び主事のそれぞれが担う役割を分離することで、求められる・必要とされる能力等を最大限効果的に活かして学校運営を実行していくこととした。

### 沖縄工業高等専門学校学則(抜粋)

(副校長)

第8条 本校に、次の各号に掲げる校務を担当する副校長を置く。

- 一 総務・教育・入試
- 二 学生・キャリア支援・寮務
- 三 研究・産学連携・国際交流
- 2 前項の規定にかかわらず、校長が必要と認めた場合は、特命担当の副校長を置くことができる。
- 3 副校長は、校長の命を受け、校長を補佐するとともに、必要に応じて校長の代理を務める。

(略)

(主事)

- 第9条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。
- 2 教務主事は、校長の命を受け、副校長(総務・教育・入試担当)の指示に従い、教育計画 の立案その他教務に関することを掌理する。
- 3 学生主事は、校長の命を受け、副校長(学生・キャリア支援・寮務担当)の指示に従い、 学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。
- 4 寮務主事は、校長の命を受け、副校長(学生・キャリア支援・寮務担当)の指示に従い、 学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

さらに、令和5年度には沖縄の地理的特性を生かし、高専機構における国際交流 の拠点校となるにあたり、執行部体制を見直し、国際交流を担当する副校長を新た に任命した。

#### 沖縄工業高等専門学校学則 (抜粋)

(副校長)

第8条 本校に、次の各号に掲げる校務を担当する副校長を置く。

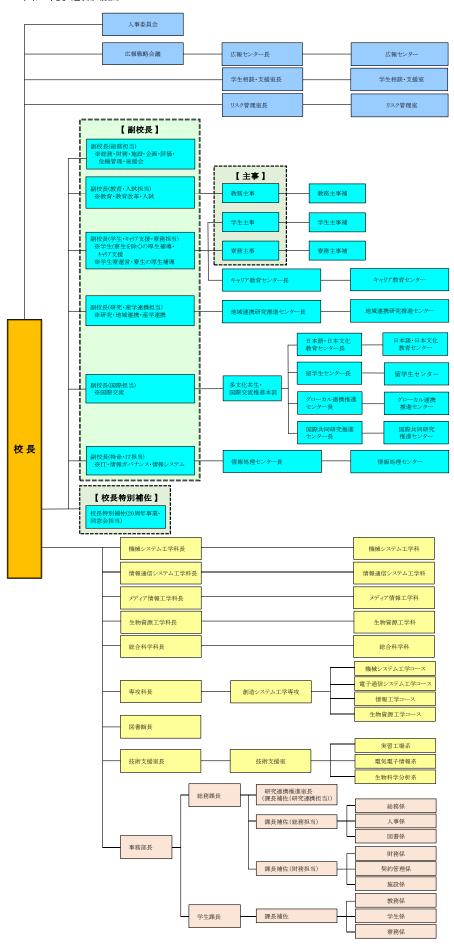
- 一 総務
- 二 教育・入試
- 三 学生・キャリア支援・寮務
- 四 研究・産学連携
- 五. 国際

学内組織として、校長の下に専攻科長、各学科長、図書館長、技術支援室長、広報センター長、学生相談・支援室長、リスク管理室長を置き、また、所掌する副校長の下にキャリア教育センター長、地域連携研究推進センター長、多文化共生・国際交流推進本部長、情報処理センター長を置き、それぞれの組織における管理・運営に携わっている。

#### 2. 取組

本校の管理運営に関する諸問題、各種委員会等で審議・検討された事項は、運営会議で審議・協議を行い、校務の円滑なる運営を図っている。

#### 令和5年度 運営組織図



沖縄工業高等専門学校運営会議規則 (抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校運営組織規則第11条第2項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校(以下「本校」という。)の運営会議の運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 運営会議は、校長の諮問に応じ、本校の管理運営に関する諸問題について検討し、校務 の円滑なる運営を図ることを目的とする。

(審議事項)

- 第3条 運営会議は、次に掲げる事項を審議する。
- (1) 教育研究組織の設置・改廃に関すること
- (2) 学則その他重要な規則の制定・改廃に関すること
- (3) 入学者選抜に関すること
- (4) 教育研究の改善に関すること
- (5) 予算に関すること
- (6) その他、本校の管理運営に係る重要事項に関すること

(構成員)

- 第4条 運営会議の構成員は、次の各号に掲げる者とする。
  - (1) 校長
  - (2) 各副校長
  - (3) 各学科長
  - (4) 専攻科長
  - (5) 事務部長

(議長)

- 第5条 運営会議は、校長が招集し、その議長となる。
- 2 議長に事故あるときは、前条第2号の構成員のうちあらかじめ議長が指名する者がその職務を代行する。

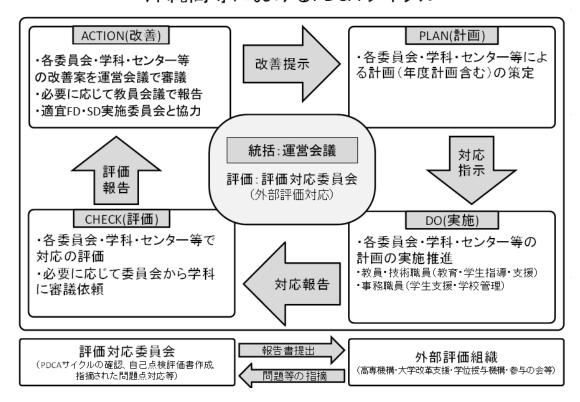
(開催)

第6条 運営会議は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

本校の管理運営、教育研究活動等に対する自己点検・評価は、学内の各組織(学科、センター、委員会など)において、中期計画やこれまでの改善点に基づき、PDCA サイクルシートの作成及び点検作業が行われている。

また、上述に加え、本年度は学校全体の PDCA サイクルを整備し、今後も本校の教育研究活動の改善を継続的に行っていくこととした。

## 沖縄高専におけるPDCAサイクル

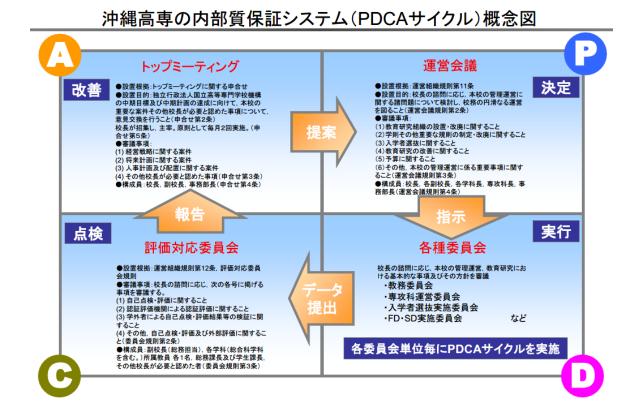


### PDCA サイクルチェックシート

## ◎本科・専攻科・委員会等の取り組み

## 次期への引き継ぎ事項

						OWN TO SICHECTS
		業務(行動)計画 (plan)	実施(Do)状況	検証(Check)	改善(Action)	業務(行動)計画(plan)
学科·專政科·委員会名	学科委育方針及び委員会等書題(任務)事項	(通し番号) 計画の概略(中期目標・計画、 認証評価の該当する各目標の番号を示す)	施時期、主なエピデンスとなる資料名を記 入。	結果、検証時期時期および主なエピデンスと なる資料名を記入。	(通し番号) 検証に基づく改善案の概要、改善検討時期および主なエピデンスとなる資料 名を記入。	
		<ul> <li>達成時期(達成時期または改善すべき時期を示す。)</li> <li>主なエピデンスとなる資料名を記入。</li> </ul>	1つの計画で複数の試みを実施した場合は、 主な取り組みのいくつかを示してください。	1つの計画で複数の検証を実施した場合は、 主な検証のいくつかを示してください。	1つの計画で複数の改善を実施した場合は、 主な改善のいくつかをを示してください。	<ul><li>主なエピデンスとなる資料名を記入。</li><li>各計画には適し番号を付けてください。</li></ul>
		各計画には通し番号を付けてください。				
評価対応委員会	審議事項 (1) 自己点検・評価に関すること (2) 認証評価機関による認証評価に関すること (3) 学外者による自己点体・評価結果等の参証に関すること (4) その他、自己点検・評価及び外部評価に関すること					
	担当業務 (1)自己点検評価報告書の作成 (2)POCAサイクルチェックシートによる実施状況の把握 (3)成検評価資料の発存状況の確認 (4)学習達成度点報システムの検討					



#### 3. 自己評価

学校の目的を達成するために、校長のリーダーシップの下、管理運営が行われており、それを補佐する副校長は校長の命を受けて定められた業務を行っている。専攻科長、各学科長、図書館長、各センター長等は、それぞれの組織における管理・運営に携わっている。校長は、管理運営に関する諸問題、校務の円滑な運営を図るために、トップミーティング、運営会議、各種委員会等に諮問し、最終的に効果的な意志決定が行える態勢になっている。自己点検・評価、外部評価が本校の活動の総合的な状況に対して行われ、評価結果は、報告書としてまとめられ公表されている。したがって、学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備されており、適切に機能している。

今後の本校の管理運営については、時代に適応した校務の運営を図るには、会議、委員会等を統廃合して組織を縮小し、審議事項の整理・集約、構成員を見直すことによる 審議の迅速化、教員の業務軽減等をさらに図る必要性があると考える。